

いしかり砂丘の風資料館 紀要

第 14 卷

BULLETIN OF THE ISHIKARI LOCAL MUSEUM

Volume 14

August, 2024

いしかり砂丘の風資料館 紀要

第 14 卷

目次

報告

- 志賀 健司：石狩湾東部望来海岸で発見されたウマの歯 …1
- 坂本 恵衣：石狩市内の神社分布 (1) 【旧石狩市域】 …7
- 荒山 千恵：令和 5 年度テーマ展「漂着物の考古学」開催報告 ―石狩川河口周辺・石狩浜に
みられる漂着遺物を対象とした今後の考察に向けて― …15
- 志賀 健司：石狩市浜益における“ルツツ”(ユムシ, *Urechis unicinctus*) の漂着の記録 …21
- 石橋 孝夫：石狩市浜益区^{おかしま}岡島にある「チャシ地名」と「チャシ」に関する一般調査の概要 …25
- 石橋 孝夫：調査ノート 石狩市浜益区「黄金山」とはどのような山か …43
- 川井 唯史・栗林 貴範：石狩市厚田区のコンブ藻場における秋季の流入河川の影響 …55
- 内藤 華子：石狩海岸で発見したスナガニに関する報告 …61

資料

- 荒山 千恵：「絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額」について …65

記録

- 坂本 恵衣：いしかり砂丘の風資料館の 20 年間 …69



石狩湾東部望来海岸で発見されたウマの歯

A horse tooth found on Morai Beach,
eastern coast of Ishikari Bay, Hokkaido, Japan.

志賀 健司^{*}
Kenji SHIGA^{*}

要 旨

石狩湾沿岸でウマの歯の漂着が確認された。歯は上顎第2前臼歯で、地質時代の化石か近世以降の現生馬のものかは、現時点では不明である。

キーワード：馬の歯，漂着物，化石，江戸時代，厚田

はじめに

2023年7月，石狩湾東岸の望来海岸（石狩市厚田区）で，ウマの歯の漂着が確認された。

ウマの歯の漂着は beach comber（漂着物愛好家）の間ではよく知られており，本州各地の海岸で採集情報がある。由比ヶ浜（神奈川県鎌倉市）が特に有名で，鎌倉時代の騎馬や農耕馬の死体が起源ではないかと考えられている（山田，2003；芝田，2008 など）。

ウマは哺乳綱奇蹄目（ウマ目）ウマ科の大型陸生動物で，新生代古第三紀始新世の初期（約5600万年前）に *Hyracotherium* 属が北アメリカ大陸で発生し，第四紀更新世（258万年前以降）になってベーリング地峡を経由してユーラシア大陸に入ってきたと考えられている（近藤，2001；Busby and Rutland, 2019 など）。

日本列島では同時期からウマ類化石が産出するようになる（宮崎・三島，1981；高橋・岡村，1997 など）が，更新世末（約1万2000年前）以

降は化石の産出はなく，その後は古墳時代になってから人為的に大陸から持ち込まれたと考えられている（近藤ほか，1994；尾崎，2014 など）。北海道ではウマ化石は産出しておらず，15世紀頃の道南地方の遺跡から出土した骨が北海道最古のウマ記録とされている（西本，1983）。

北海道石狩湾沿岸でウマの歯が発見されたことは，もしも化石であれば生物地理や古環境の面で，あるいは人為的な現生馬のものであれば道央地域の中世～近世史に，新たな知見をもたらすことになる。

^{*} いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

採集地と発見の状況

採集地は樺戸山地南部が日本海に接する地域で、幅が数mの狭い砂浜・礫浜である(図1)。背後の海食崖には、新第三紀中新世後期～鮮新世前期の硬質頁岩、泥岩、細粒砂岩の露頭が続いている(対馬ほか, 1956)(図2)。二枚貝 *Calyptogena* spp. を始めとする海生動物化石が多産する(Amano, 2003)ことで知られている。露頭の上部は段丘堆積物として第四紀更新世の砂礫層に覆われている。

歯は、夏休みの小中学生を対象とした野外観察会で参加者の1人の小学生が発見した。著者に見せられたのが発見直後ではなく観察会終了間際で海岸を離れた後だったため、正確な産出地点や産状の情報は得られなかったが、当日の活動内容や状況から、露頭からの転石もしくは汀線付近の海底の露頭起源の漂着物と考えられた。



図1. ウマの歯の採集地点。



図2. 望来海岸の露頭(新第三紀の堆積岩)。

観察結果

採集標本(図3)の歯本体は、表面は乳白色で滑らかな光沢をもち、硬度も高いことから、化石化はしておらずエナメル質が残されていると判断できた。歯根部は欠損している。歯冠長41mm、歯冠幅28mmで、欠損のため歯冠高は不明だが残存部の高さは71mmあった。咬合面はエナメル質と象牙質が複雑に入り込んだ「エナメル襞」(藤田ほか, 2006)を形成していることから(図4)、ウマ *Equus* sp. のものと同定された。また、咬合面の形状が長方形ではなく三角形であることから、左右それぞれで臼歯6本が接して並んでいる歯列の近心端もしくは遠心端に当たることがわかるので、第2前臼歯もしくは第3後臼歯と判断できる。歯冠幅や形状から、上顎右第2前臼歯と推定した(藤田ほか, 2006; 瀬戸口, 2014などを参考にした)。

歯冠表面の凹部には黄白色の付着物が見られる(図5)。側面の窪みで特に厚く、硬く固着しているが、カッターナイフで辛うじて削り取ることができる程度の硬度である。また、咬合面に近い側面(隣の奥歯と接する側)には、直径3mmの穴が空いている(図6)。穴の中は側面窪みと同様の黄白色の物質が充填されているように見える。

歯冠側面から切削採取した付着物試料に塩酸を

滴下したところ発泡反応を示さなかったことから、炭酸塩もしくはリン酸塩ではないことが確認された。過酸化水素水に投入した際には発泡はわずかしかなかったため、有機物が主体でもないことがわかった。この試料からスミアスライドを作成し予察的に光学顕微鏡で観察したところ、

碎屑物のような粒子とともに、火山ガラスを思わせる多孔質・スポンジ形状の粒子が多く含まれていることが確認された(図7)。珪藻などの微化石は見られなかったため、堆積岩かどうか、あるいは時代などの情報は今のところ得られていない。



図3. 採集されたウマの歯.



図5. 歯冠側面の黄白色の固結した付着物.



図4. 歯の咬合面. エナメル質と象牙質が入り込んでいる.



図6. 歯冠側面の穴. 直径約3 mm.

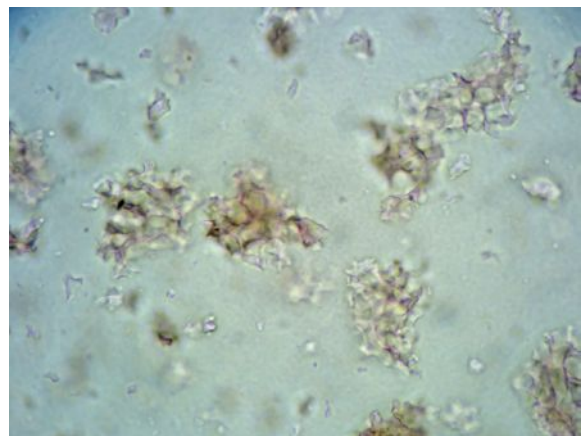


図7. ウマの歯表面の付着物の顕微鏡写真(400倍で撮影).

考察～望来のウマの歯の起源

ウマの歯の漂着は、これまで少ないながら北海道内でも確認されている。筆者にもたらされた私信の範囲ではあるが、本件と同じ望来海岸など石狩市厚田区で3件、同市浜益区、根室市温根沼、日高地方(地点不明)でそれぞれ1件ずつの採集情報がある。

先述のように北海道のウマは15世紀頃に和人によって持ち込まれたものが最初で、石狩市厚田区あたりに入ったのは江戸時代後半以降と考えられる。この望来のウマの歯も、同時期あるいは明治時代以降の開拓期の農耕馬などの歯と考えるのが自然ではある。だとすれば歯冠サイズが在来馬よりも1～2割ほど大きいことから、大型の外来の品種の歯の可能性を示唆している。

その一方で、歯の付着物は外見は採集地の露頭に見られる堆積岩に類似しており、鏡下で確認された火山ガラスも現地に露出する当別層(鮮新世前期)に多く含まれていることから、有史時代以前の化石である可能性も排除できない。最終氷期もしくはそれ以前には宗谷海峡は頻繁に陸化していたため大陸経由でウマが入ってきていることは十分に考えられる。この歯を目視観察した馬運搬業従事者からは、現在の生体のウマの歯には望来の歯に見られるような付着物は見られない、側面の穴も思い当たらない、との見解を得ている。あるいは、歯冠のエナメル質の襞が剥がれ、内部の象牙質が露出し風化した状態とも考えられる。

今後、この付着物の詳細な鏡下観察や成分分析、あるいは年代測定などを行うことによって、起源の解明につながると思われる。また、歯のエナメル質は硬組織の中でも最も硬く長期間残りやすいため、広く情報収集を進めれば道内の他地域でもウマの歯がさらに見つかることが期待できる。

謝辞：このウマの歯は石狩市内の匿名小学生から寄贈していただきました。工藤友紀さん、大参達也さん、澄川大輔さんからは北海道内のウマの歯漂着の情報を、三橋昂輝さんからは生体馬に関する知見をいただいた。名古屋大学博物館の新美倫子准教授からは歯の同定に際して助言をいただいた。長瀬のぞみさんには情報収集において多大な協力をいただいた。みなさまに感謝します。

引用文献

- Amano, K., 2003. Predatory gastropod drill holes in Upper Miocene cold seep bivalves, Hokkaido, Japan. *Veliger*, 46 : 90-96.
- Busby, D. and Rutland, C., 2019. The Horse : A natural history. *Princeton Univ. press*, London, 224pp.
- 藤田正勝・岡資子・藤田美美, 2006. 牛馬骨格図譜. 動物考古学の手引き(松井章 編), 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター, 152pp.
- 近藤恵・松浦秀治・中村俊夫・中井信之・松井章, 1994. “縄文馬”はいたか. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 5 : 49-53.
- 近藤誠司, 2001. ウマの動物学. 東京大学出版会, 197pp.
- 宮崎重雄・三島弘幸, 1981. 栃木県葛生町石灰岩採石場産のウマ(*Equus*)の臼歯の化石について. 地球科学, 35 : 87-90.
- 西本豊弘, 1983. 動物遺存体. 史跡 上之国勝山館跡 IV / 昭和 57 年度発掘調査環境整備事業概報. 上ノ国町教育委員会.
- 尾崎孝宏, 2014. 日本在来馬の歴史的変遷と現状. 鹿大史学, 59 : 15-28.
- 瀬戸口烈司, 2014. 奇蹄類(目). 歯の比較解剖学第2版(後藤仁敏編), 288pp. 医歯薬出版株式会社.
- 芝田英行, 2008. 鎌倉の馬の骨／漂着物を調べる. どうぶつ社, 119pp.
- 高橋啓一・岡村善明, 1997. 古琵琶湖層群から産出したウマ類上腕骨. 地質学雑誌, 103 : 391-393.
- 対馬坤六・垣見俊弘・植村武, 1956. 5万分の1地質図幅説明書「厚田」. 地質調査所.

山田海人, 2003. ウマの歯. 漂着物考／浜辺のミュージアム, INAX 出版, 72pp.

A horse tooth found on Morai Beach,
eastern coast of Ishikari Bay, Hokkaido, Japan.

Kenji SHIGA

Abstract

A horse tooth drifted on the beach along Ishikari Bay was collected and investigated. This tooth turned out to be upper second premolar. It is currently unknown whether this tooth is fossil in geological time or modern horse in historical time.

Keywords : horse tooth, driftage, fossil, *Edo* period, Atsuta

石狩市内の神社分布(1)【旧石狩市域】

Distribution of shrines in Ishikari City, Hokkaido, Japan (1)

【Former Ishikari City region】

坂本 恵衣*

Kei SAKAMOTO*

要 旨

北海道では和人が流入、定住する中で小祠・神社の創立が行われた。石狩市においても同様に創立された時代・祭神に着目し、北海道神社庁誌記載の神社を中心に、石狩市の内特に旧石狩地域について地域の特徴と神社分布との関連について調べた。その結果、「場所」が置かれた沿岸部、開拓移民によって農村が開かれた内陸部では創立の時期や祀られる祭神に差異が見られることがわかった。

キーワード：神社，旧石狩市域，開拓，漁村地域，農村地域

1. はじめに

北海道は江戸時代から明治時代（以下、開拓期）にかけて和人が流入し、定住及び現在の文化が定着していった背景があり、神社も幕末以降に形成されたものが多い。各神社の創立には移民の出身地での信仰や、開拓期の環境が関係していると推測される。本文では石狩市における神社分布と地域的な特色との関係について考察する。

なお、石狩市は旧石狩市域、厚田区（旧厚田村）、浜益区（旧浜益村）で形成されるが、地区ごとに和人の移入した経緯や街の形成過程に差異があるため、本文においては旧石狩市域に限定する。

2. 旧石狩市域について

石狩市は南を札幌市に隣接し、西側一帯が日本海に面する街である。旧石狩市、厚田村、浜益村が2005（平成17）年に合併し現在の石狩市となった。

石狩市の中で今回触れる旧石狩市域は幕末に「場所」が置かれることで和人の定住が進んだ日本海沿岸地域（以下、本町地区）と、開拓移民によって農村が開かれた内陸部で構成されている。

本町地区は行政上の区分ではなく一般には1871（明治4）年に設定された9町の内石狩川河口の左岸地域、石狩湾と石狩川に挟まれた7町のことを指す場合が多い。本町地区は場所が置かれた他、漁業や交易、商業でにぎわい、石狩の中心となった地域である。

内陸部は、地域ごとに移住元地域や時期は異なるが、ほとんどが開拓のために移住した人々で構成され、時代の変化に伴い畑作から水田や酪農等への遷移は見られるが農業を生業とした。

本町地区と内陸部では生業・和人の流入時期が異なるため、神社分布についてもこの2地域に分けて言及する。

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

3. 各地域の移民の流入時期と生業

旧石狩市域における移民の流入時期と生業については、各参考文献から代表的なものを抽出した(表1、図1)。

生業については前述したように、本町地区では場所の経営や漁業、商業が行われ、内陸部(樽川の一部を除く)では畑作や稲作、酪農を中心とした農業がおこなわれた他、八の沢地域では石狩油田の採掘のために人々が町を形成するようになった。

表1. 旧石狩市域における開拓移民の代表的な移住時期

地域	出身地	時期	主な生業, 事業
本町地区	—	17世紀	場所運営, 漁業, 商業
花畔	岩手県	1871年(明治4)年	農業: 酪農, 稲作
樽川	山口県	1885年(明治18)年	農業: 稲作, 酪農, (一部)漁業
南線	四国地域	1879年(明治12)年	農業: 畑作, 酪農
生振	宮城県	1871年(明治4)年	農業: 畑作, 稲作
	愛知県	1891年(明治24)年	
高岡(高岡)	山口県	1885年(明治18)年	農業: 稲作, 畑作
高岡(八の沢)	—	1903から1960年 (明治36から昭和35)年程	石狩油田

(石狩市教育委員会 文化財・博物館開設準備室編, 2001; 石狩市編, 2001; 石狩町編, 1985; 生振開村百二十年記念誌編集委員会編, 1992; 生振村愛知県団体開拓百年史編集委員会編, 1993; 河野本道, 2003; 高岡開基百年記念誌編集委員会編, 1984; 樽川地主会, 1977; いしかり砂丘の風資料館編(石狩ファイル)より)

※本町地区, 高岡(八の沢)については事業等に伴う移住のため出身地は省略した



図1. 移民の流入時期と場所の一例と神社分布 (国土地理院地図に加筆)
※地図は現在のものを使用し、示した地域については大まかな範囲を示している

4. 神社の分布について

今回取り上げた旧石狩市域の神社は「北海道神社庁誌 (北海道神社庁発行, 1999)」に記載され、

公的に登録されたもの, 及び「石狩の碑 (石狩市郷土研究会発行, 1987, 1988, 2006)」に記載された地図上で現存が確認できたものを対象とした。

表2. 旧石狩市域の神社一覧

	名称	場所	創立年	祭神	旧社格
1	石狩八幡神社	弁天町1番地5(弁天町1)	1858 (安政5年)	誉田別命 倉稻魂命	郷社
2	石狩辨天社	弁天町北18番地 (弁天町22-8)	1694 (元禄7年)	弁財天(巖島大明神) 妙亀法鮫大名神 稻荷大名神	未公認
3	花畔神社	花畔村573番地 72(花畔573-72)	1872 (明治5年)	金刀比羅之大神 大己貴神 少彦名神 天御中主神 大国魂神	無格社
4	樽川神社	樽川332番地(樽川500-33)	1887 (明治20年)	天照皇大神 豊受大神	無格社
5	南線神社	花川南3条1丁目 24番地	1897 (明治30年)	大物主大神	
6	生振神社	生振203番地4	1873 (明治6年)	天照皇大神 誉田別命 大物主命	無格社
7	生北神社	生振村200番地 10(北生振)	1904 (明治37年)	天照大御神 誉田別尊	無格社
8	美登位神社	生振村北13線(美登位)	1901 (明治34年)	誉田別命	未公認
9	八幡稻荷神社	八幡町 母子会館横(八幡2丁目)	不詳	倉稻魂命	
10	高岡神社	八幡町高岡22番地2(八幡町高岡28)	1889 (明治22年)	誉田別命 倉稻魂命	無格社
11	五ノ沢神社	八幡町字高岡(八幡町高岡402-2)	1902 (明治35年)	天照大御神 誉田別命	未公認
12	熊の神社	高岡五の沢(記載なし)	不詳 (1896(明治29)年か)	熊野大神	
13	伊夜日子神社	八ノ沢→札幌	1927(昭和2年)	天之香具山命	

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1987; 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1988; 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 2006; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999 より)

(1) 各神社について

各神社の基本情報については表 2 の通りであるが、文献に記録のある神社の概要及び引用文献を下記に示す。

①石狩八幡神社

「安政 5 年箱館総社八幡宮神主菊池大蔵重賢より蝦夷地の中に当社八幡宮の末社を勧請し、蝦夷地惣鎮守として宮祠造営されるよう箱館奉行に願ひ出たのを始めとする。

安政 5 年石狩町川東町 (現在の八幡町) に石狩八幡宮を建立する。明治 3 年御神体を神祇官において点検、点状を下渡される。

明治 7 年有志と協議の上弁天町の現在地に奉遷し現在地の稲荷大神を相殿に祀る。明治 8 年石狩郡郷社となる。明治 34 年本殿等を新築。

大正 4 年神饌幣帛料供進神社に指定される。戦後宗教法人となる。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1988; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999; 北海道神社庁 HP——石狩八幡神社)

②石狩辨天社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1987; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999)

③花畔神社

「明治 5 年花畔村に入植した南部団体の人達により花畔北 8 線に小祠を建立し、花畔村金刀比羅神社と称したのが始まりである。

明治 27 年 8 月に花畔村北 8 線 2 番に遷座し花畔神社と改称する。その後昭和 46 年石狩湾新港開発計画により花畔北 11 線に移転すると共に相馬妙見太田神社、花畔瑞穂神社を合併・合祀し、今に至る。

合併により合祀された歴史をもつ御祭神
相馬妙見太田神社 天御中主神 昭和 46 年合祀・

花畔瑞穂神社 昭和 46 年合祀」

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1988, 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999, 北海道神社庁 HP——花畔神社)

④樽川神社

「安政 5 年箱館総社八幡宮神主菊池大蔵重賢より明治 20 年樽川村入植者目貫昇太郎外数名により小祠が建立される。

明治 37 年 5 月樽川神社創立を出願。

明治 39 年 3 月 16 日内務大臣より創立を許可される。

昭和 21 年 6 月 28 日宗教法人法による宗教法人となる。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1988; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999; 北海道神社庁 HP——樽川神社)

⑤南線神社

「当南線地域は、明治 14 年横井元八以下 14 戸の香川県人が入植したのが始まりと伝えられる。

本神社は、明治 30 年に片山謙蔵が郷里讃岐の金刀比羅宮に参詣し御神札を戴き帰道、樽川村南 6 線 (現花川南 5 条 5 丁目) に小祠を建立し奉斎申し上げたのが始まりである。明治 38 年に現花川南 4 条 1 丁目に遷座し、大正 6 年現花川南 2 条 2 丁目に遷座する。昭和 3 年同地 2 反歩は町村農場より境内地として寄贈を受け、改築・新築を重ねつつ半世紀に渡り鎮座せるも、新札幌団地造成のため移転を余儀なくされ、昭和 45 年現在地に遷座す。同 49 年社務所新築、同 57 年本殿・幣殿増改築、平成元年牛馬大神碑台座修復、同 5 年拝殿・社務所増改築を氏子崇敬者の奉賛により竣工今日に至る。この間昭和 52 年 12 月宗教法人登記をし、平成 8 年 12 月 24 日承認を得て神社本庁所属神社となる。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1988; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999; 北海道神社庁 HP——南線神社)

⑥生振神社

「明治6年宮城県より入植の人々により小祠を建立し天照皇大神，誉田別命，大物主命の3神を祀ったのを始めとする。

明治36年生振神社として創立の許可を受ける。明治41年現在地に遷座，昭和21年宗教法人となる」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁HP——生振神社)

⑦生北神社

「明治37年入植者が相議って現在地に小祠建立して天照大御神，誉田別尊を奉斎したのに始まる。

昭和34年本殿を新築し，付近の稲荷神社，倉稲魂神を合祀し，昭和52年本殿を新築する。

昭和53年神社本庁より設立許可を受ける。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁HP——生北神社)

⑧美登位神社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988，北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

⑨八幡稲荷神社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

⑩高岡神社

「明治22年7月なかば移住民が高岡開村とともに小祠を建立し，誉田別命，倉稲魂命を祀る。大正14年6月15日高岡神社創立を出願し昭和4年1月26日内務大臣望月圭助より創立を許可される。

昭和22年6月28日宗教法人となる。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；

北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁HP——高岡神社)

⑪五ノ沢神社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

⑫熊の神社

明確な創立年の記載はないが，1996(平成8)年に創立100年の祭礼を行った記録があり，1896(明治29)年の創立と推測される。

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988)

⑬伊夜日子神社

(北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

①石狩八幡神社，②石狩辨天社は本町地区に，③花畔神社から⑬伊夜日子神社は内陸部に位置する。

なお，⑫熊の神社は北海道神社庁誌には記録がないが現在も祭礼が続いているため記載した。⑬伊夜日子神社は石狩油田の閉鎖に伴い祭神は札幌の弥彦神社にうつしたとされるため，現在は跡地に看板が残るのみである。

(2) 各地域の特色と神社の傾向

①神社の創立時期

各神いずれの地域においても入植，移住後に神社が創立されており，例外は見られなかった。これは神社がそれぞれの地域に和人が定住するようになってから創立されたものであることを示している。

②生業との関連性

生業については大きく2地域に分かれることを前述した。漁業や商業を主とした本町地区と，農業を主とした内陸部である。

表3. 各地域への移住時期と神社の創立年

地域と移入時期	神社と創立年
本町地区 17世紀	石狩八幡神社 1858(安政5年)
	石狩辨天社 1694(元禄7年)
花畔 1871年(明治4)年	花畔神社 1872(明治5年)
樽川 1885(明治18)年	樽川神社 1887(明治20年)
南線 1879年(明治12)年	南線神社 1897(明治30年)
生振 1871年(明治4)年 1891年(明治24)年	生振神社 1873(明治6年)
	生北神社 1904(明治37年)
	美登位神社 1901(明治34年)
高岡 1885年(明治18)年	高岡神社 1889(明治22年)
	五ノ沢神社 1902(明治35年)
高岡(八の沢) 1903から1960年 (明治36から昭和35)年程	伊夜日子神社 1927(昭和2年)

本町地区に該当するのは(1)-①石狩八幡神社, ②石狩辨天社である。これら2社に祀られる祭神の内, 例外として妙亀法鯨大明神はチョウザメを神格化した神で石狩地域で祀られる地域信仰の一つである。また稲荷伸についても後に石狩辨天社で祀るようになったとされる。誉田別命(八幡神)や弁財天(巖島大明神)については海上安全, 水辺等を司るものとして沿岸地域で祀られたと考えられる。

内陸部については大きな例外は②熊の神社, ③伊夜日子神社である。熊の神社の祭神については明確な記録はなく, 地域で「熊に襲われたことがない」というような話は存在したが, 定かではない。伊夜日子神社は石狩油田の経営に伴い山中に町が形成される中で創立されたが, この地域に伊夜日子神社が求められた背景は明確でない。祭神については伊夜日子神社(弥彦神社)の主神とされる天之香具山命であり矛盾は見られない。この2社については地域的な特徴と生業との直接的な関係性を示すことは困難であると判断した。

残りの9社についてはある程度共通性がみられた。

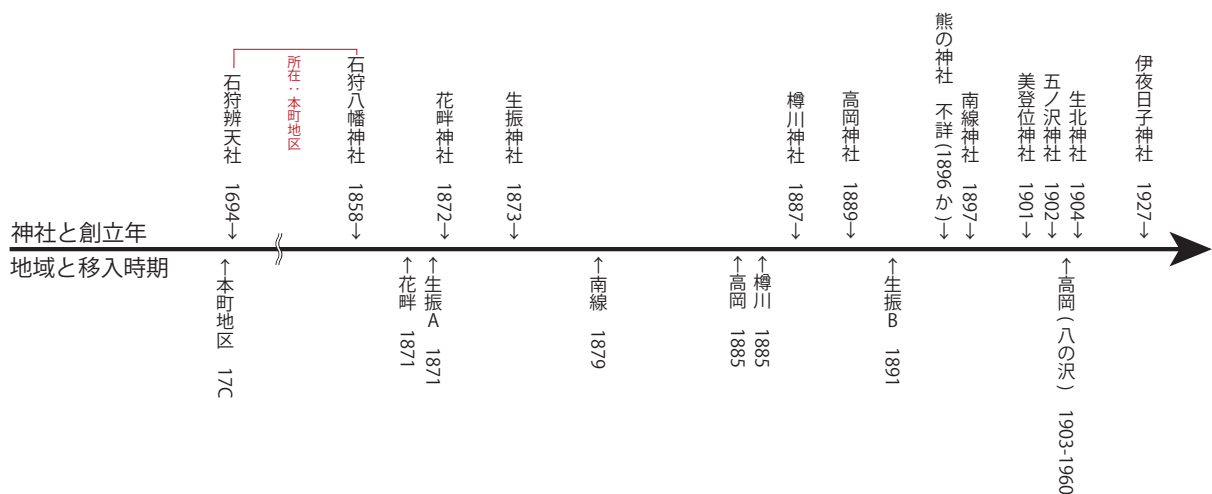


図2. 各地域への移住時期と神社の創立年比較図

一つは天照大御神及び開拓三神である大己貴神、少彦名神、大国魂神が祀られている点である。北海道の神社でも特に明治時代以降に創立、分霊を賜った神社に多くみられる。

もう一つは倉稲魂命等の稲荷神をはじめとした豊穰神、農耕神が祀られている点である。これは開拓を背景に農業を生業とする地域では当然ともいえる。

なお、花畔神社の金刀比羅之大神は花畔神社が元が金刀比羅神社であったため、天御中主神は他神社からの合祀のため除外した。

本町地区、内陸部に関係なく漁業地域では海神、水神、内陸部では開拓神に加え農耕神等生業に関係のある祭神を祀っていた。これは各神社が入植、集落等が形成された後、各々の生活の支えとして神社を求めたことが背景にあるからと推測される。

以上のように地域の文化的背景や人々の生活、生業が神社の信仰に反映されていることがわかる。特に今回言及した石狩市の旧石狩市域においてはその特徴が顕著であり、神社全体としてみると北海道神社庁誌に掲載され、現存する神社の内に例外は見られなかった。

5. おわりに

本文では旧石狩市域という石狩市の中でも一部の地域に限定して神社分布について考察した。石狩市域内の場合、北海道神社庁誌に未掲載の神社や、合祀・廃祀された神社については調査対象外としたため、石狩市の神社の特性を見る場合、調査対象を拡大する必要があると考えられる。

また、厚田区、浜益区については町の形成過程が異なるため、今回は対象外とした。石狩市域とは歴史的背景が異なるほか、神社や祀られる祭神にも違いがみられる。今後は調査区域を厚田区・浜益区まで含めた石狩市全域へとすることで、北海道の沿岸地域に見られる神社分布の一傾向を示

すことができると考えられる。

引用文献

- 石狩市教育委員会 文化財・博物館開設準備室編、2001. ふるさといしかり. 石狩市教育委員会.
- 石狩市編, 2001. 石狩市市勢要覧. 石狩市.
- 石狩町編, 1985. 石狩町誌／中1. 石狩町.
- 生振開村百二十年記念誌編集委員会編. 1992. 生振開村百二十年. 生振開村百二十年記念事業協賛会.
- 生振村愛知県団体開拓百年史編集委員会編. 1993. 生振村愛知県団体開拓百年史, 愛知県団体開拓百年記念事業協賛会.
- いしかり砂丘の風資料館編, いしかりファイル. 11, 14, 37, 48, 53, 54, 56, 68, 69, 85, 109, 110, 111, 112, いしかり砂丘の風資料館.
- 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編. 1987. 石狩の碑—石碑等に見る石狩町の歩み 第1輯 (いしかり郷土シリーズ). 石狩市郷土研究会.
- 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編. 1988. 石狩の碑—石碑等に見る石狩町の歩み 第2輯 (いしかり郷土シリーズ). 石狩市郷土研究会.
- 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編. 2006. 石狩の碑—石碑等に見る石狩市の歩み 第3輯 (いしかり郷土シリーズ). 石狩市郷土研究会.
- 河野本道. 2003. 石狩市史／石狩市年表. 石狩市.
- 国学院大学日本文化研究所編. 1999. 神道事典. 弘文堂.
- 北海道神社庁 HP. <https://hokkaidojinjacho.jp/> (最終閲覧日: 2024年2月29日)
- 高岡開基百年記念誌編集委員会編. 1984. 石狩高岡開基百年記念史. 高岡開基百年記念事業協賛会.
- 樽川地主会. 1977. 樽川百年史. 樽川地主会.
- 北海道神社庁誌編輯委員会編. 1999. 北海道神社庁誌. 北海道神社庁.

令和5年度テーマ展「漂着物の考古学」開催報告

一石狩川河口周辺・石狩浜にみられる 漂着遺物を対象とした今後の考察に向けて一

Report on the theme exhibition “Driftage archaeology” held in 2023;
Driftage archaeological artifacts on Ishikari beach and estuary of Ishikari river

荒山 千恵*
Chie ARAYAMA*

キーワード：漂着物考古学，漂着遺物，石狩川河口周辺，石狩浜

1. はじめに

本稿では，令和5年度秋季テーマ展「漂着物の考古学」（開催期間：2023年9月20日～11月6日，会場：いしかり砂丘の風資料館）の展示概要を報告し（荒山，2024），本展で対象とした漂着遺物をもとに，今後の課題について述べる（図1）。

2. テーマ展「漂着物の考古学」の概要

本テーマ展「漂着物の考古学」は，北海道石狩浜および石狩川河口左岸周辺域（図2）に流れ着いた漂着物（漂着資料）を対象に，特に漂着遺物を中心とした考古学及び関連諸分野からその起源や由来を探究し，地域の歴史・文化について紹介することを目的に開催した。いしかり砂丘の風資料館の学芸員・学芸協力員がこれまでに採集した漂着遺物を中心に，一般の方から情報提供いただいた漂着物や，関連資料・比較資料として他機関が所蔵する絵図や写真を交えて展示した（写真1）。特に，本展で紹介した土器・陶磁器類・琥珀類・

木製品などの多くの資料は，学芸協力員の石橋孝夫氏が長年にわたり石狩浜を中心としたフィールドで確認してきた調査情報に基づくもので，既に主要な漂着物の概要や考察について報告されている（石橋，2014；2018；2019；2021；木戸・石橋，2014）。また，自然由来の漂着物については，いしかり砂丘の風資料館・自然史担当の志賀学芸員から情報提供や協力をいただいた。展示資料は一覧（表1）のとおりで，資料数は計70点ほどである。



図1. テーマ展「漂着物の考古学」のポスター

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4



図2. 石狩川河口・石狩浜の位置
(出典：国土地理院ウェブサイトの地図に文字情報と石狩市域を示した概略図を追加)



1. 土器 (漂着)



2. 陶磁器 (漂着)



3. 魚たつき棒 (漂着・比較資料)



4. ココヤシ (漂着・比較資料)

写真1. テーマ展に紹介した展示資料の例

表1. 展示資料一覧

1	漂着資料：土器・土製品(土製支脚) ^(注1) 比較資料：石狩市若生C遺跡 ^(注2) 出土の擦文土器・北大式土器・後北式土器〈写真〉
2	漂着資料：陶磁器類
3	漂着資料：琥珀・琥珀製装身具 比較資料：石狩紅葉山49号遺跡 ^(注3) 出土の琥珀製装身具及び琥珀原石
4	漂着資料：魚たたき棒 比較資料：カナダの民芸品の魚たたき棒、平取町で使用された魚たたき棒 石狩紅葉山49号遺跡出土の魚たたき棒〈常設展〉 アイヌ絵にみる魚たたき棒〈パネル展示〉 i)アイヌ風俗十二ヶ月屏風「7月 鱒漁図(テシ漁図)」 ^(注4) 平沢屏山(1822-1876)／市立函館博物館蔵 ii)鮭漁図屏風(1912年制作) ^(注5) 木戸竹石(生没年不明、幕末～大正頃)／北海道立総合博物館蔵
5	漂着資料：ココヤシの実 比較資料：石狩浜に漂着した小孔のあるココヤシ〈写真〉 ^(注6) 長崎県壱岐市原の辻遺跡出土のココヤシ ^(注7) ／壱岐市教育委員会蔵〈写真〉 島根県西川津遺跡・タテチョウ遺跡出土の土製品 ^(注8) ／島根県教育庁埋蔵文化財調査センター蔵〈写真〉 ココヤシの特徴をもつ弥生文化の土製品〈復元模型〉

3. 石狩浜をフィールドにした漂着物考古学 - 今後の課題と展望について

石狩浜の漂着物を対象に「漂着物考古学研究ノート」をまとめた石橋(2014)は、漂着遺物について次のように仮称を定め、地域研究の一助としている。

「(前略)この浜の漂着物のなかには専門に直接関係する遺物あるいは地域の歴史の理解あるいは解釈するために有効な資料となるものが存在する。筆者はこれらを「漂着遺物」と仮称している。例として土器片・石器をはじめ、ココヤシ、コハク、陶磁器などがあげられる。」(石橋, 2014: 41)。

考古学分野では、海漁などで発見される「海揚げり品」や、海底遺跡や沈没船などを対象とした水中考古学による調査で発見された遺物など全国各地の報告が知られている^(注9)。石狩浜および石狩川河口周辺については、内陸から石狩川により

運ばれて河口兩岸や石狩浜に漂着したものも多く、海域から運ばれてきた漂着物とともにその起源となる年代や地理的範囲は多様である。個別資料の考察については別稿に改めることとし、以下に本テーマによる展示をとおして確認された今後の課題について記す。

第一に、本テーマ展で取り上げた漂着土器については、続縄文～擦文文化を主体とし、石狩川下流兩岸一帯の遺跡周辺を起源として河川を経由して運ばれてきたものと推測されるものである。ただし、これらの土器の中には、当該地域の出土土器の胎土や文様にはあまり見られない特徴をもつ例もあり、近隣地域に位置する遺跡から出土した土器との比較、他地域からの搬入品の可能性、あるいは変色の可能性を含めてさらに検討が必要である。

第二に、石狩市域を対象とした漂着物考古学で検討するならば、本稿で対象とした石狩浜及び石狩川河口周辺から離れた海岸・海中に関する漂

着遺物の情報もある。例えば、1864(元治元)年の秋に石狩市厚田区知津狩で鮭網(曳き網)にかかった海揚げりの阿弥陀如来像が、現在も厚田区内の寺院に安置されている(石橋, 2017)。また、石狩川河口から10kmほど北側の海中域に古潭浜遺跡(縄文早期)が掲載されているが、これは海底遺跡ではなく海岸段丘上に形成された遺跡が浸食により落下したものと考えられている^(注10)。石狩市域全般を対象とした漂着遺物については年代的・地理的範囲が広く、体系的な情報の整理・精査(傾向など)が必要である。

第三に、石狩湾周辺に産出・自生しない自然由来の漂着物についてである。人々が漂着した自然物を暮らしの中でどのように利用してきたかを検討する手がかりとして注視される。今回の展示では、漂着した琥珀原石・琥珀製装身具およびココヤシの実について紹介した。琥珀^(注11)について、石橋は「石狩浜や望来浜に漂着するコハクは、石炭と混在して漂着し、中にコハクが挟まれるものがあることから漂着コハクも石狩川上流の炭田起源であるといえる」、「続縄文時代以前では量や原石形状から石狩浜や望来の漂着コハクが装飾品として石狩川上流部へ供給されていた可能性がある」と述べ、原材に漂着コハクを利用した可能性を指摘している(石橋 2014: 45-46)。石狩浜に漂着するココヤシの実については、南方から海流(対馬暖流)に運ばれてきたものとみられる(志賀, 2008; 志賀・伊藤, 2008; 荒山, 2012; 2016; 石橋, 2014; 鈴木ほか, 2015)。道内の遺跡ではココヤシの実の出土例は確認されていないが、本州以南では、これまでに縄文~奈良・平安期の11遺跡からココヤシの実が出土している^(注12)。出土品には内果皮を容器などに利用したと考えられる例がある。自生していないココヤシが遺跡から出土することから、当時の人々が海辺で漂着ココヤシを採集し、遺跡地へ持ち込んだ可能性が考えられ、漂着植物の利用が窺われるようになっている。

今後も、漂着遺物の情報整理や個別課題の考察をとおして、日本海沿岸域の漂着遺物の起源や由来を探究し、地域の歴史や文化を繙く手がかりの一つとして注目していきたい。

謝辞: テーマ展「漂着物の考古学」の展示に伴う画像利用にあたり、壱岐市教育委員会、壱岐市立一支国博物館、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター、市立函館博物館、北海道博物館の各機関に大変お世話になりました。また、石狩市学芸協力員の石橋孝夫氏、いしかり砂丘の風資料館学芸員の志賀健司氏からは、漂着情報や資料情報など多大なご教示・ご協力を賜りました。末筆ながら心より御礼申し上げます。(機関名は五十音順。)

(注1) 北海道大学埋蔵文化財調査室(1986)をもとに土製支脚を紹介した。

(注2) 石狩町教育委員会(1975; 1976; 1977)。

(注3) 石狩市教育委員会(2005)。

(注4) 市立函館博物館(2022)、北海道博物館(2022a)他を参照した。

(注5) 北海道博物館(2022b)にて当該資料を実見した。

(注6) 写真出典は石橋(2014)。合わせて、鈴木ほか(2015)をもとに紹介した。

(注7) 長崎県教育委員会(1998; 2003)他。

(注8) 島根県教育委員会(1979; 2000)、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター(2001)、島根県土木部河川課・島根県教育委員会(1989; 1990)他。

(注9) アジア水中考古学研究所(2001-2024)、越前町織田文化歴史館(2015)、国立文化財機構奈良文化財研究所(2021)、小峰(2022)、新潟県海揚げり陶磁器研究会(2014)、札幌学院大学考古学研究所(2019)、文化庁文化財第二課編(2022)等を参照。

(注10) 石橋孝夫氏からのご教示による。

(注11) 近年の北海道の続縄文遺跡から出土した琥珀製平玉の産地同定に関するものとして、小笠原・原(2022)の論考がある。

(注12) 「福井県鳥浜貝塚、千葉県粟島台遺跡、滋賀県下之郷遺跡、兵庫県玉津田中遺跡、島根県西川津遺跡、福岡県比恵遺跡、長崎県里田原遺跡、長崎県

原の辻遺跡，平城京跡（左京八条二坊五坪）」（石橋，2014:44）に，山形県小山崎遺跡（遊佐町教育委員会，2017），石川県中屋サワ遺跡（金沢市，2009）を加えた11遺跡である。

引用文献

- アジア水中考古学研究所，2001-2024. 特定非営利活動法人アジア水中考古学研究所公式サイト．<https://www.ariua.org>
- 荒山千恵，2012. 漂着ココヤシに想いを寄せて（いしかり博物誌 121）. 広報いしかり（2012年9月号）：11
- 荒山千恵，2016. 口絵2 容器状の漂着ココヤシ．いしかり砂丘の風資料館紀要，6：iii - iv．
- 荒山千恵，2024. 石狩考古学 - 漂着物の考古学．連続講座「石狩大学博物学部」（レジュメ），（開催日：2024年2月10日）.
- 文化庁文化財第二課編，2022. 水中遺跡ハンドブック．越前町織田文化歴史館，2015. 海揚げり．越前町織田文化歴史館デジタル博物館．<https://www.town.echizen.fukui.jp/otabunreki/panel/25.html>
- 北海道大学埋蔵文化財調査室，1986. サクシュコトニ川遺跡2図版編．
- 北海道博物館，2022a. クローズアップ展示1『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む．（展示期間：2022年4月15日～12月14日）.
- 北海道博物館，2022b. クローズアップ展示2 木戸竹石「鮭漁図屏風」．（展示期間：2022年10月14日～12月14日）.
- 石橋孝夫，2014. 石狩浜漂着物考古学ノート1；石狩浜の漂着遺物とその履歴．いしかり砂丘の風資料館紀要，4：41-54.
- 石橋孝夫，2017. 海揚げりの神様仏様（いしかり博物誌 148）. 広報いしかり（2017年3月号）：11.
- 石橋孝夫，2018. 石狩浜漂着の魚叩き棒は誰のものか？ - 北海道魚叩き棒の系譜を考える - . いしかり砂丘の風資料館紀要，8：1-22.
- 石橋孝夫，2019. 石狩浜漂着物考古学ノート3；2018年石狩浜・石狩川河口左岸採取の漂着物 擦文文化の遺物・白い徳利・竹舟？・赤煉瓦と丸瓦．いしかり砂丘の風資料館紀要，8：1-8.
- 石橋孝夫，2021. 石狩川河口左岸で採取された穴のある漂着コハク．いしかり砂丘の風資料館紀要，11：1-8.
- 石狩町教育委員会，1975. Wakkaoi - 石狩・八幡町遺跡ワッカオイ地点調査報告書 - .
- 石狩町教育委員会，1976. Wakkaoi II - 石狩・ワッカオイ地点D地区における続縄文末期の発掘調査 - .
- 石狩町教育委員会，1977. Wakkaoi III - 石狩・ワッカオイ地点D地区における続縄文末期の発掘調査 - .
- 石狩市教育委員会，2005. 石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書．
- 金沢市，2009. 石川県金沢市中屋サワ遺跡Ⅳ・下福増遺跡Ⅱ・横江荘遺跡Ⅱ．金沢市埋蔵文化財センター．
- 木戸奈央子・石橋孝夫，2014. 石狩浜漂着物考古学ノート2；石狩浜・石狩川河口に漂着した陶磁器．いしかり砂丘の風資料館紀要，4：55-60.
- 国立文化財機構奈良文化財研究所，2021. 遺跡調査技術集成 水中遺跡調査編Ⅲ 研究集会 水中遺跡保護行政の実態Ⅲ．埋蔵文化財ニュース，No.182.
- 小峰彩椰，2022. 第5章 調査報告 開陽丸調査報告．南北海道考古学情報，（南北海道考古学情報交換会），16：19-20.
- 長崎県教育委員会，2003. 原の辻遺跡．原の辻遺跡調査事務所調査報告書第26集．
- 長崎県教育委員会，1998. 原の辻遺跡．原の辻遺跡調査事務所調査報告書第9集．
- 新潟県海揚げり陶磁器研究会，2014. 日本海に沈んだ陶磁器 新潟県内海揚げり品の実態調査，61.
- 織田文化歴史館，web. 海揚げり．<https://www.town.echizen.fukui.jp/otabunreki/panel/25.html>
- 小笠原正明・原奈々絵，2022. 北海道の続縄文遺跡から出土した琥珀製平玉の産地同定とその流通．文化財科学，84：37-57.
- 札幌学院大学総合研究所主催，2019. 日本の水中考古学と北海道（講演・報告），会場：北海道大学文系共同講義棟，開催日：2019年11月30日．
- 志賀健司，2008. ココヤシ．エスチュアリ，いしかり砂丘の風資料館 No.31.
- 志賀健司・伊藤静孝，2008. 2007年に石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物．漂着物学会誌，6：11-16.

- 島根県土木部河川課・島根県教育委員会, 1989. 朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ.
- 島根県土木部河川課・島根県教育委員会, 1990. 朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ.
- 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター, 2001. 西川津遺跡Ⅷ.
- 島根県教育委員会, 1979. 朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ.
- 島根県教育委員会, 2000. 朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅶ.
- 市立函館博物館, 2022. 令和4年度市立函館博物館企画展図録 平沢屏山とその時代.
- 鈴木明彦・石橋孝夫・志賀健司・圓谷昂史, 2015. 北海道石狩浜への穿孔性二枚貝カモメガイモドキの漂着. ちりばたん;(日本貝類学会研究連絡誌), 45(3): 162-166.
- 遊佐町教育委員会, 2017. 鳥海山の湧水が残した小山崎遺跡(改訂).

石狩市浜益における“ルツツ”(ユムシ, *Urechis unicinctus*) の漂着の記録

Stranding records of "Ruttsu", *Urechis unicinctus*
in Hamamasu, central Hokkaido, Japan.

志賀 健司^{*}
Kenji SHIGA^{*}

要 旨

石狩市浜益における2016年～2023年のルツツ(ユムシ, *Urechis unicinctus*)大量漂着の記録が発見された。漂着は8年間で少なくとも15回記録されており、いずれも海からの強風が続いた後2日間以内に発生していた。

キーワード: ルツツ, ユムシ, 大量漂着, 風速・風向, 浜益

“ルツツ”(ユムシ)の漂着

ユムシ *Urechis unicinctus* はユムシ動物の1種で、かつてはユムシ動物門とされていたが、近年は分子系統学的検討が進み、環形動物門の1分類群とされている(小林, 2021)。体長20cmの紡錘形(図1)で、浅海の砂泥底に深さ数十cmにU字型の穴を掘って生活している。日本近海など東アジアに分布し、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧(NT)とされている(環境省, 2017)。

北海道では「ルツツ」と呼ばれており、この名称はアイヌ語の「ルッチ(rutci)」「ミミズに似る」に由来すると言われている(知里, 1976)。北海道沿岸では、冬季の荒天時に漂着が見られることがあり(桑原, 2014)、稀に大量漂着現象が生じることもある。

石狩市浜益地方では漂着現象を「ルツツが寄る」と呼び、希少な食材として刺身、しゃぶしゃぶ、炒めものなどにされ、「酒の肴にぴったり」と評価されている(石狩市浜益支所地域振興課,

2014; 荒山・志賀, 2014)。特に風が強く海が荒れた時、群別地区(図2)では稀に大量漂着現象が発生する。発生頻度は年に数回あるかないかだが、その際は近隣住民が総出で採集する(図3)。その一方で、荒天にも関わらず全く漂着が見られないことも多く、気象・海況要素との関連は必ずしも明確ではない。また、近年は昔に比べて「寄らなくなった」との声も聞かれる。

このたび、浜益でルツツ料理を提供する居酒屋経営者が、2016年以降のルツツ漂着日を記録しているとの情報が入手できた。ルツツ漂着メカニズム解明の手がかりとなる貴重なデータとして、気象データとの比較とともに、紹介する。



図1. ユムシ(2013.02.02, 石狩浜)

^{*} いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4



図2. 石狩市浜益地方



図3. ユムシの大量漂着の状況 (2009.03.09, 石狩市浜益区群別)



図4. 居酒屋「小銭」に掲示されたルツツ (ユムシ) の漂着日

ユムシ漂着記録と日最大風速・風向

2016年～2023年の記録は、居酒屋「小銭」^{だらせん}の経営者によって記録され、店内に掲示されている(図4)情報である。8年間で規模は問わず15回のユムシ漂着が確認されている。2019年は最も多く6回の漂着が見られたが、その一方で、2020年と2022年には漂着は確認されていない。ただしこれは寒候年で見ると漂着が確認されなかったのは2023寒候年のみとなる。

また「小銭」の掲示にはないが、発生日が明瞭な漂着記録として、2009年3月9日の大量漂着が知られている。このときは群別漁港そばの礫浜を埋め尽くすほどのユムシが漂着し、その様子は画像や動画としても記録されている。

浅海底生動物の漂着は強い波浪により底質が攪乱されることが最大要因と予想されるので、波浪を引き起こす海からの風、西側が石狩湾に面した浜益地方では西風が、ユムシ漂着と関連していると考えられる。そこで、今回情報を得られた16回の漂着について、それぞれの前々日、前日、当日の最大風速と風向を比較した(表1)。観測値は気象庁AMeDAS「浜益」地点(気象庁, web)を使用した。

その結果、すべての事例で漂着の前2日間に強い西風が吹いていたことが確認された(図5)。いずれも最大風速は20m/s前後で、最高を記録した2017年12月25日は25.4m/sに達していた。これは浜益での観測が開始された1977年以降、3番目に高い風速である。浜益におけるユムシの漂着は、このような強い西風すなわち海風が波浪を強化し、海底の攪乱によって引き起こされたことが示唆される。

今回の予察的な調査により、「荒天時にルツツ(ユムシ)があがる」ことを気象観測値で裏付けることができた。その一方で、同規模の西風が発生しながらルツツ漂着が確認できない日も多数あることから、風以外にも水温、底質の状況、ユム

シの生息域や生息数など様々な要因も関係していることが考えられる。今後の記録の継続と、過去の記録の発掘により、より多くの漂着事例と気象・海況データとの比較検討が必要である。

表 1. 2009 年と 2016 年～2023 年の浜益におけるユムシの漂着状況と、漂着日の前々日～当日の日最大風速・風向 (AMeDAS「浜益」)

寒候年	年	月・日	漂着数	前々日		前日		当日	
				最大風速	風向	最大風速	風向	最大風速	風向
2009	2009	3/09	大量	18.2	W	15.3	W	6.0	E
2017	2016	10/05		13.3	W	17.5	WNW	5.2	ENE
	2016	12/03		14.1	WSW	19.7	N	16.9	WNW
	2017	11/12		13.3	SE	23.4	W	13.5	NW
2018	2017	12/27		25.4	W	21.2	W	16.9	W
	2018	1/10		11.5	W	18.2	WSW	20.4	W
2019	2019	1/19	少	19.2	WNW	15.0	WNW	12.0	W
	2019	10/10		16.6	WSW	21.7	W	5.8	ENE
	2019	11/17	少	19.8	W	17.3	WNW	14.2	WNW
2020	2019	11/18		17.3	WNW	14.2	WNW	15.3	SE
	2019	12/05	少	19.7	WNW	19.4	W	14.2	WNW
	2019	12/06	少	19.4	W	14.2	WNW	11.8	W
2021	2021	2/18	少	21.9	W	15.8	WSW	16.3	SNS
2022	2021	12/02		12.9	WE	16.5	WNW	17.6	WNW
	2021	12/03		16.5	WNW	17.6	WNW	10.2	NW
2024	2023	10/06	13個	6.1	ENE	15.9	WNW	16.8	WNW

※寒候年：前年 8 月から当年 7 月までの 1 年 太字はその月最大風速を記録

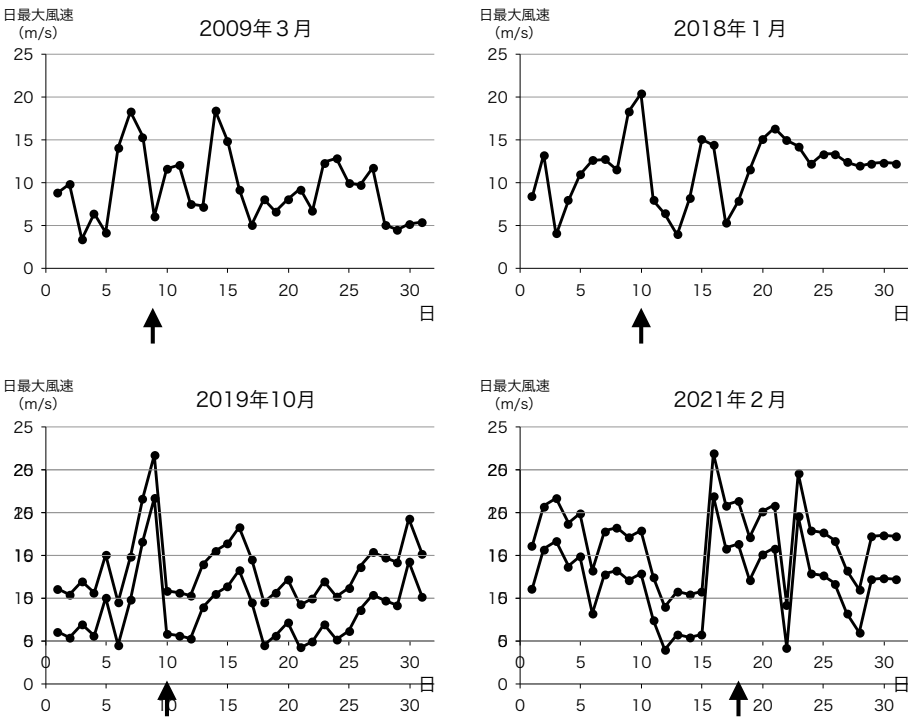


図 5. 日最大風速 (m/s) とユムシ漂着日との関係の例 (AMeDAS 浜益). 「↑」が漂着が見られた日。

謝辞：石狩市浜益区の木村弘一さんから、ルッツの
情報と画像を提供していただいた。浜益区の居酒屋「小
銭(だらせん)」の安保美佐子さん、石狩市文化財課長
の小島工さんから、ルッツ漂着状況の情報を提供し
ていただいた。皆様に感謝いたします。

引用文献

- 荒山千恵・志賀健司, 2014. ルッツ. 石狩ファイル
No.139, いしかり砂丘の風資料館.
- 知里真志保, 1976. 知里真志保著作集 別巻1 分類ア
イヌ語辞典 植物編・動物編. 平凡社, 322pp.
- 石狩市浜益支所地域振興課, 2014. ルッツ. 北海道
石狩市役所公式ホームページ, [https://www.
city.ishikari.hokkaido.jp/soshiki/h-chiikis/3320.
html#CONTENT1](https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/soshiki/h-chiikis/3320.html#CONTENT1)(2024年2月29日閲覧)
- 環境省, 2017. その他無脊椎動物. 海洋生物レッドリ
スト 2017, 環境省.
- 気象庁, web. 過去の気象データ検索. [https://www.
data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php](https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php) (2024年2月
29日閲覧)
- 小林元樹, 2021. 環形動物門の高次系統に関する概説.
Edaphologia, 109: 9-17.
- 桑原尚司, 2014. 北海道紋別市にユムシが大量漂着.
漂着物学会誌, 12: 49-50.

Stranding records of "*Ruttsu*", *Urechis unicinctus*
in Hamamasu, central Hokkaido, Japan.

Kenji SHIGA

Abstract

Mass stranding records of "*Ruttsu*" (*Urechis unicinctus*) from 2016 to 2023 in Hamamasu, Hokkaido, Japan have been found. The stranding events were confirmed 15 times in eight years. Every events occurred within two days after severe onshore wind.

Keywords : *Ruttsu*, *Urechis unicinctus*, mass stranding, wind speed and direction, Hamamasu

石狩市浜益区^{おかしま}岡島にある「チャシ地名」と 「チャシ」に関する一般調査の概要

General survey report on "*Chashi* place names" and *chashi* in Okasima ,
Hamamasu-ku, Ishikari City, Japan

石橋 孝夫^{*}
Takao ISHIBASHI^{*}

キーワード：石狩市浜益区，チャシ地名，チャシ

はじめに

石狩市浜益区^{おかしま}「岡島」は同区^{もい}茂生とその南の川下の間にある南北 1km ほどの南北に長い海岸段丘の名前である。ここには南端付近に「チャシ地名」と両端に 2 つの「チャシ」があるといわれている。このうち「チャシ」については、若干の調査記録があるが詳しい調査はなされていない。

岡島は最高標高が 135 m ほどで細長い海岸段丘である。西側一帯が切り立った海食崖で、簡単には接近できない地形環境にある。今回の調査ではドローンによる上空観察も試験的に取り入れ実施した。本報告では、並行しておこなったこれまでの調査記録や関係文献調査の結果についても記載した。今回調査では国土地理院地図、GooglEerth、石狩市 GIS、航空写真判読データなども利用しながら調査分析をおこなった。その結果、「チャシ地名」や「チャシ」の位置や構造の一部について把握でき、今後の調査についてある程度見通すことができた。

今回の調査ではドローン撮影については高橋俊

彦氏、航空写真判読データを提供してくれた宮塚義人氏、現地踏査では浜益区および石狩市いしかり砂丘の風資料館の方々、砂丘の風の会にご協力・ご支援をいただいた。

I 岡島海岸段丘について

最初に海岸段丘「岡島」の位置等について述べる。図 1 は今回の調査関連図で、明治 30 年に製作された地図上に、赤字で「岡島」等の位置を示した。このほかに黄金山や摺鉢山、毘砂別川の位置も示した。図 2 は毘砂別からの遠望で、画像右下の集落が浜益区川下である。

図 3、図 4、図 4 は二つのチャシの遠望と地図上の位置と南北方向の地形断面図である。チャシが立地する場所は二つとも標高 60m 前後である。地形断面図は国土地理院地図断面作成機能を使用して作成した。

^{*} いしかり砂丘の風資料館（学芸協力員） ☎ 061-3372 北海道石狩市弁天町 30-4

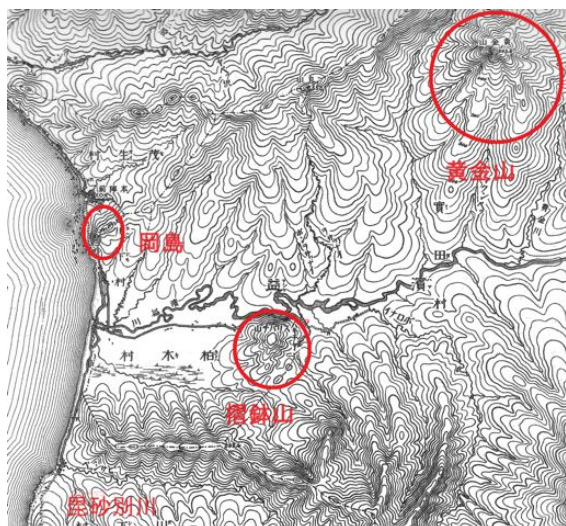


図1. 岡島の位置（北海道廳 1887）



図2. 岡島の位置（筆者撮影）



図3. 二つのチャシの遠望（撮影筆者）

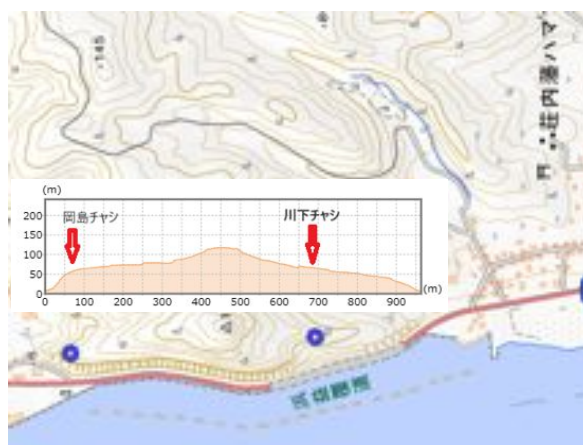


図4. チャシ(◎)と地形断面(国土地理院地図)



図5. 岡島チャシ・川下チャシと岡島段丘

Ⅱ 「チャシ地名」と「チャシ」について

「チャシ地名」とは簡単にいうと「チャシ」という語を含む地名のことである。ただ、必ずしも「チャシ」そのものが現存するわけではなく、かつて「チャシ」が存在したことを示す痕跡的地名も含む場合がある。「チャシ地名」は小林和夫(1980)によるものである。浜益区の「チャシ地名」場合、図6の例のほかに「摺鉢山」に付近にもあるという研究者や「チャシ」そのものがあるという研究者もいるが所在は確認できていない。表1は宇田川洋(宇田川, 2006: 18)の北海道の「8世紀以降の文化対比」である。筆者も「チャシ」については宇田川のような年代観をもっている。「チャシ」はアイヌ文化の所産で「砦」とも称されるが、その性格は十分明らかになっているわけではない。また発祥時期は不明だが、18世紀ごろには造られなくなった遺構とみられる。「チャシ」は北海道全域に分布するが、大まかな傾向として日本海側では少ない遺跡といわれている。立地的には岡島の二つの「チャシ」もその例にもれないが崖などに面するなど一般に急峻な地形にあり、溝などで区画される場合が多い。



図6. 岡島のチャシ地名「ホンチャシコツ」『国土地理院古地図コレクションサイト「伊能大図 増毛」

表1. 8世紀以降の文化対比(宇田川, 2000)

	本 州	北 海 道
20 —	明治	明 治
19 —		江 戸
18 —	江戸	チャシ文化 (アイヌ文化)
17 —	戦国	
16 —		
15 —	室町	内耳土器文化
14 —		
13 —	鎌倉	
12 —		
11 —	平安	擦 文 文 化 オホーツク文化
10 —		
9 —		
8 —	奈良	
世紀		

Ⅲ 岡島の「チャシ地名」について

次に岡島の「チャシ地名」について述べる。図6にしめしたが、この地名は「伊能大図 増毛」のなかにみられる。伊能図とはいうまでもなく文政4(1821)年の完成の伊能忠敬らによる日本地図である。このなかの岡島にあたる部分に「ホンチャシコツ」と表記された地名がある。その北には「シツテキヤム」(現在の茂生)とあり、この地名が川下側にあったことは明らかである。ちなみに、この二つの地名の間に海岸に張り出す茶色の半円が描かれている。この半円上には縦に短い線何本も描かれ、崖状の地形を示しているとみられる。この表現と地図上の位置から見て、茶色い半円は「岡島」の海食崖を示したものとみられる。なお「ホンチャシコツ」とは「ポンチャシコツ」と考えられ、「小さなチャシ跡」の意味と推定される。

岡島の南側のチャシは現在「川下チャシ」のみが知られており、他のチャシは未確認である。さらに付近の確認調査の必要はあるものの、この「チャシ地名」は現時点では「川下チャシ」にあたる可能性が高いと筆者は考えている。しかも「チャシコツ」という地名から記録された時点ですでに「廃絶されたチャシ」の意味とも考えることができる。このような考え方をすると、このチャシは浜益川周辺にアイヌが暮らしていた宝永期までであったもので、その後、茂生に強制移住させられたため廃絶を余儀なくされたチャシの可能性はあるのはなかろうか。とすればこのチャシは伊能図に記録される100年以上前からあったチャシと考えることもできる。

IV 岡島以外の「チャシ地名」について

ここで岡島以外の「チャシ地名」について述べる。まず初めは金田一京助の「チャシ地名」である。同氏は「アイヌの詞曲にいて」のなかで「石狩川の河口から十里ばかり北、浜増毛という所の近傍にピサンベツという川がある。これがアイヌ語トメサンベツの日本訛で、その側に聳えてゐる黄金山・摺鉢山の辺にチャシコツ (Chashkot) 「城跡」の義」という地名もあるのは、即ちユカラカムのシヌタブカの城跡で、浜に峙つ柱状の巖石は、その浜見の櫓だったという。」(金田一、1961: 136・初出大正7年)と述べている(下線筆者)。この記述からは黄金山・摺鉢山の周辺に「チャシ地名」があったことになるが、この地名は未確認である。

次にあげるのは宇田川洋のいう「チャシ地名」で『増補改訂アイヌ伝承と砦』(宇田川、2005: 46-47)の中で「オハキチャシ」という伝承上のチャシに因む地名が摺鉢山付近にあるとしている。この根拠は明らかでないが陸地測量部の地図(図7)に示したようにスリバチ山の東側に「ヲハキチャン」という地名が存在する。あるいはこれが該当

するのかも知れない。ただ、この地図の記載がその根拠とすれば「ヲハキチャシ」ではなく「ヲハキチャン」と記載されていると考えられ、「アイヌ語地名」ではあるものの「チャシ地名」ではないと考えられる。

なお、山田秀三は北海道の地名の中でこの付近の地名に「オハキイチャン川」という地名があると書いているだけで、この付近の「チャシ地名」や「チャシ」には触れていない(山田、2000: 119)。

このほか、金田一京助、河崎宏太郎は「黄金山」や「摺鉢山」付近に「チャシ」あるいは「チャシ地名」に類するものがあるとしているが、それらの位置は今回の調査では明らかにできなかった。とくに河崎宏太郎は『ユーカラのふるさと』(河崎、1982: 130)のなかで、「摺鉢山の山頂の岩が削られている場所に砦址がある」と書いている。筆者は20年近く前になるが、当時の村営スキー場から摺鉢山の稜線を西から東に踏査したことがあったが、この時にはチャシを思わせる地形の変化には気づかなかった。



図7. 摺鉢山のチャシ地名? 「ヲハキチャン」(明治30年陸地測量部地図)

V 「岡島（岡嶋）チャシ」に関する調査記録と文献

岡島チャシは海岸段丘「岡島」の北端近くにある「チャシ」とされる遺構であるが、発掘調査による確認は行われていない。また埋蔵文化財登録台帳では「岡嶋チャシ」となっているが現在は「岡島チャシ」の方が一般的のようであるので「岡島」と表記する。

本題に入る前に幕末期の絵図で当時の岡島の姿がうかがえる絵図が2点あるので先に紹介しておきたい。2点とも函館市立中央図書館所蔵図である。

図8は嘉永2(1849)年に描かれた「西蝦夷道中見取図」のなかにある岡島の北端の姿である。図の左端に運上屋、その斜め上に戦前まであった「稲荷神社」が描かれている。図には「濱マシケ 本名ベルカルウシ 運上屋 本マシケ迄 海上八里十■■■」と添え書きとともに、その右に岡島チャシの位置する岩山と遠くにアイカッ岬(愛冠岬)も描かれている。この図からみると岡島の状態は現在とそれほど大きな変化がないようにみえる。

図9は安政元(1854)年描かれた「蝦夷廻浦図絵」の一場面でかつての浜益区茂生の運上屋とその背後の「岡島」がひとときわ高く描かれている。この図は掘織部正熙の調査に随行した若干19歳

の会津藩の絵師一ノ瀬紀一郎(雑賀重村)が描いた図の模写である。大型和船の背後にある岩山が「岡島の北端」である。なお和船の帆の背後付近が現在の「岡島洞窟遺跡」にあたる。

1. 文献 河野広道の「北海道に於ける洞窟遺跡」(河野 1932)

今回調査した限りでは、このチャシに関する最も古い記録は河野広道の「北海道に於ける洞窟遺跡」と思われる。それによると「洞窟のすぐ上には丘の先端を溝で仕切ったチャシあり」(河野 1932: 91)と記している。ここでいう「洞窟」とはいうまでもなく「岡島洞窟遺跡」のことであり、この記録から昭和初期には「チャシ」の存在が知られていたことがわかる。



図8. 西蝦夷道中見取図 濱マシケの一部(函館市立中央図書館)



図9. 蝦夷廻浦図絵 茂生及び岡島の部分(函館市立中央図書館蔵)

2. 文献 北海道石狩國浜益村岡島洞窟遺跡」(杉山 1936)

次は昭和11(1936)年の杉山壽栄男が書いた「北海道石狩國浜益村岡島洞窟遺跡」(杉山 1936: 356)で、その報告のなかで、このチャシについても記載している。杉山はこの年「岡島洞窟遺跡」の調査で浜益を訪れ、その調査報告を書くがその中で付近の遺跡も記載している。それによると「A点は岡島洞窟 B 点はAの頂で僅かに溝をなしてここにも石器類が散布し、昔の城砦と伝えられている」(下線筆者)と書いており、この記述は岡島チャシを指していることが明らかである。

3. 調査記録 北海道教育委員会による埋蔵文化財の所在確認帳調査

このチャシの最初の調査は昭和47(1972)年9月、北海道教育委員会埋蔵文化財の所在確認調査と思われる。この調査により、遺跡として包蔵地台帳に登録される。

埋蔵文化財包蔵地カードの記録では「種別 チャシ跡 名称 岡嶋チャシ 登録番号 A・10・63 地番 浜益郡浜益村茂生」「立地 岡島洞窟上の台地に有るチャシ 形式 丘頂式」となっている。なお「丘頂式」とはチャシの形態分類の一つで独立丘のような地形につくられたチャシの意味であるが、図10に示したように調査略図には北側に張り出す三角形に近い地形が描かれている。さらに「西側の崖面から東に直線的な溝」も描かれている。また、このチャシの情報提供者の氏名も記載されている。

4. 調査記録 測量調査

このチャシは昭和51(1975)年9月に測量調査が実施されたという。調査者は北海道教育委員会であるが側聞すると測量図面等の存在は明らかでないという。

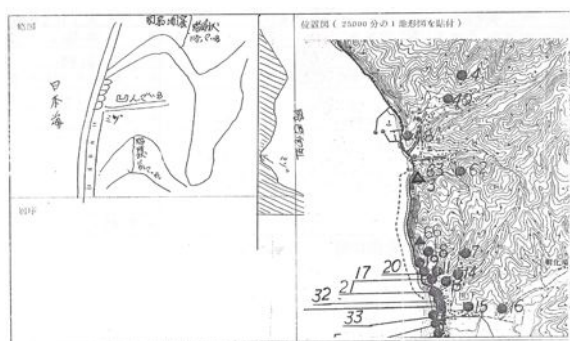


図10. 埋蔵文化財包蔵地台帳の略図と位置図(▲63が岡島チャシ)

5. 文献 日本城郭大系第一巻 北海道・沖縄」(藤本・名嘉編 1980)

昭和55(1980)年岡島チャシは川下チャシとともに『日本城郭大系第一巻 北海道・沖縄』に紹介される。この本の記載では「茂生チャシ」という別称があったことも記載されている。チャシについては「チャシは、日本海を足下に望む崖上、山林中であって、現在一条の弧状の壕がめぐらされている。しかし、未調査であって、伝承もないので構築時期・機能などは不明であるが、背後は山地、前方は海に画され、しかも見通しが良いので、防御としての機能が考えられる。」(福田, 1980: 132)と記載されている。図11は同書に掲載された岡島チャシの遠景写真で北側の茂生市街から撮影され「112 北側からみた岡島チャシ」と解説がついている。この写真には赤の円内で示したが「V字形に窪んだ地形」がみえる。現在、ほぼ同じ位置から撮影しても樹木の繁茂でこの地形は見えない。図12は昭和46(1971)年発行された『浜益村小史』(吉田・石橋源, 1971: 6)の「起重機によるニシン揚げ」と題された写真には同様な地形が写っている。この写真の撮影年代は明らかでないが昭和初期と思われる。

6. 文献 『ユーカラのふるさと』(河崎宏太郎, 1982)

昭和57(1982)年発行された河崎宏太郎の『ユーカラのふるさと』P24には「洞窟の上には稲荷神社があり、城壁のようにそびえる断崖の頂上には

チャシコツの跡があって、外側に溝が掘られている。」と記されている。

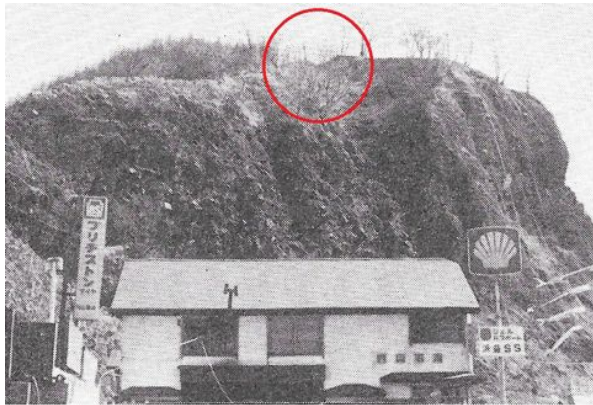


図 11. 岡島チャシの溝 (福田, 1980)

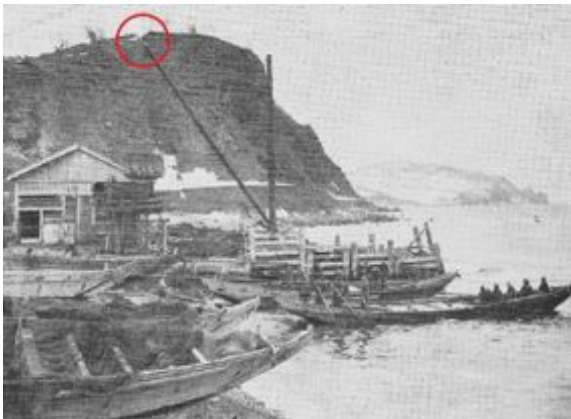


図 12. 円内に V 字の溝 (吉田・石橋, 1971)

7. 文献『北海道のチャシ』北海道教育委員会(北海道教育委員会 1983)

次も文献記録で昭和 58(1983) 年に発行された『北海道のチャシ』の北海道内チャシ一覧表に P10 に「岡嶋チャシ 面崖式(丘頂的)弧状一条」と報告される。

8. 調査記録 平成 21 年の筆者(石橋)の現地調査

平成 21(2009) 年 4 月 20 日筆者が表面調査を実施した。チャシに至る登攀ルートは浜益支所から西側にある「茂生 1 の沢川」を横切り、市道に面した崖の縁を南向かって登攀。途中「岡島洞窟」の上部をとおり遺跡に到達した。図上で測ると距離的には 250m あまりの距離であるがチャシは

標高 60 m 近い場所に位置している。この調査ではすでに図 11・12 に示した溝にあたると考えられる V 字形の溝状地形が確認された(図 13・14 図)。大きさは巾約 3m 深さ約 2m, 長さは 10m ほどである。図 13 の右側の高まりの陰で溝は西側にカーブしている。この溝は西側の崖面に向かってつれ不明瞭になる。図 14 は溝の北端近くで北向きに撮影したもので、画像奥の白い建物がコミュニティセンター。手前の青い四角い屋根が海鮮食堂である。なおこの調査では昭和 47 年の調査で記録された西側の崖からはじまる「溝」は確認できなかった。この調査時点で西側(国道 231 側)の崖面では「落石防止ネット」の工事が行われていた。



図 13. チャシの溝 北→南(筆者撮影)



図 14. チャシの溝北→南に撮影(筆者撮影)

Ⅶ 令和5年(2023)の調査結果と今後の課題

今回の調査結果について概要を述べる。筆者らは3月31日にドローン撮影調査、4月11日に現地踏査。その後も10月・11月にドローン撮影などを実施した。並行して文献調査も実施し、その結果は前記のとおりである。また4月の現地調査では複数の同行者があり、チャシの溝の再確認ができた。

今回の調査のうちドローン撮影調査では、岡島チャシのある崖の上は樹木がかなり密に繁茂しており、溝の状態など当初期待したような成果はえられなかった。しかし図15～19に示すように岡島洞窟遺跡を含めたこの遺跡との相対的位置や立地の再確認ができたことは大きな成果である。

また補足として図15に示したように溝は小さな頂を取り囲むように西側に向かってカーブしていることがわかった。ただ、その先は徐々に不明瞭になり確認できなくなる。昭和47年の調査では、北側の溝は未確認で逆に西側の溝があり、これが「チャシ」と判断した根拠となっていたが今回の調査でははっきりしなかった。

しかし、今回は滑落の危険があるので崖上からは確認できなかったが、国道231を挟んだ「百年記念」の石碑付近から撮影した画像(図16)では、西側の崖面にV字の溝状地形がみえるものがあり、あるいはこれが昭和47年の溝の一部に相当する可能性がある。

以下に今回の調査で確認できた岡島チャシの位置情報等を示しておく。まず、図17は国土地理院地図の3D機能で作成した岡島チャシの立地イメージである。この図からもわかるようにチャシの立地は崖の先端部にある。ただし突出部周辺は崩落の危険性があり接近は危険である。図18は岡島チャシの平面的位置である。このチャシの位置については従来、一部不正確な点があった、この図からチャシのある場所は北を頂点とし、西側と東側が断崖で位置する場所の平面形は三角形に

近い。図上で計測すると南北45m、東西53m程度ある。

このチャシの年代は不明であるが、「チャシ地名」や「川下チャシ」の項でも述べるように宝永3年の強制コタン移住にともなって代替再建された新しいチャシの可能性も考える必要があろう。現時点でチャシがどのような性格なのか明らかになっていないがチャシ設置の目的は不明であるが、川下チャシの代替的な性格とすれば集落にともなう施設であると考えることができる。またと同様に北から西の海上が一望に見渡せる場所にあり、こうした眺望もこの位置にこのチャシが設けられた理由の一つとも考えられる。



図15. チャシの溝 南→北(筆者撮影)

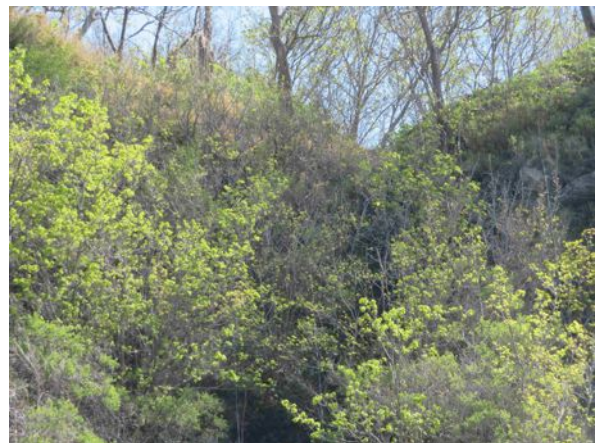


図16. 西側崖面の溝? 西→東(筆者撮影)



図 17. 岡島チャシの3D 地形図



図 18. 岡島チャシ平面的位置



図 19. 岡島洞窟遺跡と岡島チャシ

VII 川下チャシに関する調査記録と文献

次に川下チャシに関する調査記録と文献，令和5年度の調査結果について述べる。

1. 文献「伊能図」のチャシ地名

川下チャシに関連してはすでに紹介した伊能図の「ホンチャシコツ」という「チャシ地名」がある。これが「川下チャシ」を指しているとするれば「川下チャシ」の最初の記録の可能性がある。また，すでに述べたように宝永3年(1706)の強制移住にともない廃止されたためできた「チャシ地名」の可能性があるとも考えている。

2. 文献「西蝦夷道中見取図」(嘉永2(1849)) 函館市中央図書館蔵

図20は，川下チャシは描かれていないが岡島の南端の地形が良くわかる図である。これは嘉永2(1849)年の「西蝦夷道中見取図」で，最高標高135mのピークも描かれている。この図では岡島と東となりの段丘の谷間に山道が赤で描かれ「山道口を濱マシケ迄凡三十丁」とある。次に述べる荘内藩ハママシケ陣屋絵図に注記された山道の距離とは倍近く長い距離が記載されている。なお明治30年の陸地測量部の地図では茂生にむかう道は岡島の南端からすぐ岡島を登るような道となっており，陣屋建設にともなって新たに道路が作られた可能性がある。



図 20. 西蝦夷道中見取図 濱マシケの部分
(函館市立中央図書館)

3. 文献 荘内藩ハママシケ陣屋の絵図

図 21 は文久元 (1861) 年から「岡島」の南東の山蔭に建設がはじまった「荘内藩ハママシケ陣屋」の見取り図の一部である (吉田 1971: 表紙). この図では陣屋は図の右上隅に一部が見えている. 図の人家の前に浜益川 (当時黄金川) が描かれている. その北西にある手前側の山頂に「小屋と吹流し」が描かれた小山が描かれている. 小山は浜益川河口右岸にあり, 岡島であるとは明らかである. また, その少し東側に「字カワスモ・ヘロカルウシ」の標柱があり, そこから運上屋へ向かう道がみえる.

この道は図 20 の「西蝦夷道中見取図」に絵描かれた山道と同じであろう. この図の「吹流しと小屋のある山」は陣屋関係の施設とみられ, 次項 4 で述べる「烽火台及ヒ台場」にあたる可能性がある. 図 22 に示した陸地測量部の地図では, この山道とは別の岡島に南端から直接, 川下チャシに向かう道がみられる. この道がいつつくられたか明らかでないが「台場」も建設されたとなると, この道は本来, 陣屋建設に伴って新たに開削された道とみることもできる. またこの図の右端に海食崖の一部があり, その上方に一段高いピークが描かれている. この山は岡島の標高 135 m のピー

クにあたる可能性が高い. なお, 次項 4 や浜益では項目 12 で述べるように「川下チャシ」がアイヌ文化の所産でなく「荘内藩ハママシケ陣屋」関連の施設だという聞き取りがある. 現在, 川下チャシを含めた部分は国指定地内に含まれているが, その報告書をみても「見張り台」があったとされているだけで, この絵図にある施設に相当する説明はない.



図 21. 浜益村川下史跡荘内藩陣屋之図 (吉田 1971)

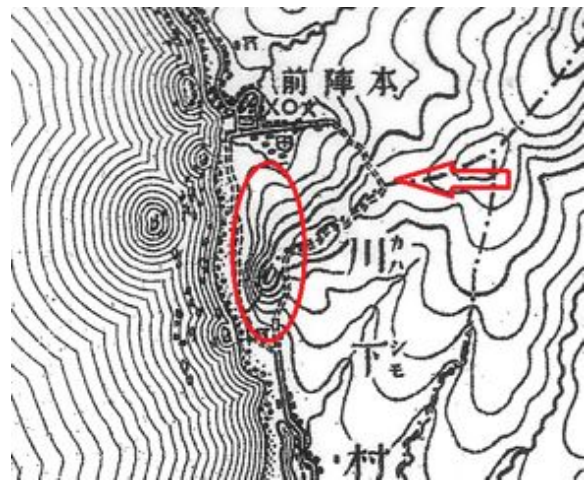


図 22. 陸地測量部地図「茂生」

4. 文献 「北海道殖民状況報文石狩國」河野常吉ほか 1987

次に前項 3 に関連して「北海道殖民状況報文石狩國」に記載された荘内藩ハママシケ陣屋の付属施設について述べる. この報文が作成された詳しい年月日ははっきりしないが, 明治 30 ~ 33 年頃とみられる. ただ印刷され一般に広く知られたのは (昭和 62 (1987) 年) のことである. この報文によると「浜益郡」の項に「陣屋ヲ浜益川北

方ノ高台ニ設ケ烽火台及ヒ台場ニケ所ヲ其附近ニ築キテ」(p149)と記され、また同書の「川下村」の沿革の項でも「(陣屋の)北方茂生村ニ接スル高台ノ地ニ烽火台及ヒ台場ニケ所ヲ設ケタリ」(p157)と述べており、これらの施設が岡島に設置されたことが読み取れる(下線筆者)。図22は明治30年の陸地測量部地図の「茂生」(北海道廳, 1887)の一部で、赤の楕円が「岡島」である。また川下村側の南端付近から「本陣前」という地名に向かって平行な破線がみえる。

この線が「本陣前(現在の浜益支所付近)」向かう道である。しかし、前項2で述べた点や航空写真などから検討すると、新たに設置された可能性があるように思われる。

この点については今後の検討課題の一つである。

「川下チャシ」の位置は現在の地図と比較しても赤の楕円内にある南側の高地にあたるとみられ、図21に掲載した「吹き流しのある小山」がこの高地にあたるのではなかろうか。図23は現在の地形図で青丸内が川下チャシの位置である。この付近で標高の高い部分は川下チャシの北にある標高135mのピークで図21にも描かれている。今のところこのピークにのぼるための道路はないようで「見張所」には適しているものの「台場」としては大砲などをあげるには急峻すぎると思われる。

この点はさらに現地踏査で確認する必要がある。台場に関連して荘内藩の重火器の装備について具体的には把握できていないが、文久元年に箱館奉行所が蝦夷地の荘内藩の軍備を調査した記録があり、そのなかに「右之外大砲並小砲数挺当秋中庄内より船積差下候処、津軽領於森山辺破船いたし申来候ニ付猶又明春夫々為積下候積ニ御座候」(吉田・石橋, 1971: 21)とある。

その後、ハマシケ陣屋に大砲が実戦配備されたどうか確認できないが、少なくとも当時荘内藩が最新の重火器を入手し蝦夷地防にあたらうとし

ていた様子が窺えよう。

筆者には台場の造成や構造等に関する知識は全くないが、大砲の種類によってもその構造は異なるのだろう。今後、台場や荘内藩の軍装備について調査する必要がある。



図23. 川下チャシ、見張所推定位置

5. 文献 北海道に於ける洞窟遺跡 河野広道, 1932

川下チャシに関する最初の考古学的記録は河野広道の「北海道に於ける洞窟遺跡」(河野 1932: 91)であろう。それによると「又同村字川下にも同じ岡島の續きに一チャシがある。」と書かれており、昭和7年には「川下チャシ」は「岡島チャシ」とともにその存在が知られていたことがわかる。

6. 文献 北海道石狩國浜益村岡島洞窟遺跡 杉山壽栄男, 1938. 東京人類学会

1938年、岡島洞窟遺跡の調査に訪れた杉山は「北海道石狩國浜益村岡島洞窟遺跡」のなかの「浜益川河口に於ける石器時代遺跡の概要」(杉山, 1938: 356)で「D点は山上に溝を廻らしてあって城砦^{チャシ}と云われているが遺物は判然としない。」と書いている。この記載と遺跡分布図の対応関係からみてもこの「山上に溝を廻らしてあって城砦^{チャシ}と云われている」遺構は「川下チャシ」であることは明らかである。

7. 調査 昭和51年北海道教育委員会の測量調査

昭和51(1975)年9月に北海道教育委員会により測量調査が実施されている。測量原図は目にすることがないが、後述する『北海道のチャシ』『日本城郭大系第一巻』などに掲載された「川下チャシ要図」がこの時の成果の可能性が高い。また同時期に制作されたとみられる16mmフィルム「北海道のチャシ」(北海道プロダクション, 1976)のなかで川下チャシの遠景や平板測量のようすが収録されている。撮影は1975年に行われたとみられる。

8. 調査 昭和52年北海道教委の埋蔵文化財調査

川下チャシは昭和52(1976)年、埋蔵文化財包蔵台帳に記載され、正式に遺跡として登録される。それによると「種別 チャシ跡 時代 アイヌ 立地 海岸段丘 標高60m 規模およそ30×20m 600㎡ 形態 崖面に開口したC字の空壕を一条もつ面崖式・お供山式のものと記載がある(下線筆者)。また調査文献の項に「昭和51年9月27日～10月2日 道教委 測量調査実施(埋蔵文化財包蔵地台帳 川下チャシ)となっている。また、この遺跡の存在は地元の方の情報提供によるものとみられ、この方の名前も記録されている。図24は埋蔵文化財包蔵台帳の略図、図25は同年の登録通知文書に添付されたチャシの写真の白黒コピーである。写真の撮影位置は川下チャシ背後にある標高135mのピーク付近とみられ、チャシの奥に愛冠岬が写っている。

9. 文献 『北海道のチャシ』(北海道教育委員会, 1983)

前掲7で述べた測量成果は『北海道のチャシ』(北海道教育委員会, 1983: 40)に利用されたと思われる。掲載図が図24がそれで「川下チャシ跡実測図」として掲載されている。図27はその一部で、チャシ周辺を切り抜き編集したものである。この図では溝は崖面に接する南北2か所にだけ

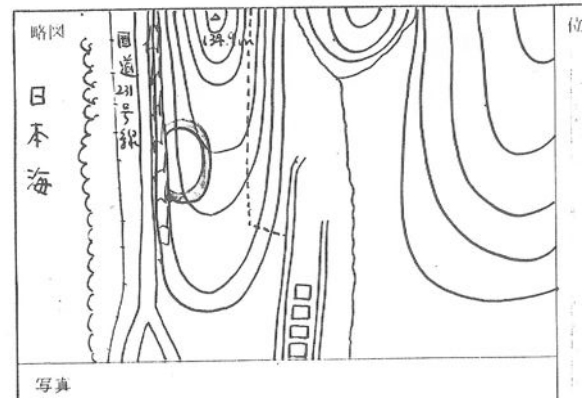


図24. チャシ略図(埋蔵文化財包蔵地台帳カード)

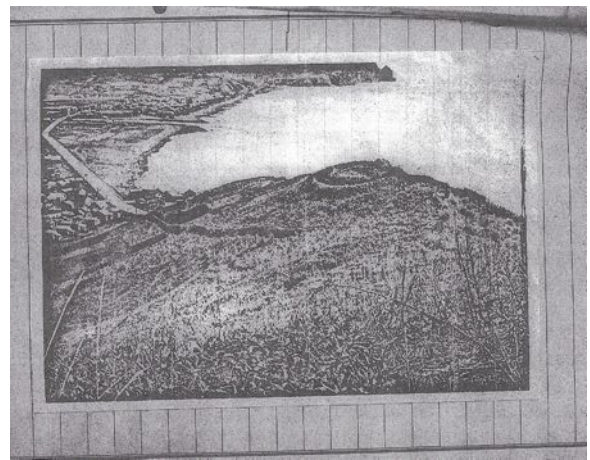


図25. 川下チャシ白黒コピー

みられ、つながっているようには見えない。この見方が正しいとすると、この本にp11に掲載されている「北海道内チャシ一覧表」中にある「⑦壕の形、構造状の特徴:C字状, 1条」の記載とは相違があるように見える。またこの図は昭和55(1980)年の『日本城郭大系第一巻』(藤本・名嘉編, 1980)に一部改変され利用されたとみられる。また図25に掲載した白黒写真は、この画像がいつ撮影されたか不明であるが、前掲6で記載した16mmの「北海道のチャシ」のなかに同じショットが出てくるのでおそらくこの調査の際に撮影されたと考えられる。この写真は川下チャシの北東側の高地から撮影されたとみられる。この画像からは東南に傾斜したチャシの全景と下段の深い溝と上段の浅い溝らしい痕跡がみえる。この画像からチャシには2本の溝があることが推定される。さらに注目されるのは上段の溝は北東側

が一部途切れているようにみられ道のようにもみえる。前掲の図 22 の陸地測量部の地図などではチャシの東を通る旧道がチャシの部分で二股に分かれてるようなものもあり、この部分に出入口があった可能性もある。

10. 文献「北海道のチャシ」藤本英夫、

1977(『日本古代文化の探究 城 上田正昭、編 1977』

この論文の中で藤本は川下チャシを取り上げ、道東、釧路町の「遠矢第二チャシ」と同形式のものでは無いかと述べている。なお藤本は遠矢第二チャシの形式を「アルファベットのCを描いたような空堀が崖面に開口しているもの」(藤本 1977:165)と考えていたようである。ただ、川下チャシは未調査であり、後述するように荘内藩陣屋の付属施設という話もあり、今後さらに検討が必要である。

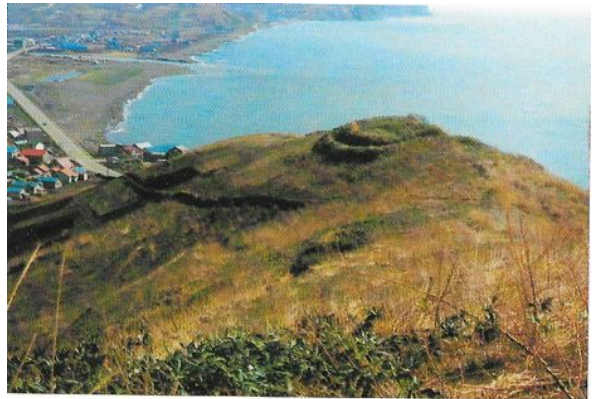
11. 文献 日本城郭大系第一巻 川下チャシ(藤本・名嘉編 1980)

昭和 55(1980) 年川下チャシは岡島チャシとともに『日本城郭大系第一巻』(藤本・名嘉編, 1980:133)に掲載される。川下チャシの執筆は藤本英夫氏によるものである。

また巻頭の口絵にカラー写真 15(図 26)が掲載されている。また「川下チャシ要図」(藤本・名嘉, 1980:133)(図 27)は「北海道教育委員会提供」となっている。なお、図 26 は映画「北海道のチャシ」にも類似のカットがあり、通常のカラー写真にしては画像が荒いのでこの 16mm フィルムからコピーされた画像の可能性がある。

ただ図 27 の測量図は、図 26 の画像と同じ遺構かと目を疑うほどで、大きく印象が異なる。記載は「⑤山城、⑥土塁・空堀 ⑦ 25 m×60 m ⑧標高 60 m」となっており、7 の調査記録とは異なっている。図 26 で注意されるのはチャシ左下に旧道と思われる道も見える。また⑥遺構の項に「土塁・空堀」と記載しており、「土塁」もと

もなうチャシと認識されていたらしい。



15 川下チャシ

図 26. 川下チャシ(日本城郭大系藤本, 1980)

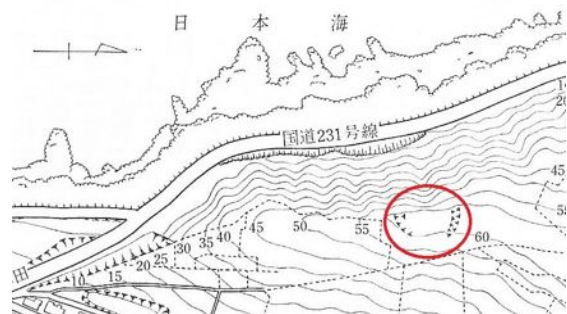


図 27. 川下チャシ要図(日本城郭大系藤本, 1980),

12. 文献 『ユーカラのふるさと』(河崎, 1982)・『「ユーカラ」への慕情』(河崎, 1986)

この 2 冊の小冊子はいずれも浜益の地方史研究者河崎宏太郎の著書で、前者は昭和 57(1982) 年、後者は昭和 61(1986) 年に自費出版されている。このなかで川下チャシに関する聞き取りが掲載されている。聞き取りした年月日は不明であるが、万延元年の荘内藩陣屋造成に関する古老の言として『ユーカラのふるさと』では「岡島の山上に大筒を備えた跡」,「岡島の川下寄りの高台に大筒を備える箇所をつくり」(p110 下線筆者),「大筒を備付けたところに建築した家の屋根は方屋根だったと云われ」(p 111),「アイヌ人ばかり使役して要塞を築設したので、要塞の外側に、アイヌ人のチャシ(城)をつくるのと同じに「く」の字形の深い壕を掘りめぐらしてつくり」という聞き取

りがある。

『ユーカラ』への慕情」p15では「アイヌの人は、チャシコツのように壕を建て物の周りに掘り、この場所をチャシコツと呼んでいたといわれている.」という聞き取りも記載している(下線筆者)。この聞き取りは陣屋築造にかかわった人の子孫から聞いたもので、かなり信ぴょう性の高いものとみられる。

この証言からは「川下チャシ」は「チャシ」ではなく、幕末期の軍事遺構という解釈が成り立つことになる。ただ次項14で述べる史跡指定の報告書にはこうした情報は記載されていない。当時、史跡指定の過程でこの情報がどのように取り扱われていたかについては不明である。また「この場所をチャシコツと呼んでいた」(ユーカラの慕情p15)と情報もある。単にチャシと類似した構造から比喩的にこう呼んだ可能性もあるが、すでに「チャシ地名」の項で記載したように「ホンチャシコツ」という地名が「川下チャシ」を指している可能性も考えられる。もともと「川下チャシ」があり、その後荘内藩陣屋の台場等が築造される際、チャシが再利用された可能性も考えられる。この点については発掘調査による構造確認が必要で今後の課題である。

13. 「荘内藩ハママシケ陣屋跡」1983年国史跡指定

昭和63年5月17日「荘内藩ハママシケ陣屋跡」国史跡指定告示、指定範囲には「川下チャシ」が含まれている。

14. 文献 平成4年『史跡荘内藩ハママシケ陣屋跡平成元年・2・3年度保存計画事業報告書』(北海道 浜益村教育委員会 1992)

この報告のP56には次のような記載がある。「陣屋から日本海への見通しは限られているが、陣屋西北方の日本海に直接面した山嶺上に吹流しを描いた絵図があり、愛冠岬から雄冬岬までの日本海の展望が開けたその地が見張台として機能してい

たことが知られる。この山嶺頂部には北海道でも日本海側に希少なチャシ(川下チャシ)も存在し、その地形は良好に保存されている。」(下線筆者)。ここでいう「吹流しを描いた図」というのは3で述べた図21のことであるが、見張り台と「チャシ」との関係については触れていない。図28に同報告書掲載の「見張り台」の航空写真を示した(浜益村教委宇久委員会, 1992:56)。「見張り台」の文字の部分に南北にある道は「本陣前に向かう道」とみられ、茂生にむかう山道とは別の可能性がある。なお赤字の「川下チャシ」の表示は筆者が追記したものである。

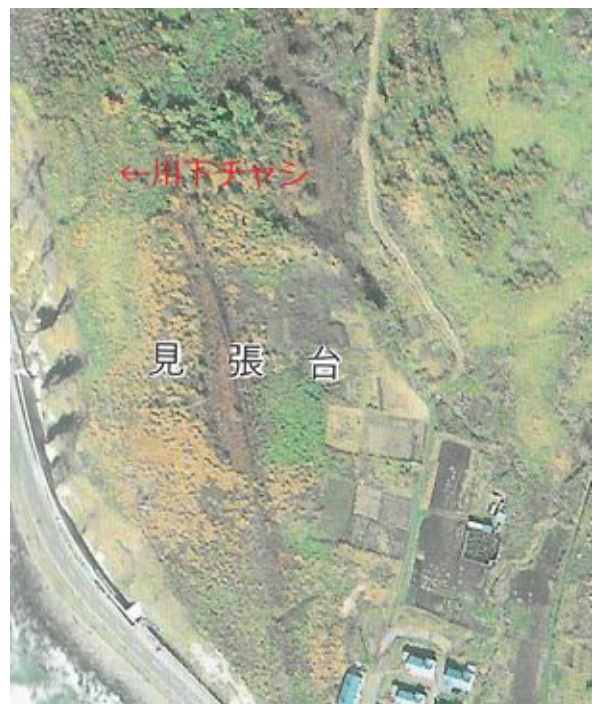


図28. 見張り台と川下チャシの位置(北海道 浜益村教育委員会, 1992に加筆)

15. 調査 宮塚氏による航空写真判読

図29, 図30 空撮から見えた川下チャシの形状について述べる。まず図29は平成30(2018)年宮塚義人が判読した「川下チャシ」の形状である。判読は昭和52年国土地理院の航空写真からおこなった。この判読では外周に幅広いに盛り土状のものがあ、その内側に長方形の平坦面があることがわかる。標高は60～61mにあり、西側が崩落していることがわかる。

また図 30 は国土地理院地図の「作図 3D 機能」で作成した南北方向の川下チャシの姿である。枠内がチャシで、見えづらいが外周に二本の溝状のものが見える。外側は盛土で一番外側の溝の排土の堆積と考えられる。内側の一本が宮塚図（図 29）で示されている盛り土の外周がみえているものとみられる。なお図 29 は国土地理院が昭和 52 年に撮影した航空写真を基に Stereo Metric Ver. 8.0 を使用して図化したものである。



図 29. 浜益川下チャシ跡航空写真判読図（*宮塚 2018）



図 30. 川下チャシ 3D

Ⅷ 令和 5(2023) 年の調査と今後の課題

令和 5 年の調査は 3 月末にドローンによる川下チャシの観察、撮影から始まった。この調査では「岡島チャシ」「古潭チャシ」の撮影、調査も同時におこなっている。川下チャシについては、島の南端にある旧教員住宅跡地付近からドローン

を飛ばし、岡島の稜線を北にたどり撮影をおこなった。4 月 11 日には浜益区や「いしかり砂丘の風資料館」のみなさんと現地踏査をおこなった。この踏査では川下チャシまで実際にのぼり現状を確認した。現地踏査時、すでに雪から解放されたササが起き上がり歩行も大変困難で、地上からでは溝の形状やチャシの全体形状は把握できなくなっていた。

図 31 は古潭チャシでのドローン撮影のようす。図 32 は川下チャシのドローン調査風景で送電線の右が岡島、車の向こうに川下市街、愛冠岬がみえる。

図 33 は発進させた直後のドローン画像で奥の高い山が標高 135 m の岡島のピークで、その手前の矢印で示した小さなピークに「川下チャシ」がある。図 34 は国道 231 の覆道の上空から北東向きに撮影した画像である。左隅の屋根が覆道の一部で急斜面が岡島の海食崖断面である。かつてはこの南端付近にも「洞窟遺跡」があったと聞かすが、国道の覆道工事の際、ふさがれたらしい。

なお、岡島南端から「川下チャシ」までは北へ約 280m、川下八幡神社からは北西に約 750m の位置にある。図 35 はチャシの南側からの撮影画像で、頂上にササが楕円形になり、下にも緑の濃い溝がある。図 36 は接近した画像である。この二つの画像から読み取れることは、ササが濃い緑色の二重のラインがみえることである。緑の二重のラインとの間はササが枯れており、茶色になっている。ササの枯れた部分は頂上部にもある。この色の違いは、地下の水分量の違いによるものとみられ、このことから上下 2 本の溝があると考えられる。この 2 本の溝は Google Earth でも確認され、とくに下段の溝は「コの字」形に見える。下の緑のラインの外側は土手状にみえる「土の盛り上がり」で 1 本目の溝を掘った際の排土とみられる。すでに述べた日本城郭大系の「川下チャシ」（藤本，1980：133）で「⑥土塁・壕」と記載されているが、「土塁」とはこの「土の盛り上がり」

のことを指しているのかもしれない。またチャシ上段の溝の南端付近にある灰色の格子状のものはテレビ難視聴解消用のアンテナで史跡指定とほぼ同じ時期に建設されたようだ。

図36・37は4月11日の現地踏査の際の写真で下段の溝から上へのぼる同行者の姿であるが、ほとんどササに埋もれている。計測はしていないが下段の溝から上段の溝まで3m以上の比高差があるとみられる。図37・38は図26で示した日本城郭大系の掲載写真の拡大でわずかに上段の溝も見え、上面が比較的平らにみえる。16mm「北海道のチャシ」では画像を静止してみると四角い形状の平坦面が二枚あるようにみえる。

図39に川下チャシの東西断面の想像図を示した。この図のように、このチャシの西側海食崖上にあり、すでに一部崩落しているとみられる。これは国土地理院の航空写真などでも確認できる。川下チャシの平面形は図28, 29, などで分かるように南北に長い「コの字」に近い2本の溝をもつ遺構である。図39・図40は現時点で考えられたチャシの東西の地名断面図と平面図である。とくに図40に緑のラインで描いたよう2本の溝がある遺構とみられる。このラインはすでに第35・36図のドローン画像からみえる。①は最上部の平坦面で②は外周を巡る溝の排土とみられる部分である。

チャシの全体形状は実測していないので正確には分からないが、航空写真や地形等から推測すると「C字」状ではなく「コの字形」に近い2重の溝をもった遺構と推測される。

今後の調査課題

- ① この遺構の構造と詳細な測量図の作成。
- ② このチャシがアイヌ文化の遺構であるのかどうか明らかにする。
- ③ このチャシと伊能図のチャシ地名との関係を明らかにする。
- ④ この遺構が荘内藩陣屋の附属施設で台場であるかどうか明らかにする。



図31. 撮影風景（筆者撮影，人物は高橋氏）



図32. 川下チャシ調査（筆者撮影）



図 33. 矢印は川下チャシの位置



図 34. 岡島の西面（海食崖）



図 35. 川下チャシ遠景



図 36. 図 35 の接近画像
(注：図 33 ～ 36 は高橋氏 2023 撮影ドローン画像)



図 37. 下段の溝と上段への斜面（筆者撮影）



図 38. 日本城郭大系口絵拡大
(藤本, 1980)

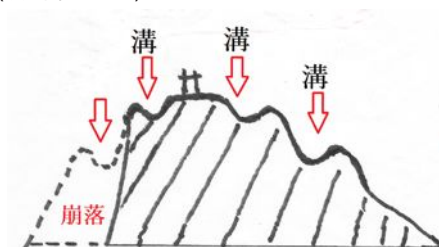


図 39. 川下チャシ東西断面推定図

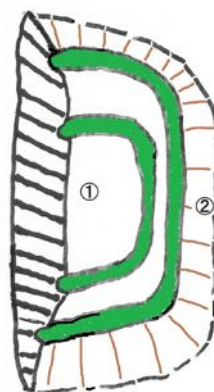


図 40. 川下チャシ平面概念図

謝辞：本報告を作成するにあたり，次の機関にお世話になったので名前を記して感謝申し上げます。国立国会図書館，国土地理院，鶴岡市郷土資料館，北海道大学図書館，早稲田大学デジタルアーカイブ，函館市立中央図書館，石狩市教育員会。

引用文献

藤本英夫，1976. チャシについて（覚書）. 北海道考古学第12輯. 北海道考古学会.
藤本英夫，1977. 北海道のチャシ. 日本文化の探究 城，上田正昭編. 社会思想社：165.
藤本英夫・名嘉正八郎編 1980 日本城郭大系第1巻 北海道 沖縄. 新人物往来社：写真15.
藤本英夫，1980. 川下チャシ. 日本城郭大系第1巻 北海道 沖縄. 新人物往来社：133.
福田友之，1980. 岡島チャシ. 日本城郭大系第1巻 北海道 沖縄. 新人物往来社：132.
函館市中央図書館蔵，1849. 西蝦夷道中見取図.
北海道廳，1887. 假製五万分一圖 増毛第十一號 茂生. 国土地理院.
北海道教育庁文化課編，1983. 北海道のチャシ. 北海道教育員会：11，40.
北海道 浜益村教育委員会，1992. 史跡荘内藩ハマシケ陣屋跡平成元年・2・3年度保存計画事業報告書.
一ノ瀬紀一郎，1854. 蝦夷廻浦図絵（茂生及び岡島の部分）. 函館市中央図書館：写真1，56.
国土地理院，2024. 国土地理院古地図コレクションサイト「伊能大図 増毛」.
金田一京助，1961. アイヌの詩曲について. 金田一京助喜寿記念アイヌ文化志 金田一京助選集Ⅱ，三省堂：136.
小林和夫，1980. 北海道のチャシ地名. 日本城郭大系大系1 北海道・沖縄，新人物往来社.
河野常吉ほか，1987. 北海道殖民状況報文石狩國. 北海道出版企画センター：149，157.
河野広道，1932. 北海道に於ける洞窟遺跡. 蝦夷往来第九號 書肆，尚古堂：91.
河崎宏太郎，1982. ユーカラのふるさと. 私家版：110-111.

河崎宏太郎，1986. 先住民族の文化遺産『ユーカラ』への慕情. 私家版：15，24.
札幌映像プロダクション，1976. 北海道のチャシ.
杉山壽恵男，1936. 北海道石狩國濱益村岡島洞窟遺跡. 東京人類学会：356.
宇田川洋，2005. 増補改訂アイヌ伝承と砦（北方新書007）. 北海道出版企画センター：46-47.
宇田川洋，2006. 増補アイヌ考古学（北方新書003）. 北海道出版企画センター：12.
山田秀三，2000. 北海道の地名. 草風館：119.
吉田寿人・石橋源，1971. 浜益村小史. 北海道浜益村：6，21.
吉田寿人，1971. 表紙 浜益村川下史跡荘内藩陣屋之絵図. 北海道の文化20，北海道文化財保護協会.

調査ノート 石狩市浜益区「黄金山」とはどのような山か

General survey : What kind of mountain is "Koganeyama"
in Hamamasu-ward, Ishikari City?

石橋 孝夫*

Takao ISHIBASHI*

キーワード：黄金山, アイヌ民族

はじめに

石狩市浜益区の「黄金山」は同区の象徴的山で、古くはこの地のアイヌの人々が神々の住む山として儀式の際に祭壇に祀ったといわれている。その後、この地のランドマークとして、ここを通る人々の日誌や絵図に記録され広く知られる山となった。

昨年、筆者は浜益区の「チャシ」に関する考古学的調査をおこなった際、関連でこの「黄金山」に関する文献などを調査する機会に恵まれた。本稿は、その調査にともなって筆者が目にした黄金山に関する文献について取り上げ紹介し、この山が人々にどのように認識されてきたかについて考えてみたい。

1. 黄金山の位置と景観

図1に石狩市浜益区と黄金山の位置を示した。また図2に黄金山、摺鉢山、岡島、毘砂別川などの位置を示した。なおこの図のベースは明治30年の陸地測量部の地図「茂生」(北海道廳1887)を使用し、その上に関連する地名を加筆し

た。黄金山は浜益平野の北東奥にある独立峰で標高739.1mである、摺鉢山は標高169mである。第3図に浜益平野上空の西から東方向に撮影したドローン画像を掲載した。山の名称は左から黄金山、丸山、摺鉢山である。

なお、この画像は浜益区の「チャシ」調査に協力いただいた高橋俊彦氏から提供された画像で、撮影日は2023年4月17日である。図4は安政元(1854)年に描かれた「蝦夷廻浦図絵」の一部で中央に黄金山、その前に現在の丸山と摺鉢山が描かれている。黄金山の図は良くみるが、江戸時代の図にこれ以外の丸山、摺鉢山の姿が描かれているのは珍しい。

図5は東側からみた摺鉢山を東側から撮影した画像で遠くに石狩湾がみえる。図6は船上から見えた黄金山の姿で、船と山の距離は約32kmである。このように黄金山はかなり遠くからでもその特徴的な姿が視認できる。また、この山はそばにある丸山とともに船の航行や網入れ目標となっていたとも聞く。

黄金山は2009年、国の名勝ピリカノカのひとつとして指定された。指定理由は「黄金山(ピンネタイオルシペ)は標高739.1mのピラミッド状

* いしかり砂丘の風資料館(学芸協力員) 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

の美しい山で、その呼称は「樹叢(じゅそう)の平原の中に聳える雄山」を意味する。この山を中心とする一帯は、ユカラに少年英雄として登場するポイヤウンペの拠点としての伝承を育み、この地のアイヌの人々を長く守護し続けた。(解説文抜粋)(月刊文化財, 2009: 15)となっており、ユカラとの関連が強く指摘されている。ここでいう「拠点」とは「チャシ」のある場所の意味と思われる。

宇田川洋(宇田川, 2000: 6, 82-84)によるとチャシは16～18世紀の所産といわれている。しかし、黄金山は浜益アイヌの「チノミシリ(我々が祈る山)」だったとみられる。そのためポイヤウンペの拠点と思われるようになったのは、ユカラが成立した後のことと筆者は考えている。黄金山の存在はユカラとともに浜益以外のアイ

ヌの人々に、その存在が古くから知られていたようである。久保寺逸彦は『アイヌ民族誌下』(久保寺, 1969: 755)のなかで「胆振・日高のアイヌの故老は、ユカラの発祥地を日本海岸浜益の地と伝えている」と述べており、そのことが窺われる。このように他地域にも浜益のユカラが広まったのは、浜益のニシン漁と密接な関係があるようだ。幕末から明治にかけ胆振・日高地方のアイヌの人々が浜益のニシン場で働いており、この人たちが胆振日高に帰って情報を広めたと考えられる。鈴木トミエ(鈴木, 2007: 48)によると明治22(1889)年の新聞記事に「川下村のニシン漁時の季節働者は10分の6青森地方, 10分の3は白老幌別地方のアイヌの人だった」とあるといい、近代になっても太平洋岸の人々密接な関係が保たれていたことがわかる。



図1. 黄金山と浜益区の位置

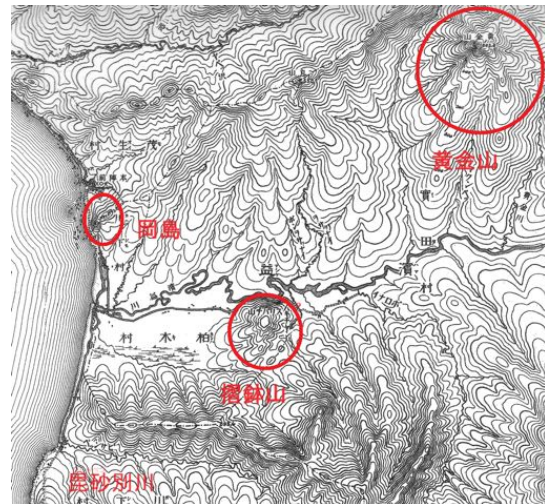


図2. 摺鉢山, 岡島, 昆砂別川等の位置(北海道廳, 1887 茂生に加筆)



図3. 浜益平野からみた黄金山，丸山，摺鉢山（高橋俊彦氏撮影）



図4. 幕末に描かれた黄金山，丸山，摺鉢山（蝦夷廻浦図絵・函館市中央図書館）



図5. 東側からみた摺鉢山（高橋俊彦氏撮影）



図6. 海上からみた黄金山（筆者撮影）

2. 日誌や絵図などに記載された「黄金山」「摺鉢山」

次に日誌や絵図などに残る「黄金山」の名称と変遷について述べる。年代的には江戸時代、明治を中心とする。また関連で「摺鉢山」も名称も含めた。

① 黄金山の最古の記録は18世紀末の松前藩士高橋壯志郎が書いた『蝦夷巡覧記』(寛政9(1798)年)とみられる。この文献には「コカ子ヤマ」と表記され、古くから和名称があったことがうかがえる。この文献の記載は「ハママシケ 當所■運上屋有り産物鯡海鼠鮑鱈カスへ鱒鮭魚油メ粕水悪シ當所ヨリヲフイ先子丑ニ當ル尤丑ノ方エ寄ル此所沢有り 及部ノ沢位ナリ川幅八九間舩渡シ當所ニコカ子山ト云山有りヂャリ浜」となっている。なお文中「及部(およべ)の沢」とあるが、これは浜益の川でなく松前の「及部川(およべがわ)」のことだと思われる。(北海道立図書館所蔵資料閲覧)

② 黄金山の山容を具体的に描いた最古の記録は同じ寛政9(1798)年、近藤重蔵の「蝦夷地地図」(札幌市史, 1989)であろう。この図も「コカ子山」のカタカナ+漢字表記で記録されている。

③ 次はカタカナ+漢字表記でなく漢字表記の「黄金山」及びアイヌ語名の最古例を示す。その文献は享和9(1801)年の磯谷則吉の『蝦夷道中記』で「此名黄金山ト云フアリ又タヨロシへとて義経の古跡アリ」の記載がある。いうまでもなく「タヨロシへ」はアイヌ語で黄金山のアイヌ語呼称の最古の記録とみられる。同時に源義経伝説が記録されており、ユーカラに類似した伝承がすでにあっただことも窺える。義経伝説とユーカラの関係は不明であるが同時期に発生していた可能性もある。

④ 次に文化年間になると黄金山の具体的な山容の記述がみられようになる。例えば田草川伝次郎の「西蝦夷地日記」には「小か年山 濱マシケにあり富士山に似たる形也さのみ高山にはなし能き山也」(文化元1804年)(中山編, 1944: 89)。

⑤ 次は文化5年の館野瑞賢の手紙では「舎吏に当てコカ子山と言あり、沢辺に出て猊猪口皿を伏したる如くして衆峰に秀でたり、是又靈山」と書かれ、「靈峰富士」にその姿を重ねたものと見られる。(高倉編, 1982: 479)

⑥ ここで文献に登場する黄金山の山容の代表例3例と異例1例を示す。図7～8は黄金山の山容の代表的なものを示した。図9を除き、いずれも西側(海側)から見た姿である。図7は寛政9(1797)年に谷口青山が描いた『自高島至斜里／沿岸二十三図』(函館市中央図書館蔵)にある黄金山の姿。図8は荘内藩士が文久二(1882)年に同僚の旅行記から筆写した中にある「黄金山」の姿である(鶴岡市郷土資料館 原家資料68)。図9は目賀田帯刀が安政3～5年の調査に基づいて描いた「延叙歴検真図」から明治4年に浄書した「北海道歴検図」「石狩州(下)」(目賀田, 1871)にある黄金山の姿で山名は「小金山」とある。

⑦ 図10は筆者の撮影で東側から北向きに撮影したもので山容はがらりと変わり、「マッターホルン」あるいは「ピラミッド」と形容する人もいる。

⑧ 図11は明治30年に描かれた黄金山である。絵には「黄金山真景 在於北海道之濱益 丁酉夏六月 自學田信」と題名と作者名がある。黄金山の右端の山は「丸山」で作者は「自學田信」という画家であるが詳しい経歴は不明である。この人の絵は旧石狩市にも伝わっており、おそらくこの当時、ニシン場や土地の有力者を訪ね歩き絵を描

き生活をしていたものと見られる。この「黄金山真景」も浜益の大きなニシン場の経営者の家に所蔵されていたもので、画家にふるさとの山を描くようにとの希望があり描かれたと伝わっている。

⑨ 摺鉢山については明治 26(1893) 年の「二十萬分ノ一北海道實測地図」(北海道廳編纂)が初出で当初の表記は「スリバチ山」である。河崎宏太郎によると明治半ばまで「丸山」とも呼ばれていたという。また摺鉢山のアイヌ語名の一つ「ベツサムシベ」は昭和になってから確認されている

(河崎, 1982)。なお、現在の「丸山」は図 3 に示したように黄金山と摺鉢山の間にある。なお摺鉢山のアイヌ語名「マチネタイルベシベ」の初出は昭和 16(1941) 年の名取武光の「沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ」である。

以上、11 例の摺鉢山を含む「黄金山」に関する資料を紹介した。さらに前記 11 例も含むが表 1 に明治末までの黄金山の名称にに関する文献を参考まで示しておく。



図 7. コカ子山(谷口青山, 1798 函館市立中央図書館)



図 8. 黄金山 文久 2(鶴岡市郷土資料館 原家資料 68)



図 9. 小金山(目賀田, 1871)



図 10. 東側から北を望む(筆者撮影)



図 11. 黄金山真景 明治 30 年 自学田信画 石狩市はまます郷土館蔵(撮影荒山千恵氏)

表1.

西暦	和暦	文献名	著者	名称等
1797	寛政9年	蝦夷地巡覧記	高橋壮志郎	コカ子山
1797	寛政9年	蝦夷地地図	近藤重蔵	山容図
1798	寛政10年	高島至斜里/沿岸二十三図	谷口青山,	コカ子山(其色黒)
1801	享和9年	蝦夷道中記	磯谷則吉	黄金山 タヨロウシへ 義経伝説
1897	文化4年	蝦夷地図	今井寛治郎編	小金山
1897	文化4年	西蝦夷地日記	田草川伝次郎	小か年山 濱マシケに ある富士山に似たる.
1898	文化5年	書 簡	館野瑞賢	コカ子山 猪口皿を伏 す 霊山
1846	弘化3年	蝦夷日誌	松浦竹四郎	コガ子山 摺鉢を伏 す, 富士の如し 黄金 白金多く出し
1854	安政元年	蝦夷廻浦図絵	一瀬紀一郎/筆, 白 井金鳩/模写	函館市中央図書館
1857	安政4年	入北記	玉蟲左太夫	小金山 古来より登ル 人ナシ
1857	安政4年	西蝦夷日誌	松浦武四郎	コカ子山(丸山) タイル ベシベ コガネ山
1858	安政5年	蝦夷日誌	後藤蔵吉	コカ子山 金山穴
1858	安政5年	西蝦夷地濱マシケ略絵図	藪内於太郎	小金山
1859	安政6年	東西山川取調図	松浦武四郎	コカ子ヤマ 黄金山
1862	文久2年	庄内鶴ヶ岡より津軽領青森三厩 へ出, 箱館松前へ渡海蝦夷東地 ヲシヤマンへより黒松内越西海 岸ヲツスツ江出, 夫より北地樺 太迄明細絵図道中記 文久二年 壬戌臘月写之	(原家資料68)	黄金山
1868	明治1年	官板実測日本地図 官板実測日 本地図		コカ子山
1869	明治2年	北海道全図 開拓使版		コカ子山
1869	明治2年	北海道国郡全図	松浦武四郎	コカ子山
1870	明治3年	千島一覧 明治三年	泉谷市兵衛	コカ子山 道立図書館

西暦	和暦	文献名	著者	名称等
1871	明治4年	北海道歴検図「石狩州(下)」	目賀田帯刀	小金山
1873	明治6年	石狩国浜益郡地図	開拓使編輯課	黄金山
1874	明治7年?	日本地誌略巻4 石狩国	師範学校編集	黄金(ルビ：コカ子)・阿曾岩登諸山
1874	明治7年	日本地名字引	大槻修二編	八十黄金山 黄金登(コガネノボリ)
1875	明治8年	日本地誌略	富士越金之助編集	黄金山阿曾山
1875	明治8年	日本地誌畧字引(全)	永田方正編	黄金山(ルビ；ワウゴンザン)
1877	明治9年	日本地誌略字引		石狩国山名「黄金山(ルビ；コガネヤマ) 阿曾山」
1878	明治10年	日本地誌略字引巻4 師範学校編輯 明治十年一月改正		黄金阿曾岩登
1879	明治11年	日本地誌略字引巻4	石川敬義編	黄金(ルビ；オウゴンコガネ)
1879	明治11年	日本地誌字引巻4	谷内総太郎	黄金山(ルビ；コカネヤマ)
1880	明治12年	日本地誌字引巻4	永田方正	小金山(ルビ；コカネヤマ)子金山又 黄金山(ルビ；コガネヤマ)
1881	明治13年	日本地誌略字引4	山口常太郎	黄金(ルビ：コガネ)―二子金二作
1885	明治17年	北海道志	開拓使編	黄金山浜益郡ニアリ
1886	明治18年	改正日本地誌略巻4	大槻修二	黄金幌群別
1893	明治26年	二十萬分ノ一北海道實測地圖	北海道廳編纂	黄金山 スリバチ山
1897	明治30年	黄金山真景	自學田信画	石狩市はまます郷土資料館蔵
1899	明治32年	日本名勝地誌第九編	松原岩五郎	黄金山・丸山(丸山初出)
1900	明治33年	浜益沿革史	増田良三	浜益村史所収 浜益富士
1900	明治33年	北海道殖民状況報文石狩国	河野常吉	黄金山 浜益富士 スリバチ山

3. 国定教科書と黄金山

今回の調査では「黄金山」が明治の尋常小学校用国定教科書の「日本地誌略」に掲載されていることがわかったので、そのことについて簡単に述べておく。またこれに関連して「日本地誌要略」や「字引」という参考書にも「黄金山」などが掲載されている。

とくに明治7(1874)年発行の『日本地名字引』(大槻 1874:80)では「黄金登^{コガネノホリ}」という山名がみられた。この山名は筆者にとっては初見で、少なくとも未確認の呼称だった。その後調査を進めると『日本地誌略』でも版により、「黄金登」とするものがあることが確認された。「登」は「のぼり」というルビが付されていることから、アイヌ語の「ヌプリ」=「山」を起源としているとみられる。

この山名は現在ではほとんど確認できないが教科書に記載されていることから、今後さらに調査が必要だが、明治期にはこの呼称もあったのだろうと思われる。なお「黄金登」は「黄金(和語)+登(のぼり・ヌプリ=アイヌ語)」の複合名称とも考えられる。

ちなみに、厚田区の「阿蘇岩」も「阿曾登」と記載している版も存在する。

「日本地誌略」は筆者が確認できた範囲では明治7(1874)年から明治19(1886)年にかけて改訂しながら出版されたものと見られる。全4巻で全国の地理を学べる形になっている。通常は4巻目が「北海道・樺太・千島、琉球国」となっている。

教科書の内容はその地方の代表的な地形、町、河川、山、特産品などが掲載されている。前記したが、この教科書とは別に各巻に出てくる漢字の読み方を記したルビ付きの「字引」という本もみられ、これらの本をみることによって当時の呼称が確認できる。

しかし、「日本地誌略」の出版年代はちょうど北海道では開拓期にあたり、まだ教育所の設置も少なく北海道内でこの教科書がどの程度使用でき

たか筆者は十分把握できていない。『浜益村史』(石橋源昭和, 1980:985)によると、明治10年当時すでに厚田区古潭では教育所が開設されており、この教科書が使用されていた記録がある。これは開拓使学務局員が指導巡回した際の復命書に「(厚田古潭の教育所)生徒二七名、上等ハ日本地誌ヲ読ムト。」という記載と厚田区厚田村でも「上等ハ地誌略ヲ読メリ。」とあり、日本地誌や日本地誌略が使用されていたことがわかる。浜益区茂生の「浜益教育所」の開設は翌明治11年で、おそらく厚田村をならって『日本地誌略』なども使用されたとみられる。

ちなみ図11に明治8年版の「奥川富士越(編集) 日本地誌略 北海道柯太州琉球国之部」(P5.)に「石狩ノ圖」があるので紹介する。

この図は石狩川河口部の現石狩市本町地区のようすを描いたものである。上段の記載には「石狩川ハ五大大河ノ第一ニシテ、西ノ父川ト称ス」という石狩川の説明がある。

図は「石狩浜の第二砂丘から北～東方向、つまり石狩川越に現石狩市八幡を俯瞰するように描いたスケッチ」で遠くに浜益や増毛の山や岬もみえる。手前の山は当別村の阿蘇岩山と見られる。石狩川の右岸には若生の街並み、川に小さな舟が対岸を目指しているのは石狩川渡舟であろう。海には北前船が南に進んでいる。そして一番手前に石狩川と石狩本町地区の街並みがあり、三階建もある高い物見やぐらが設置されている。砂丘手前の細長い建物は「本陣(旧石狩運上屋)」で物見やぐらは本陣の付属施設だと思われる。この時期の石狩市の河口部付近を描いた図は数少なく貴重である(図12)。

以上、『日本地誌略』について述べたが同時期のこの本に類似した『日本地誌略物産弁』という本もある。これも4巻目が「南海道・西海道・北海道」である。内容は日本各地の物産の紹介である。この本では石狩国物産は「○鮭・鱒・海鼠・鰻・海藻 石狩川及ヒ浜益・厚田等 諸郡ノ河海

ニ産ス、中略。○海獣 浜益郡ニテ獵ス、海驢多シト云フ、」となっている。この本は恐らく今という「社会科副読本」のようなものと思われ、この本の第四巻目は明治10年初刻、再刻本は明治13年に出版されたという（桜井正信昭和54年日本産物誌p191）。

すでに表1に今回の文献調査で把握できた黄金山・摺鉢山の山名変遷の一覧を示した。年代的には江戸時代から明治時代のものを示したが、この時期に限っても他に把握していない文献が多数あるものと思われる。この表をみると分かるように、江戸時代から明治前半期までは「コカ子山」「黄金山」「小金山」とばらつきがあるが、それ以降は「黄金山」の表記が定着するという傾向が把握できる。

また浜益では明治前半に区名に「黄金区」が採用され、「浜益富士」の地域名称もこの時期生まれている。このほか黄金山にちなむ名称は「小金川」「黄金村」「黄金平野」「黄金橋」などがあったようである。このような例では浜益川下の尋常小学校設置歎願書に「地方有名黄金山ノ称ヲ取り黄金小学校ト称ヘ候様致度」（坂本，2010）という記述もみられる。また、前記のように明治初期には黄金山は国定教科書にも記載されるなど広く知られる山となり、郷土意識の醸成にも大きな影響を与えるふるさとの山になっていったとも見ることでもある。

4. 浜益アイヌと黄金山・摺鉢山

最後に黄金山・摺鉢山が浜益アイヌの人々にどのように認識されていたかが具体的にわかる「熊送りの祭壇」の図について述べる。この資料は金田一・杉山（1942）の「石狩國濱益熊祭イナウ配列順序」、名取武光（1974）の「沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ」で紹介されているものである。

すでに筆者は黄金山について、本来「チノミシ

リ」のような存在であったのではないかと推定した。ここでは、浜益区出身の山下三五郎氏の「熊送りの祭壇の図」や同氏が情報を与えたと思われる名取武光の論文から読み取れる山の性格を考えてみよう。これらはいずれも昭和の記録であるが、山下氏が明治15年生まれ（大坂2019）ということから大まかには明治から昭和にかけての浜益アイヌ文化に関する情報とみてよいだろう。

明治期のこの地域の関連情報としては、明治22年の永田方正の地名調査がある。この調査では札幌に居住していた琴似又市が同行しており、毘砂別川右岸側と上流にユーカラ関連の土地があると教えたと思われる。

又市は浜益の人ではないことから浜益以外でえた情報をもっていたものと思われる。なお永田の調査の際の資料は火災により消失したようで、その詳細は分かっていない（永田，1911）。

また浜益村史を編纂した石橋源氏の調査によると、山下は大正15年までは浜益にいた記録があるという（石橋私信）。

図13に山下の木彫り熊を示した。制作年は不明であるが、これは豊川重雄（故人）が浜益で知人から譲りうけたもので後足底面に「三五郎」と彫られており、山下の作品であることがわかる。また、杉山寿栄男の「北海道石狩国浜益村岡島洞窟遺跡」（杉山，1938：348-360）によるとこの調査の際、山下に案内を頼んだことが記されており、浜益に向かう道中、山下がユーカラを聞かせてくれたとあり、山下が浜益のユーカラの伝承者の一人だったことがわかる。

図14は山下三五郎氏が描いた「石狩國濱益熊祭イナウ配列順序」図及びその部分拡大である。これは昭和17(1942：4)年金田一京助・杉山壽恵男が出版した『アイヌ芸術木工編』に掲載されたものである。この図は浜益での「熊祭り（熊送り）」の際捧げられたイナウ（神）とその配置と捧げられた神の名前を解説したものである。

この図では中央の熊の頭骨の左側の③と示されたイナウが「ヒンネタヨルベ マシネタヨルベ」で、その下に「上男 浜益黄金山」「下女 摺鉢山」と注記されており、黄金山と摺鉢山が儀式の際に祀られる存在であったことがわかる。

次は名取武光の「沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ」と題する論文を見てみよう。これは名取が昭和16(1941)年に北方文化研究報告に発表したもので、昭和49年に同氏の著作集Ⅱに補筆・再録されたものである(名取, 1974: 143-144)。この論文には正装した山下三五郎氏とヌササン(祭壇)の写真も掲載されている。撮影場所は書かれていないが写真説明には「浜益毛のヌササン(山下三五郎氏・北大博物館所蔵)」とあり、浜益毛=現在の浜益で撮影されたと推定されるの山下三五郎の祭壇であると推定される(名取, 1941・1974)。

この論文では前掲の「石狩国濱益熊祭イナウ配列順序」の場合より「ていねいに熊祭りをする場合」の例が記載されている。それによると、最大で60本くらいのイナウ(神)をたてるそうで、60本のイナウのなかには「十黄金山(ピンネタヨルシベ)」、「十一、マチネ山(マチネタヨルベ)」ほかに「十二、山城の神(チャシコットコロカムイ、ポイヤウンペのチャシ)」、「十三、山城から来る川(オキランナイ)」、「十四、ポイヤウンペの戦場高地(シンヌタツプカ)」のイナウが祀られたという。この記載では、黄金山、摺鉢山(マチネ山)とは別に「山城の神」が祀られていたことがわかる。山下三五郎が伝え聞いていたポイヤウンペのチャシは「黄金山」「摺鉢山」とは別の場所にあったことが窺えるなど、重要な情報が含まれている。この記載からみると「黄金山」「摺鉢山」はユーカラの主人公の「砦」ではなく別の価値をもった山だったと理解できよう。



図12. 明治八年「官許 奥川富士越金之助 日本地誌略 北海道柯太州琉球国部」 石狩ノ圖



図13. 山下三五郎の木彫り熊(制作年不明 私設尚古社資料館蔵)

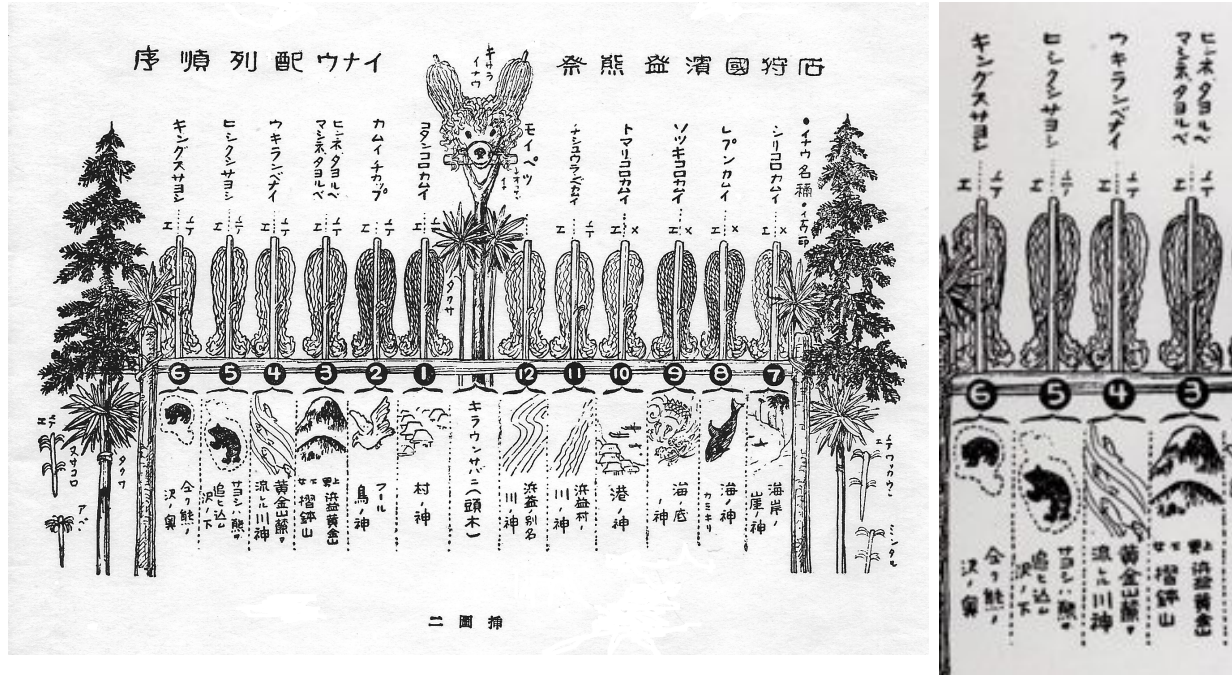


図 14. 「石狩国濱益熊祭イナウ配列順序」と部分拡大 (アイヌ芸術木工編 金田一・杉山, 1942)

謝辞：本報告を作成するにあたり、次の機関・個人からご協力をいただいたのでお名前を記して感謝申し上げます。国立国会図書館、国土地理院、鶴岡市郷土資料館、北海道大学図書館、早稲田大学図書館デジタルアーカイブ、函館市立中央図書館、私設尚古社資料館、石狩市教育員会、工藤義衛、荒山千恵。

引用文献

富士越金之助編輯, 1875. 北海道柯太州琉球國之部 日本地誌略. 五書房発行.
 富士越金之助, 1876. 官許 奥川富士越金之助 日本地誌略 北海道柯太州琉球國之部: 5.
 月刊文化財, 2009. 名勝の指定 ピリカノカ. 第一法規株式会社: 15.
 原家資料 68, 1862. 庄内鶴ヶ岡より津軽領青森三厩へ出, 箱館松前へ渡海蝦夷東地ヲシヤマンへより黒松内越西海岸ヲツツ江出, 夫より北地樺太迄明細絵図道中記 文久二年壬戌臘月写之. 鶴岡市郷土資料館蔵.
 北海道廳, 1887. 假製五万分一圖 増毛第十一號 茂生 令和 5 年. 国土地理院道.
 一瀬紀一郎 / 筆・白井金鳩 / 模写, 1854. 蝦夷廻浦図絵. 市立函館中央図書館蔵.

石橋源. 1980. 浜益村史. 北海道浜益村: 295, 485.
 石川敬義編, 1879. 日本地誌略字引巻四. 武藤出版時習堂.
 磯谷則吉, 1801. 蝦夷道中記. 北海道大学附属図書館.
 自学田信, 1897. 黄金山真景. 浜益郷土資料館.
 開拓使編, 1885. 北海道志. 北海道大学図書館蔵.
 河崎宏太郎, 1982. ユーカラのふるさと. 私家.
 河崎宏太郎, 1986. 先住民族の文化遺産『ユーカラ』への慕情. 私家版.
 金田一京助・杉山壽恵男, 1942. 石狩國濱益熊祭イナウ配列順序, アイヌ芸術木工編: 4.
 久保寺逸彦, 1970. ユーカラ. アイヌ民族誌下 (アイヌ文化保存対策協議会編), 第一法規.
 松原岩五郎, 1897. 日本名勝第九編 (北海道の部). 東京博文館: 96.
 松浦武四郎・吉田常吉 (編), 1994. 新版蝦夷日誌 (下), 西蝦夷日誌 第五編.
 松浦武四郎, 1859. 東西蝦夷山川取調図. 北海道立図書館.
 目賀田帶刀, 1871. 北海道歴検図「石狩州 (下)». 北海道大学北方資料室.
 文部省, 1874 ?. 日本地誌略巻 4. 師範学校編輯: 8
 永田方正, 1911. オシクタ旅行記. 人類学雑誌第貳拾七卷第壹號.

- 永田方正編, 1875. 日本地誌畧字引全 (巻3).
- 中山利國編, 1944. 西蝦夷地日誌. 求龍堂: 89.
- 名取武光, 1941. 沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ. 北方文化研究報告第四輯.
- 名取武光, 1974. 沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ (補筆判). アイヌと考古学 (二) 名取武光著作集Ⅱ: 143-144.
- 名取武光, 1985. アイヌの花矢と有翼酒箸. 六興出版 アイヌの花矢 胆振・日高地方, p40 補注.
- NHK 北海道本部編, 1975. 北海道地名誌. 北海道教育評論社.
- 岡谷義一, 1877. 岡谷義一編輯改正日本地誌略字引 北海道 柯太州 琉球國之部. 東京書林, 星野松蔵版 明治九年一月七日新刊: 5.
- 大坂 拓, 2019. 浜益地域のアイヌ民具資料に関する基礎的検討—1930年代の研究. 動向と工芸家山下三五郎の活動—北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 (4).
- 大槻修二, 1874. 日本地名字引 森屋治兵衛: 80.
- 大槻修二編, 1876. 日本地誌要略 巻三 北陸 北海.
- 大槻修二著・永田方正解, 1880. 改正日本地誌要略字引.
- 大槻修二, 1886. 改正日本地誌略 巻4.
- 坂本紀子, 2010. 1895年に施行された北海道における小学校の教育制度の特徴. 北海道大学紀要 (教育科学編): 61(1)
- 桜井正信, 1979. 日本産物誌 生活の古典双書 21. 八坂書房: 191.
- 師範学校編輯, 1878. 日本地誌略巻之四. 文部省.
- 札幌市教育委員会編, 1989. 新札幌市史 第1巻 通史 1. 札幌市.
- 杉山壽恵男, 1938. 北海道石狩國濱益村岡島洞窟遺跡. 東京人類学会: 648-360.
- 鈴木トミエ, 2007. 新聞に見る石狩・厚田・浜益歴史年表明治21年～明治25年: 48.
- 高橋壯志, 1798. 蝦夷巡覧記. 北海道立図書館 (マイクロ参照).
- 高倉新一郎編, 1982. 16 館野瑞元 宗谷よりの書状 二通 犀川会資料 全. 北海道図書出版企画センター: 479.
- 玉蟲左太夫, 稲葉一郎 (解説), 1992(1857). 入北記—蝦夷地・樺太巡検日誌.
- 谷口青山, 1798. 自高島至斜里／沿岸二十三図. 函館市中央図書館.
- 谷壮太郎, 1879. 日本略字引 4. 山静堂.
- 宇田川洋, 2006. 増補アイヌ考古学. 北海新書: 82-84.
- 山田祥子, 2008. 【研究ノート】ウイльта語口頭文芸の伝聞形式—サハリンにおける言語接触の可能性—. 北海道民族学 (4).
- 山口常太郎, 1881. 日本地誌略字引巻4. 出版時習堂.
- 藪内於太郎, 1858. 西蝦夷地濱マシケ略絵図. 北海道大学北方資料室 (北大372).
- 吉田寿人, 1971. 浜益の荘内藩陣屋跡. 北海道の文化 20.

石狩市厚田区のコンブ藻場における秋季の流入河川の影響

Dynamics of nutrients in the kelp forest in Atsuta, Ishikari,
during the autumn season

川井 唯史^{*1}・栗林 貴範^{*2}

Tadashi KAWAI^{*1}, Takanori KURIBAYASHI^{*2}

要 旨

2020 年 9 月上旬から 12 月上旬にかけて、石狩市厚田区の厚田川河口域の近くに位置する厚田漁港突端にて、石狩川と厚田川が厚田区に生育するリシリコンブに与えている影響を調べるため、水温、塩分、栄養塩（溶存態無機窒素 = 硝酸態窒素 + 亜硝酸態窒素 + アンモニア態窒素、リン酸態リン、ケイ酸態ケイ素）を測定した。比較のためリシリコンブが生育していない泊村および神恵内村でも同様の調査を行った。厚田地区では泊村および神恵内村と比較して低水温、低塩分、高栄養塩濃度と河川の影響が顕著に見られ、リシリコンブの生育にとって良好な環境であることが確かめられた。

キーワード：石狩川、リン酸態リン、硝酸態窒素、河川水、リシリコンブ

はじめに

マコンブ *Saccharina japonica* は北海道の重要な水産物であり、分布の中心は北海道である（川嶋，2012）。マコンブは分類学的に複数の変種を持ち、津軽海峡に分布するマコンブ *Saccharina japonica* var. *japonica*，日本海に分布するホソメコンブ *Saccharina japonica* var. *religiosa*，北海道北部に分布するリシリコンブ *Saccharina japonica* var. *ochotensis* がある（Yotsukura *et al.*, 2008）。日本海沿岸の中部から南部沿岸では寿命が原則 1 年のホソメコンブが分布し，北部では寿命が 2 年に達するリシリコンブ，津軽海峡周辺では同じく寿命が 2 年に至るマコンブが出現する（川嶋，1992）。北海道日本海中南部は磯焼け現象によりホソメコンブの生育範囲が汀線付近に限られ，群落（図 1）が極端に減少している（名畑ほか，1992；藤田，1987）。しかしながら，石狩市厚



図 1. 石狩市厚田区のリシリコンブ。上が厚田産 2 年目藻体で，真ん中が同 1 年目，下が浜益産 1 年目藻体。定規は 30cm。

田区では特異的に濃密なリシリコンブ群落が安定的に形成され（Yotsukura *et al.*, 2001；2016；川井ほか，2022），当該地区では厚田コンブと称して販売されている。なお，寿命が原則 1 年のホソメコンブが生育する北海道日本海中南部であっても河口近くでは 2 年目のコンブが生育して再生して寿命が延長していることは従来より知

^{*1} 北海道立総合研究機構 中央水産試験場 〒046-8555 北海道余市町浜中町 238
^{*2} 北海道立総合研究機構 本部研究事業部 〒060-0819 札幌市北区北 19 条西 11 丁目

られている。その理由については、流入河川による低水温化や栄養塩類の供給が原因と考えられているが、証拠は得られていない(川嶋 2004)。石狩沿岸の水温と塩分は調べられているが(志賀, 2011; 2016) 栄養塩環境の推移や河川の流入と栄養塩濃度の関係に関しては調査されていない。またリシリコンブの群落形成と春季の栄養塩濃度の関係についての研究(品田ほか, 2014)はあるが、リシリコンブにおける再生と栄養塩濃度との関係についての報告例は見られない。そこで本研究では、大きな河川の河口域に位置して河川の影響が著しいことが想定される石狩市、流入河川が近郊に見当たらない泊村、両者の中間で中規模の河川の流入が見られる神恵内村において、1年目のリシリコンブ藻体が2年目に移行する時期である秋季(阪井ほか, 1967; 柳田ほか, 1971)の水温、塩分と栄養塩環境から、流入河川の影響を調査し、特にコンブの生長に単独で影響する窒素

とリン(Mizuta *et al.*, 2001)に関して考察したので報告する。

調査場所と方法

調査場所は北海道の最大河川である石狩川の河口域から25km程離れ、かつ河口域の川幅が35m程の厚田川河口から150m北に位置する石狩市厚田区厚田漁港南側防波堤突端(図2-A)、海岸線沿い500mの範囲内に川幅0.5m以上の流入河川が見られない泊村白別地区泊村栽培漁業センター(図2-B)、河口域の川幅が20m程で比較的小さい古宇川河口に位置する神恵内村神恵内地区神恵内漁港の南側防波堤の突端(図2-C)で調査を行った。

調査項目は水温、塩分および栄養塩(溶存態無機窒素 = 硝酸態窒素 + 亜硝酸態窒素 + アンモニア態窒素, リン酸態リン, ケイ酸態ケイ素)濃度とし、調査期間は2020年9月上旬から12月上

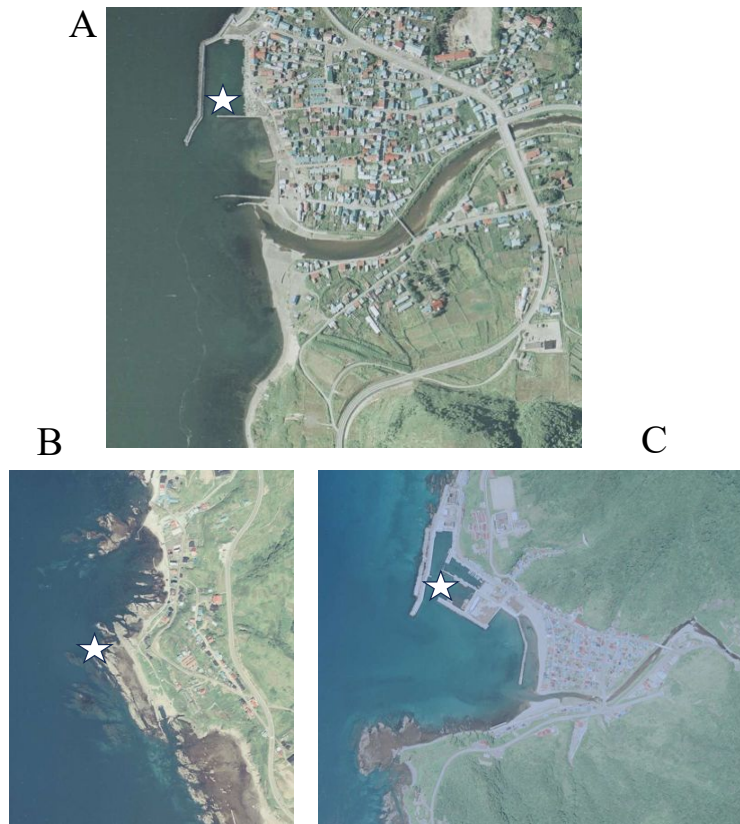


図2. 調査場所。Aは厚田川河口近くの石狩市厚田区厚田、Cは小川川の河口域の神恵内村神恵内地区、Bは河川が無い泊村白別地区。星印は採水地点。国土交通省 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>) を利用。

旬までとした。水温、塩分は、深度 1 ~ 1.5 m に自記記録機器を垂下して連続測定した。水温の測定は Onset 社ティドビット V2 を用い、塩分の測定は JFE アレック株式会社の Compact-CT : ATD-HR を用い、それぞれ 20 分間隔でデータを取得した。栄養塩分析のための採水は、毎月上旬と下旬にバケツを垂下して表面海水を採取し、12 月だけは上旬に一度だけとした。採取した海水をスクリューキャップ式のチューブに入れて密栓し、チャック式のビニール袋に入れた後、分析に処するまで -60℃ で冷凍保存した。冷凍したサンプル分析は、冷凍開始から 6 か月以内に行い、ビーエルテック社製のオートアナライザー QuAAtro-2HR を用いた。

結 果

水温と塩分の推移を図 3 に示した。水温の推移は高い順番に泊村白別地区、神恵内村神恵内地区、石狩市厚田地区であった。塩分の推移は全体を平均すると、高い順番に泊、神恵内、石狩であった。

栄養塩の推移を図 4 に示した。溶存態無機窒素 (DIN) 濃度は 11 月 11 日を除き、高い順番に石狩、神恵内、泊であった。硝酸態窒素 ($\text{NO}_3\text{-N}$) 濃度は高い順番に石狩、神恵内、泊であった。亜硝酸態窒素 ($\text{NO}_2\text{-N}$) 濃度は 11 月 24 日を除き高い順番に石狩、神恵内、泊であったが、9 月 11 日から 10 月 27 日にかけて泊、神恵内は同様であった。アンモニア態窒素 ($\text{NH}_4\text{-N}$) 濃度は、同じく 11 月 11 日を除き、高い順番に石狩、神恵内、泊であった。リン酸態リン ($\text{PO}_4\text{-P}$) 濃度は 9 月 11 日と 11 月 24 日を除き、高い順番に石狩、泊、神恵内であった。ケイ酸態ケイ素 ($\text{SiO}_2\text{-Si}$) 濃度も高い順番に石狩、神恵内、泊であった。

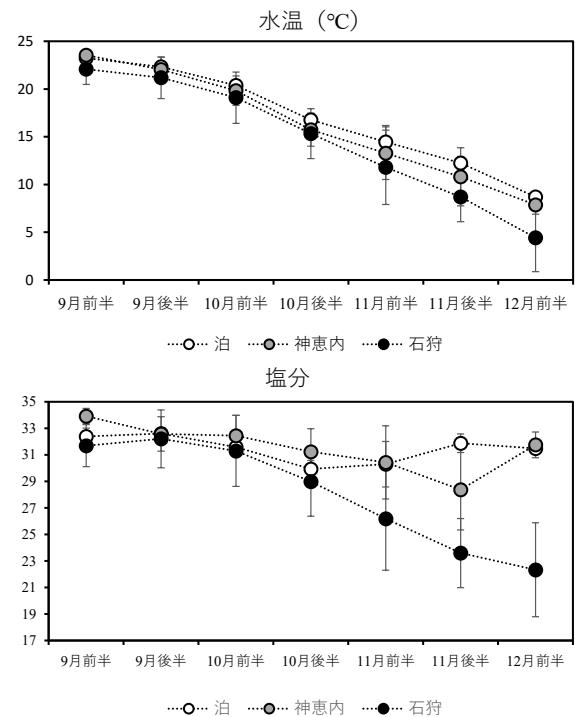


図 3. 2020 年における秋季の水温と塩分の推移 (泊村白別地区, 神恵内村神恵内地区, 石狩市厚田区)。

考 察

石狩市厚田区は石狩川の河口に近く、さらに厚田川からも近いので、河川の影響を強く受けているものと考えられる。神恵内村神恵内地区は古宇川の河口の近くに位置しているので、一定の河川の影響を受けているが、泊村白別地区は周辺に河川が無いので陸水の影響が極めて少ないと考えられる。水温と塩分は、河川からの影響の強弱と対応して、石狩、神恵内、泊の順に低くなったものと考えられる。一般に河川水中の栄養塩濃度は海水中のそれよりも高く、北海道日本海における河川水も沿岸の海水よりも栄養塩の濃度が一年を通じて大幅に上回ったとの報告がある (Kawai and Kuribayashi, 2021)。そのため栄養塩環境も河川の影響の強弱と対応し、石狩、神恵内、泊の順で高かったと考えられる。

栄養塩の種類による推移の違いに注目すると、溶存態無機窒素濃度、硝酸態窒素濃度、亜硝酸態窒素濃度とケイ酸態ケイ素濃度は 10 月以降に急

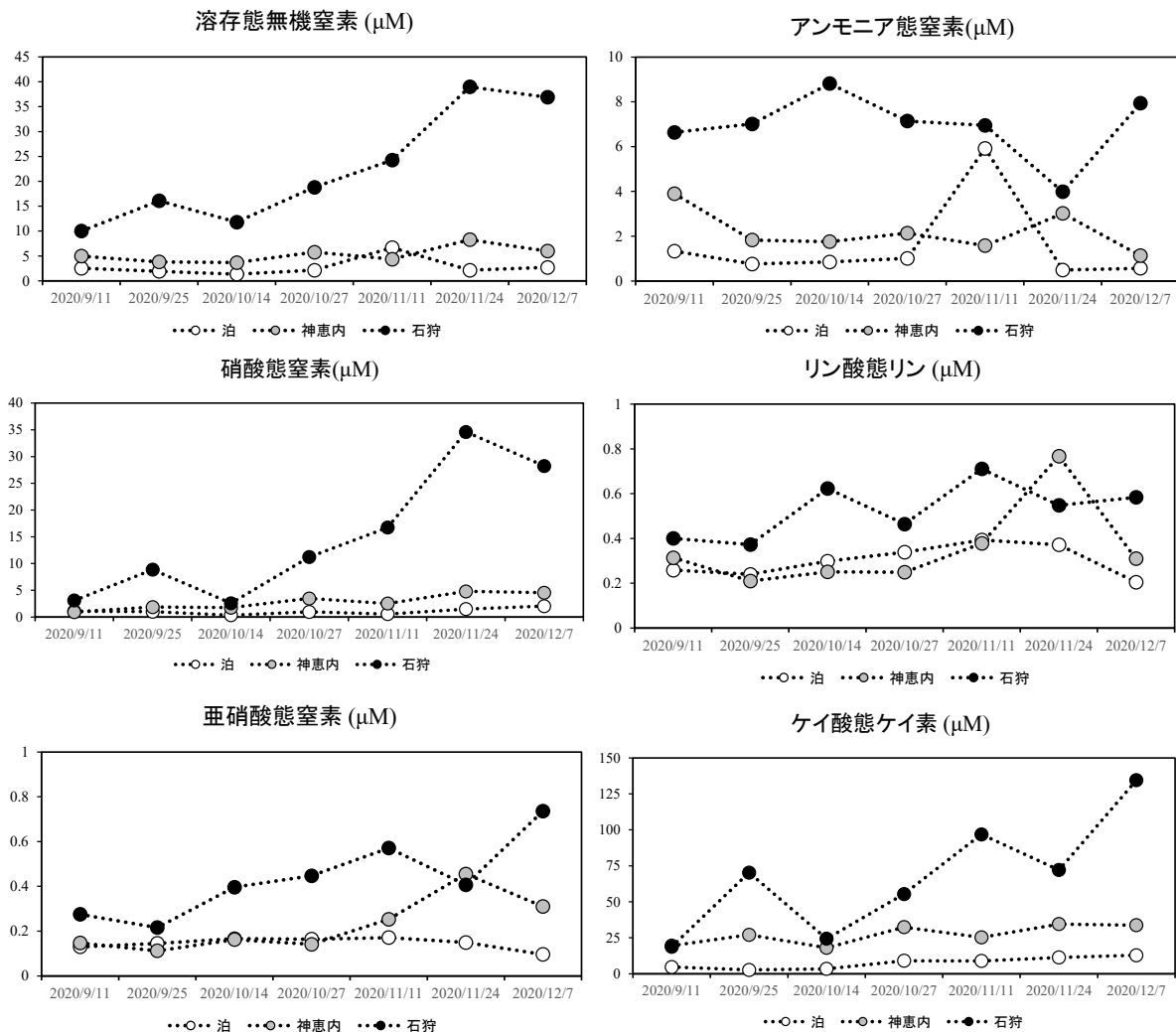


図4. 泊村臼別地区, 神恵内村神恵内地区, 石狩市厚田区における秋季の栄養塩濃度 (溶存態無機窒素 (DIN), 硝酸態窒素 ($\text{NO}_3\text{-N}$), 亜硝酸態窒素 ($\text{NO}_2\text{-N}$), アンモニウム態窒素 ($\text{NH}_4\text{-N}$), リン酸態リン ($\text{PO}_4\text{-P}$), ケイ酸態ケイ素 ($\text{SiO}_2\text{-Si}$)).

激に上昇する傾向が見られるが、これは秋季に降雨量が増え、これが原因して河川水の流量が増大し、結果として窒素を始めとした栄養塩濃度が上昇したと考えられる。

磯焼けが著しく貧栄養な北海道日本海側において (栗林ほか, 2014; 大谷・大西, 1995; 中多ほか, 2001) 石狩市厚田区は特異的にリシリコンブが豊富で、2年目の藻体も安定的に出現することが従前から指摘され (川嶋, 2012; Yotsukura *et al.*, 2001.), 石狩川の河口域の水温と塩分の分析から、河川から供給される栄養塩類、特に窒素が大きく影響しているものと推定されていた。本

研究では、これを確かめることができた。

室内での培養試験に基づく北海道沿岸のコンブ類では生理的に窒素を始めとした栄養塩が不足しがちであり (長谷川, 1958; Mizuta *et al.*, 1994; 2001), ホソメコンブの配偶体を硝酸態窒素濃度に傾斜を持たせて培養したところ、 $3 \sim 4 \mu\text{M}$ 以上で急激な細胞数の増大が見られた (川井ほか, 2004) ので、高い栄養塩濃度はコンブの生長を促進するものと考えられる。磯焼け海域で窒素とリンを添加する施肥 (船野ほか, 1966; 中津・阪井, 1967; 新原ほか, 1971) をすると栄養塩がホソメコンブ

により取り込まれることは窒素安定同位体の分析により確かめられており (Kuribayashi *et al.*, 2016; 2017), 施肥により生長の促進よりも子嚢斑 (コンブの成熟に伴い表面に浮き出る斑紋) の出現が促進された例 (赤池ほか, 1998) もあるが, 海水が滞留しやすい漁港内での栄養塩添加により, ホソメコンブの生産性が向上することが確かめられている (Agatsuma *et al.*, 2014). 秋季の石狩における河川由来の栄養塩は, 泊や神恵内と比較して高く, これが秋季における石狩市厚田区のコンブの生長を促して, 再生して2年目に移行している可能性が考えられる.

謝辞: 調査に多大なる御理解を頂いた石狩湾漁業協同組合と古宇郡漁業協同組合, 採水作業に御協力を頂いた後志地区水産技術普及指導所と石狩地区水産技術普及指導所に深謝します.

引用文献

- Agatsuma, Y., Endo, H., Yoshida, S., Ikemori, C., Takeuchi, Y., Fujishima, H., Nakajima, K., Sano, M., Kanezaki, N., Imai, H., Yamamoto, N., Kanahama, H., Matsubara, T., Takahashi, S., Isogai, T., Taniguchi, K., 2014. Enhancement of *Saccharina* kelp production by nutrient supply in the Sea of Japan off southwestern Hokkaido, Japan. *Journal of Applied Phycology*, 26 : 1845-1852.
- 赤池章一・菊地和夫・門間春博・野澤靖, 1998. 1年目リシリコンブ胞子体の生長に及ぼす窒素, リン施肥の影響. 水産増殖, 46(1) : 57-65.
- 藤田大介, 1987. 北海道大成町の磯焼けに関する聴取り調査. 水産増殖, 35(3) : 135-138.
- 船野 隆・福原英司・駒木 成・佐藤芳和, 1966. 岩内町島野沿岸におけるコンブの施肥試験. 北水試月報, 23(3) : 135-147.
- 長谷川由雄, 1958. コンブに関する二, 三の知見 (I). 北水試月報, 15(5) : 1-37.
- Kawai, T., Kuribayashi T., 2021. Terrestrial nutrient supply contribution for kelp in the Sea of Japan off Hokkaido, Japan. *Rishiri Studies*, 40 : 65-73.
- 川井唯史・栗林貴範・品田晃良・伊藤昌弘・四ツ倉典滋, 2022. 石狩沿岸におけるコンブ類の分布. いしかり砂丘の風資料館紀要, 12 : 37-45.
- 川井唯史・岡直宏・平岡雅規・四ツ倉典滋・中明幸広, 2004. ホソメコンブ配偶体の生長に及ぼす硝酸塩の影響. 水産工学, 41(1) : 35-38.
- 川嶋昭二, 1992. 日本産コンブ類の分類と分布 [38] コンブ科 - コンブ属 (48) ホソメコンブ (9). 海洋と生物, 14 : 352-355.
- 川嶋昭二, 2004. コンブ. 大野正夫編有用海藻誌, 東京, 内田老鶴圃, 59-85.
- 川嶋昭二, 2012. 日本産寒海性コンブ類の形態と分類. 生物研究社, 東京, 545pp.
- 栗林貴範・阿部剛史・門谷茂, 2014. 北海道日本海沿岸における栄養塩濃度の長期トレンドと海藻藻場. 沿岸海洋研究, 52(1) : 75-81.
- Kuribayashi, T., Akaike, S., Montani, S., 2016. A new indicator $\delta^{15}\text{N}$ signature for detecting nutrient supply effects to *Saccharina japonica* var. *religiosa*. *Algal Resources*, 9 : 1-13.
- Kuribayashi, T., Abe, T., Montani, S., 2017. Historical $\delta^{15}\text{N}$ records of *Saccharina* specimens from oligotrophic waters of Japan Sea (Hokkaido). *PLOS ONE*, 12 : 1-15 (e0180760). <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0180760>.
- Mizuta, H., Maita, Y., Kuwada, K., 1994. Nitrogen recycling mechanism within the thallus of *Laminaria japonica* (Phaeophyceae) under the nitrogen limitation. *Fisheries Science*, 60 : 763-767.
- Mizuta, H., Narumi, H., Yamamoto, H., 2001. Effects of Nitrate and Phosphate on the growth and maturation of Gametophytes of *Laminaria religiosa* Miyabe (Phaeophyceae). *Suisanzoshoku*, 49 : 175-180.
- 名畑進一・阿部英治・垣内政宏, 1992. 北海道南西部大成町の磯焼け. 北海道立水産試験場研究報告, 38 : 1-14.
- 中津俊行・阪井与志雄, 1967. 稚内市におけるコンブの施肥試験. 北水試月報, 24 : 136-145.

- 中多章文・八木宏樹・宮園章・安永倫明・川井唯史・飯泉仁, 2001. 忍路湾における沿岸水温と栄養塩の関係. 北海道立水産試験場研究報告, 59: 31-41.
- 新原義昭・金子孝・田沢伸雄, 1971. 施肥によるコンブ葉体の全窒素量の変化について. 北水試月報, 28: 10-26.
- 大槻知寛, 2008. 海洋環境シリーズ「石狩湾海域生態調査」海洋観測結果から～沿岸水分布の特徴を見る～. 北水試だより, 76: 25-27.
- 大谷清隆・大西光代, 1995. 北海道南西沿岸のこんぶ生産量の春ニシン漁獲量と沿岸水温による重回帰分析. 海の研究, 4(3): 175-185.
- 阪井与志雄・石川政雄・蒲原八郎・金子孝・渋谷賢仁・中津俊行, 1967. リシリコンブの生態. 北水試月報, 24 (11): 454-467.
- 志賀健司, 2011. 2005年～2010年の北海道石狩浜の海面水温観測値. いしかり砂丘の風資料館紀要, 1: 20-24.
- 志賀健司, 2016. 2005年から2015年の石狩浜における海水温・塩分濃度の日変動. いしかり砂丘の風資料館紀要, 6: 71-76.
- 品田晃良・西田芳則・栗林貴範・合田浩朗・川井唯史・赤池章一, 2014. 海洋環境が利尻島の1年目リシリコンブ現存量に与える影響. 水産工学, 51(1): 39-45.
- 柳田克彦・垣内政宏・辻寧昭, 1971. オホーツク海沿岸紋別付近におけるリシリコンブ *Laminaria japonica* var. *ochotensis* (Miyabe) Okam の生態学的研究. 北海道立水産試験場報告, 13: 1-18.
- Yotsukura, N., Kawai, T., Motomura, T., Ichimura, T., 2001. Random amplified polymorphic DNA markers for three Japanese laminarian species. *Fisheries Science*, 67: 857-862.
- Yotsukura, N., Kawashima, S., Kawai, T., Abe, T., Druehl, L. D., 2008. A systematic re-examination of four laminaria species: *L. japonica*, *L. religiosa*, *L. ochotensis* and *L. diabolica*. *The Journal of Japanese Botany*, 83: 165-176.
- Yotsukura, N., Maeda, T., Abe, T., Nakaoka M., Kawai, T., 2016. Genetic differences among varieties of *Saccharina japonica* in northern Japan as determined by AFLP and SSR analyses. *Journal of Applied Phycology*, 28: 3043-3055.

Dynamics of nutrients in the kelp forest in Atsuta, Ishikari, during the autumn season

Tadashi KAWAI, Takanori KURIBAYASHI

Abstract

From early September to early December 2020, measurements of water temperature, salinity, and nutrients (dissolved inorganic nitrogen = nitrate nitrogen + nitrite nitrogen + ammonia nitrogen, phosphate phosphorus, and silicate silicon) were conducted at the tip of Atsuta Fishing Port, located near the mouth of the Atsuta River in the Atsuta Ward of Ishikari City. This was done to investigate the influence of the Ishikari and Atsuta Rivers on the growth of Rishiri kelp in the Atsuta area. For comparison, similar surveys were also conducted in Tomari Village and Kamoenai Village, where Rishiri kelp does not grow. In the Atsuta area, compared to Tomari Village and Kamoenai Village, lower water temperatures, lower salinity, higher nutrient concentrations, and the significant influence of rivers were observed, confirming that this environment is favorable for the growth of Rishiri kelp.

Keywords : Ishikari River, nitrate nitrogen, phosphate phosphorus, Rishiri kelp, River water

石狩海岸で発見したスナガニに関する報告

Report of *Ocypode stimpsoni* Ortmann (DECAPODA) found in Ishikari coast

内藤 華子*

Hanako NAITO*

キーワード：スナガニ，稚ガニ，石狩海岸

はじめに

北海道におけるスナガニ (*Ocypode stimpsoni* Ortmann)，スナガニ属の1種 (*Ocypode* sp.) の分布の記録は、これまで函館、室蘭、有珠など道南、道央南部に限られていたが (五嶋, 2017; 佐々木, 2016; 駒井ほか, 1992), 2023年10月15日に、小樽市銭函4丁目の砂浜 (通称オタネ浜) を散策中に発見したカニを採取して観察したところ、左右のはさみ脚の大きさに若干の差異が見られること、はさみ脚の掌部の内面に顆粒列が認められたことから、スナガニであることが判明した。分布が北上している可能性を示唆しており、石狩海岸における記録もこれまで見当たらないため、ここに報告する。

観察・採集の状況

石狩海岸の中でも新川河口右岸側の砂浜の波打ち際 (北緯43度10分8.44秒，東経141度13分57.28秒付近，図1) で，晴天の波の穏やかな気象条件で，甲幅が1cm程度の複数個体が観察された (図2～4)。



図1. 観察場所「(☆)」

採集個体の観察

甲幅は8mm，右側のはさみ脚が少し大きい (図5・6)。各種図鑑 (武田, 1982; 三宅, 1983; 西村編, 1995) に従い検索し，蘭越町貝の館 (当時) の山崎友資学芸員の協力で顕微鏡観察により，はさみ脚の掌部の内面に顆粒列が認められた (図7)。

図鑑に掲載されるスナガニの甲幅は約3cm (駒井, 2005) 2.5cm (武田, 1982), 22mm (三宅, 1983) などとなっており，今回観察された個体はこれらの記載より小さいため，稚ガニであると考えられた。

* 合同会社いしかり植物ラボ 〒006-0042 北海道札幌市手稲区金山2条4丁目2-11



図2. 観察個体のうちの1個体



図5. 採集個体の背面



図3. 個体が観察された汀の様子



図6. 採集個体の腹面



図4. 個体が観察された汀の陸側から遠方



図7. 採集個体のはさみ脚の掌部内面の顆粒列(矢印部)
蘭越町貝の館(当時)山崎友資氏撮影

考察

近年の海面水温の上昇は日本海北東部でも生じており(気象庁, web), 石狩海岸の漂着物に関する記録でも暖流系漂着物が増えるなどの傾向がみられ, 海水温の変化との関係が指摘されている(志賀・伊藤, 2008; 志賀・石橋, 2013). 今回スナガニの稚ガニが観察されたことは, 生息海域からの海流に乗って幼生が石狩海岸沿岸に浮遊してきたことと, 石狩海岸沿岸の海水温度が, 幼生が着底し稚ガニに成長するのに可能な温度であったことを示唆している.

今回観察された他の個体も, 甲幅 8 mm の個体と近いサイズ, つまり稚ガニサイズの個体ばかりであったことから, 当地での繁殖の有無については不明なままである. また, スナガニに特徴的な巣穴についても確認できていない.

今後は, 当地で越冬しているか, 繁殖しているかなどを確かめる必要がある. また同様の環境が広がる全長 25km に及ぶ石狩海岸の他のエリアでも確認できないか, など調査を重ねる必要がある.

謝辞: 本報告において, 種の同定にご協力いただき, スナガニの特徴についてご教示いただいた蘭越町貝の館(当時)の山崎友資学芸員に深くお礼申し上げます. また, いしかり砂丘の風資料館の志賀健司学芸員には, 標本の管理, 観察, 執筆に関わるとご助言, お力をいただき, 深く感謝申し上げます. 今回の報告につながったカニの第一発見者である海岸散策の同伴者, 内藤大輔氏にも感謝申し上げます.

引用文献

- 五嶋聖治, 2017. 北限のスナガニの季節的な砂浜利用パターン: 啄木はスナガニに出会えたか?. 日本ベントス学会誌, 71: 83-89.
- 気象庁, web. 海面水温の長期変化傾向(日本海北東部), 気象庁, [https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/cfig/warm_area.html?area=G#title\(2024-2-23 閲覧\)](https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/cfig/warm_area.html?area=G#title(2024-2-23%20閲覧))
- 駒井智幸, 2005. スナガニ. 白山義久ほか監・著, 小学館の図鑑 NEO 水の生物, 小学館.
- 駒井智幸・丸山秀佳・小西光一, 1992. 北海道産の十脚甲殻類の分布リスト. *Researches on Crustacea*, 21: 189-205.
- 三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 II. 保育社.
- 西村三郎編, 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑 II. 保育社.
- 佐々木 潤, 2016. スナガニ *Ocypode stimpsoni* Ortmann, 1897 (十脚目: 短尾下目: スナガニ上科: スナガニ科) の北限分布記録. *Cancer*, 25: 47-49.
- 志賀健司・伊藤静孝, 2008. 2007 年に北海道石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物. 漂着物学会誌, 6: 11-16.
- 志賀健司・石橋孝夫, 2013. 石狩湾沿岸で 2012 年に見られたギンカクラゲの大量漂着. いしかり砂丘の風資料館紀要, 3: 37-41.
- 武田正倫, 1982. 原色甲殻類検索図鑑. 北隆館.

けんぽんぼくしょかいたくはんがんまつもとじゅうろうあてりょうがいかんしぶんへんがく
「絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額」について

The poem from RYOGAI to MATSUMOTO Juro, framed writing on silk

荒山 千恵*
Chie ARAYAMA*

キーワード：扁額，浜益，荘内藩，菱崖，松本十郎

1. はじめに

本稿は、はまます郷土資料館の展示資料の一つ「絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額」(写真1)について、概要調査の内容をまとめたものである(注1)。

2. 当該資料の来歴

「浜益村郷土資料館収蔵物件記録カード」によると、当該資料は大正末年(1926年頃)に旧浜

益村住民が小樽の骨董商より買い求めたものである。1971(昭和46)年に旧浜益村の開村百年記念事業の一環により浜益村郷土資料館(現・はまます郷土資料館/石狩市)が開館した年に借用され、1984(昭和59)年に正式に寄贈された。

3. 当該資料の内容

3-1 漢詩文の作者と贈呈された人物

当該資料の漢詩文は菱崖が松本十郎宛に贈呈したものである。松本十郎(旧名 戸田惣十郎・

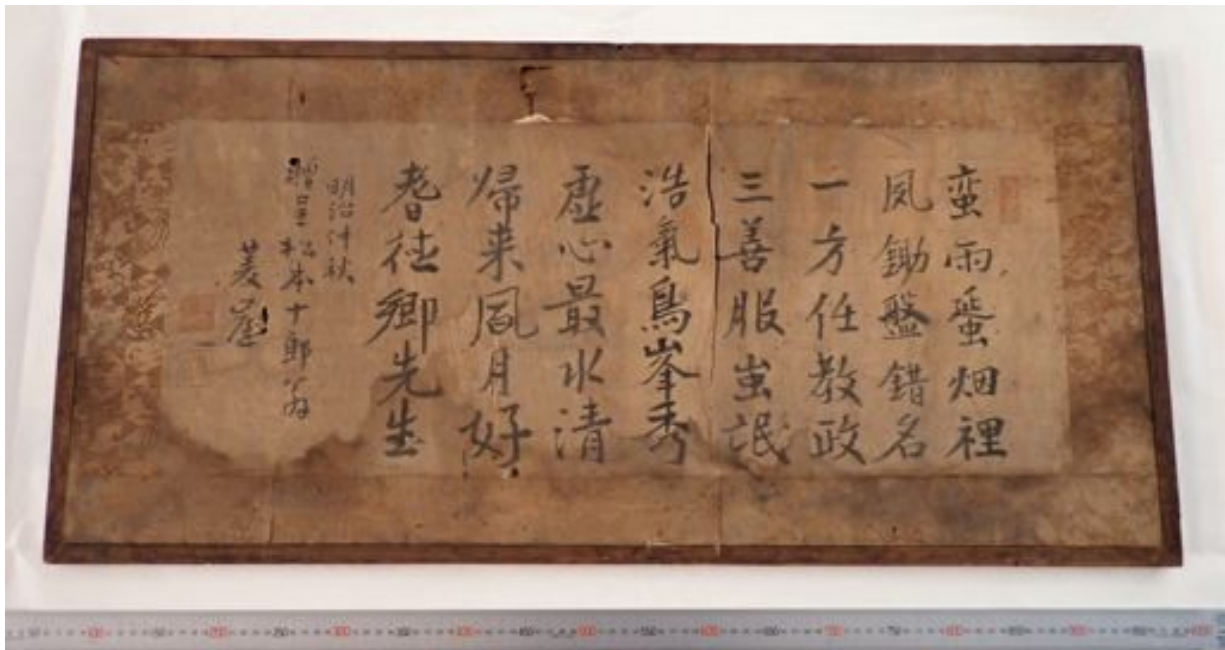


写真1. 絹本墨書開拓判官松本十郎宛菱崖漢詩文扁額

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

1839-1916) は、現山形県鶴岡市出身、明治初期に開拓判官、開拓大判官として北海道開拓に尽力した^(注2)。1864-1865年に荘内藩士として浜益の開墾と警備の任に当たり、開拓使時代のアイヌの人々への対応はこの時の経験がもとになったといわれている。その後、判官を辞して38歳で鶴岡に戻ったが、浜益との繋がり、『浜益沿革史』(1900)に序文を寄せるなど、その後もゆかりが深い^(注3)。

一方、漢詩文を書いた菱崖も石狩や浜益にゆかりがある。菱崖の本名は小笠原辰治(1868?-?)である^(注4)。松本十郎と同じ鶴岡市を郷里とし、1880年に来道の後、東京で医学を学び、石狩病院・浜益病院等に奉職、1896年に小樽で開院した。若い頃から詩作を嗜んだが、火災のため多くの作品が失われる。菱崖の著書『菱崖詩鈔』(1937)には「浜益川下残礎」の詩作(1886)があり、浜益病院に奉職する前にも浜益を訪れていたとみられる^(注5)。

3-2 漢詩文

当該資料の漢詩文(全文)は以下のとおりである。原文、書き下し文、訳については、名畑嘉則氏にご協力をいただいた。

〈原文〉

蛮雨蜚烟裡
夙鋤盤錯名
一方任教政
三善服蚩氓
浩氣鳥峯秀
虚心最水清
歸來風月好
耆徳郷先生
明治仲秋
贈呈 松本十郎翁
菱崖

〈書き下し文〉

蛮雨蜚烟の裡(うち)
夙(つと)に盤錯を鋤して名あり
一方 教政に任じ
三善 蚩氓を服す
浩氣 鳥峯秀で
虚心 最水清し
歸り来れば風月好し
耆徳の郷先生
明治仲秋
贈呈 松本十郎翁
菱崖

〈訳〉

荒涼たる未開の地の霧の立ち込める中で、
早くから開拓の功で名を上げられた。
一つの地域の政治教化を任され、
三つの徳により未開の純朴な民に従えた。
何物にも屈しない広大無辺の心は鳥海山のごとく
秀で、
わだかまりを持たぬ無私の心は最上川のごとく清
らかである。
歸り来れば、美しい故郷の風景の中、
老いて徳高い御隠居として悠々自適に過ごされ
る。
明治陰暦八月
贈呈 松本十郎 翁
菱崖

3-3 制作年代の推定

当該資料は、漢詩文の後に「明治仲秋」とあることから、明治の陰暦8月に贈られたものである。具体的な詩作の年代については記載がなく不明であるが、菱崖が医師免許を取得してからの明治20-40年代頃と推測される。なお、後述のとおり、当該資料には下張りの一部に墨書のある和紙や古新聞が用いられていることから、今後、修復等で表装を剥がす機会があれば、裏打ちをした年代に

ついて手がかりを得られる可能性がある。

3-4 扁額の構造

当該資料の大きさは額全体の大きさを縦 92.3cm・横 44.4cm、絹本の大きさを縦 75.0cm・横 29.8cm である。額装は木製で、表装内部は木製格子状を土台とし、板貼りをしていない。内部には古紙（古新聞）が使用され、絹本の下貼りには和紙の張り合わせを用いている。破損部の目視から、下貼りの一部には墨書のある和紙を再利用したものとみられる。

4. まとめ

当該資料は、菱崖（小笠原辰治）が鶴岡に暮らす同郷の先人・松本十郎宛に、蝦夷地開墾に尽力した功労や人徳を讃えた詩作と考えられる。松本・菱崖の両氏ともに石狩・浜益にゆかりがあり、同じ郷里をもつ小笠原にとって松本が尊敬する存在であったことが推察される。その後、当該資料が浜益住民によって買い求められたことや、浜益村郷土資料館で長く地元の人びとによって大切に残されてきたことの所以が窺われ、同郷である荘内藩とその先人を尊んだ浜益地域の貴重な郷土資料といえる。

謝辞：当該資料にかかる関連資料の調査にあたり、石川直章館長（小樽市総合博物館）にお世話になりました。当該資料の概要調査の検討にあたり、谷本晃久教授（北海道大学大学院文学研究院）より貴重なご助言を賜りました。漢詩文の原文・書き下し文・訳にあたり、名畑嘉則教授（藤女子大学）より多大なご協力を賜りました。末筆ながら心よりお礼申し上げます。（氏名の五十音順により記載）

（注 1）当該資料は、はまます郷土資料館に展示されていたが、劣化の進行を考慮して、現在は展示公開を控えて保管している。なお、当該資料の記録カードの資料名は「扁額」とある。

（注 2）松本十郎と北海道・石狩・浜益との関わりについては、北国（2010・2012）、井黒（1988）、工藤（2014）を参照した。

（注 3）『浜益村史』（石橋編、1980）の「第 12 章 余録 2 浜益沿革史」を参照した。序文の最後に、「明治三十三年八月 正五位 松本十郎」とある。

（注 4）柴田（2021）を参照した。

（注 5）小笠原（1937）、小樽名鑑編纂事務所（1923）を参照した。

引用文献

- 北国諒星，2010. さらば・・えぞ地一松本十郎伝一，北海道出版企画センター，
- 北国諒星，2012. 特別寄稿 庄内藩のえぞ地警備・開拓の夢を追う一浜益陣屋の建設・経営を中心として一，いしかり暦（石狩市郷土研究会誌），25：40-50.
- 井黒弥太郎，1988. 異形の人：厚司判官松本十郎伝. 道新選書 8，北海道新聞社.
- 石橋源編，1980. 浜益村史. 浜益村.
- 工藤義衛，2014. 松本十郎石狩関係資料. いしかり暦（石狩市郷土研究会誌），26：31-40.
- 小笠原辰治，1937. 菱崖詩鈔.
- 小樽名鑑編纂事務所，1923. 小笠原辰治君. 小樽名鑑前篇，30-31.
- 柴田清継，2021. 王治本 明治三十九年 北海道における詩作と交流一小樽・札幌・室蘭・函館（第一回）. 武庫川国文，89：35-43.

いしかり砂丘の風資料館の 20 年間

20 years of ISHIKARI LOCAL MUSEUM

坂本 恵衣*

Kei SAKAMOTO*

キーワード：資料館，展示，講座，沿革，開催記録

いしかり砂丘の風資料館は 2004(平成 16) 年 4 月 27 日に開館した。1 階は常設展示で海・川・河口の自然と歴史，2 階は石狩市で発掘された石狩紅葉山 49 号遺跡をテーマに展示している。

そのほかに，年に約 4 回のテーマ展，体験講座や石狩の地理的特性を生かしたビーチコーミングをはじめとした野外講座も行っている。本文ではこれまでの 20 年間で，いしかり砂丘の風資料館

が実施した，展示，講座をはじめとした教育普及活動の履歴について紹介する(表 1.)。

なお，開催場所については名称を一部省略して表記し，人物の敬称は省略とした。

- ・いしかり砂丘の風資料館：資料館
- ・石狩市民図書館：図書館
- ・石狩浜海浜植物保護センター：海浜植物セ
- ・花川北コミュニティセンター：花川北コミ

表 1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等(その 1)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2004 (平成 16)	7/10	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／漂着物の博物誌	石狩浜	
	8/21	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 1 回 化石のレプリカをつくる	資料館	
	8/29	体験講座	勾玉づくり教室	資料館	
	9/18	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 2 回 植物の標本をつくる	海浜植物セ， 資料館	内藤華子
	10/16	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 3 回 展示をつくる	資料館	
	11/20	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 4 回 博物館をつくる (1)	資料館	
	11/27	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 5 回 博物館をつくる (2)	資料館	
	2/20	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/17	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／雪解け後の漂着物	石狩浜	
	4/29-5/29	テーマ展	漂着物する動物たち	資料館	
2005 (平成 17)	7 月	テーマ展	長野商店とその時代	資料館	
	7/16	体験講座	古代人の土器づくりに挑戦①		
	7/30	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 1 回 植物の標本をつくる	海浜植物セ， 資料館	内藤華子
	7/31	体験講座	古代人の土器づくりに挑戦②		
	7/31	体験講座	勾玉づくり教室	弁天歴史公園	
	8/20	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 2 回 化石のレプリカをつくる	資料館	
	9/1-10/31	特別展	特別展 サケの考古学	資料館	
	9/10	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 3 回 地層を調べる	望来	
	9/23	連続講座	プロジェクト M：博物館をつくれ！ 第 4 回 博物館をつくる (1)	資料館	

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町 30-4

表1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等(その2)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2005 (平成17)	10/2	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の浜辺の漂着物	石狩浜	
	10/8	連続講座	プロジェクトM：博物館をつくれ！ 第5回 博物館をつくる(2)	資料館	
	11/26	講演会	森をまもる，利用する ～くらしに身近な森林の歴史～	図書館	開拓記念館公開講座
	1/7-3/31	テーマ展	ちいさな博物館／2005年のコレクション	資料館	
	2/26	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／'06冬の漂着物	石狩浜	
2006 (平成18)	4/16	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／'06春の漂着物	石狩浜	
	4/29-5/31	テーマ展	砂と砂丘	資料館	
	6/3	連続講座	石狩大学博物学科(1) 石狩動植物学 石狩にはどんな植物や動物がいる？	図書館	内藤華子
	6/17	野外講座	地層をしらべる	望来海岸	
	7/15	連続講座	石狩大学博物学科(2) 石狩地球科学 石狩の地形や気候は？ どのようにして石狩の大地ができた？	図書館	志賀健司
	7/22	体験講座	土器作り教室(1)		
	7/29	体験講座	土器作り教室(2)		
	8/5	体験講座	(初級) 勾玉づくり教室	図書館	
	8/5	連続講座	石狩大学博物学科(3) 石狩考古学 石狩にはどんな遺跡がある？ 石狩の縄文時代～江戸時代以前	図書館	石橋孝夫
	9/2	連続講座	石狩大学博物学科(4) 石狩歴史学 石狩の江戸時代～現在までの歴史は？	図書館	工藤義衛
	9/9	野外講座	聚富・望来海岸の自然を学ぶ	聚富，望来海岸	主催：海浜植物セ，共催：資料館
	10/22	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	10/21-11/25	テーマ展	石狩浜の名もなき沼の生きものたち	資料館	海浜植物セ，図書館，札幌市博物館活動センターと巡回展示
	11/25	体験講座	マイクロ化石の標本をつくる	資料館	
	12/23-3/31	テーマ展	2006年のコレクション	資料館	
	2/25	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/15	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
	4/28-6/4	テーマ展	石狩のチョウザメと鮫様	資料館	
	4/29	見学会	旧長野商店見学会	旧長野商店	公開初日
	6/24	野外講座	地層をしらべる	望来海岸	
2007 (平成19)	7/8	体験講座	勾玉づくり教室	資料館	
	7/8-9/13	テーマ展	石狩の浜の貝	資料館	
	7/14	オトナの体験講座	化石複製計画	資料館	
	7/22	体験講座	土器作り教室(1) 成形		
	8/5	体験講座	土器作り教室(2) 野焼き		
	8/18	体験講座	化石のレプリカをつくる	資料館	
	9/15-10/28	テーマ展	アオイガイ／カイダコ	資料館	
	10/6	連続講座	石狩大学博物学部専門課程(1) 石狩地球科学Ⅱ／石狩漂着物学	図書館	志賀健司
	10/20	連続講座	石狩大学博物学部専門課程(2) 石狩考古学Ⅱ／アイヌ文化への道のり	図書館	石橋孝夫
	10/21	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	11/10	連続講座	石狩大学博物学部専門課程(3) 石狩動植物学Ⅱ／石狩砂丘植物学	図書館	内藤華子
	11/24	連続講座	石狩大学博物学部専門課程(4) 石狩歴史学Ⅱ／石狩改革論	図書館	工藤義衛
	12/22-3/30	テーマ展	未来へつなげ！資料館のお宝展	資料館	
	2/24	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/20	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
	4/27-7/2	テーマ展	石狩の化石と鉱物 ～桐澤秀人コレクションより～	資料館	
	6/15	野外講座	地層をしらべる／フィールド編	厚田区無煙浜， 望来海岸	

表 1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等 (その 3)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2008 (平成 20)	6/29	体験講座	地層をしらべる／ラボ編	資料館	
	7/19	体験講座	勾玉作り教室	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	7/26	体験講座	土器作り (1) 製作	若葉小カルチャーセンター	
	8/9	体験講座	土器作り (2) 野焼き	石狩紅葉山 49 号遺跡跡	
	8/16	体験講座	化石のレプリカをつくる	資料館	
	8/23-11/3	テーマ展	「手」～骨にみる動物の生態～	資料館	
	10/19	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	11/8	連続講座	石狩大学博物館 (1) 石狩歴史学	図書館	工藤義衛
	11/15	連続講座	石狩大学博物館 (2) 石狩考古学	図書館	石橋孝夫
	11/22	連続講座	石狩大学博物館 (3) 石狩地球科学	図書館	志賀健司
2009 (平成 21)	12/20-3/29	テーマ展	資料館のお宝 2009	資料館	
	2/22	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/19	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
	6/20	野外講座	地層と化石 フィールド編	古潭, 望来海岸	
	7/4	体験講座	地層と化石 ラボ編	資料館	
	7/11	体験講座	勾玉作り教室	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	7/12-9/13	テーマ展	頭骨	資料館	
	7/25	体験講座	古代人の土器づくり体験 (1)		
	8/15	体験講座	化石のレプリカをつくる	資料館	
	8/22	体験講座	古代人の土器づくり体験 (2)		
2010 (平成 22)	9/12	オトナの体験講座	揚鶏骨格標本化計画	資料館	
	9/18-10/19	テーマ展	絵画にみる明治初期の石狩	資料館	
	10/18	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	11/7	連続講座	石狩大学博物館 (1) 石狩歴史学 A 明治初期の石狩と絵画	図書館	工藤義衛
	11/14	連続講座	石狩大学博物館 (2) 石狩動植物学 石狩浜の生態系～生き物のつながり～	図書館	内藤華子
	11/21	連続講座	石狩大学博物館 (3) 石狩地球科学 漂着物と海と空	図書館	志賀健司
	11/28	連続講座	石狩大学博物館 (4) 石狩歴史学 B 黄金山とユーカラ	図書館	石橋孝夫
	12/27-3/27	テーマ展	資料館のお宝 2010	資料館	
	2/21	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/18	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
2011 (平成 23)	4/29-6/13	テーマ展	コシャチホネ／発掘編	資料館	
	6/19	野外講座	地層と化石 フィールド編	厚田の海岸	
	6/23-8-1	テーマ展	縄文土器をつくるー縄文土器の世界へー	資料館	
	7/3	体験講座	地層と化石 ラボ編	資料館	
	7/17	体験講座	縄文土器復元講座 (1)		
	7/24	体験講座	縄文土器復元講座 (2)		
	7/31	体験講座	勾玉作り教室	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	8/8-9/12	テーマ展	昭和のマンガ・アニメキャラクターグッズ	資料館	桐澤秀人コレクション 展示
	8/14	体験講座	化石のレプリカをつくる	資料館	
	7/24	体験講座	縄文土器復元講座 (3) 野焼き		
2012 (平成 24)	9/4	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	9/15-10/29	テーマ展	いしかりのかたちー地図から見た石狩の歴史ー	資料館	
	9 月	体験講座	縄文土器復元講座 (3) 野焼き		野焼き
	10/31	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	11/6	連続講座	石狩大学博物館 (1) 石狩歴史学 悪徳官吏富田信定の行状	図書館	工藤義衛
	11/13	連続講座	石狩大学博物館 (2) 石狩地球科学 石狩の海, 石狩の沼	図書館	志賀健司
	1/22-3/27	テーマ展	資料館のお宝 2011 / めざめよ! 剥製たち	資料館	
	2/20	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	

表1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等(その4)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2011 (平成23)	4/17	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
	4/29-6/26	テーマ展	貝蛸(カイダコ)大漁!アオイガイ大量!	資料館	
	6/18	野外講座	地層と化石	古潭, 望来海岸	
	7/23	体験講座	勾玉作り教室	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	7/30	体験講座	縄文土器復元講座(1)		
	8/6	体験講座	縄文土器復元講座(2)		
	8/13	体験講座	化石のレプリカをつくる	こども未来館 あいぽーと	花川地区で開催
	9/3	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる(1)	資料館	
	9/10	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる(2)	資料館	
	9月	体験講座	縄文土器復元講座(3) 野焼き		
	10/16	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	10/29-11/3	出張展示	ウミベオグラフィー／石狩海辺博物館	紀伊國屋書店 札幌本店	
	11/3	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学	紀伊國屋書店 札幌本店	志賀健司, 内藤華子, 大鐘卓哉
	11/12	連続講座	石狩大学博物館(1) 石狩歴史学 石狩本町市街地の誕生	図書館	工藤義衛
	11/19	連続講座	石狩大学博物館(2) 石狩動植物学 石狩浜のハマナスは減っているか?	図書館	内藤華子
	12/3	講演会	石狩市の遺跡と世界遺産		畑宏明
	12/10	連続講座	石狩大学博物館(3) 石狩地球科学 海岸林の水たまりの謎	図書館	志賀健司
	12/25-3/25	テーマ展	資料館のお宝 2012	資料館	
	2/26	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
2012 (平成24)	4/15	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
	5/1-6/25	テーマ展	石狩の(ちょっとだけ)レアな貝	資料館	
	5/12	特別講座	石狩海辺学(ウミベオロジー)＋北の自然史最前線! (北海道自然史研究会／石狩大会)	図書館	主催:北海道自然史研 究会 共催:石狩市
	7/4-8/26	テーマ展	アイヌの工芸 テンキ	資料館	
	7/22	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	7/28	体験講座	テンキ編み第1回:ハマニンニクの観察と採集	海浜植物セ	親子対象
	7/31-8/5	移動展	アイヌの工芸 テンキ	図書館	
	8/4	体験講座	テンキ編み第2回:テンキ編み～コースターをつくる	図書館	親子対象
	9/22-12/16	テーマ展	傑作選!いしかり博物誌	資料館	
	10/14	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	10/27	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学 2012 海辺に集る鯨と人	紀伊國屋書店 札幌本店	志賀健司, 水島未記, 工藤義衛
	10/27-11/1	出張展示	ウミベオロジー／石狩海辺学 2012	紀伊國屋書店 札幌本店	
	11/10	連続講座	石狩大学博物館(1) 石狩海洋学 海生動物ホネホネ論	図書館	志賀健司
	11/10	連続講座	石狩大学博物館(2) 石狩民俗学 調査こぼれ話(ココヤシとワニ)	図書館	石橋孝夫
	11/17	連続講座	石狩大学博物館(3) 石狩歴史文化学 ハマニンニクとアイヌの工芸テンキ	図書館	荒山千恵
	11/17	連続講座	石狩大学博物館(4) 石狩歴史学 開拓使時代の洪水対策	図書館	工藤義衛
	12/22-6/24	テーマ展	資料館のお宝 2013	資料館	
	12/22	体験講座	昆虫パラタクソノミスト養成講座(初級)in 石狩(1)	図書館	大原昌宏, 稲荷尚記 CISE・北大総合博物館共催
	12/23	体験講座	昆虫パラタクソノミスト養成講座(初級)in 石狩(2)	図書館	大原昌宏, 稲荷尚記 CISE・北大総合博物館共催
2013 (平成25)	2/24	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/14	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
	6/22	野外講座	地層と化石	古潭, 望来海岸	
	6/29～	体験講座	縄文土器復元講座		全3回

表 1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等 (その 5)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2013 (平成 25)	7/6	自然観察会	石狩川下流をさかのぼるツアー	はなますの丘公園, マクンベツ湿原, 豊平川合流点	資料館, 海浜植物セ, 札幌市, 博物館活動センター, 小樽市総合博物館
	7/13	体験講座	化石パラタクソノミスト養成講座 (初級) in 石狩	図書館	越前谷宏紀, CISE, 北海道大学総合博物館共催
	7/27	体験講座	テンキ作り～ハマニンニクで小かごを編む～	資料館	いしかり館ネットワーク事業, 石狩海浜植物セ共催
	8/17	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
	8/28-11/11	テーマ展	縄文の木の器	資料館	
	8/31	体験講座	ミニチュア「縄文の木のうつわを作ろう」	資料館	片岡祥光
	9/8	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	9/15	体験講座	サケ缶レプリカをつくって, サケの歴史をみよう	資料館	
	10/6	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学 2013	紀伊國屋書店 札幌本店	志賀健司, 有賀望, 石橋孝夫
	10/19	体験講座	鉱物パラタクソノミスト養成講座 (初級) in 石狩	図書館	松枝大治, CISE, 海道大学総合博物館共催
	10/27	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	
	12/21-3/30	テーマ展	資料館のお宝 2014	資料館	
	1/21-2/4	ミニ展示	縄文時代の木の道具～木の器～	図書館	
	1/25	連続講座	石狩大学博物学部 (1) 石狩海洋学 2012 年の海辺の異変	図書館	志賀健司
	1/25	連続講座	石狩大学博物学部 (2) 石狩民俗学 石狩川の主はどこにいる？	図書館	石橋孝夫
	2/1	連続講座	石狩大学博物学部 (3) 石狩考古学／縄文の木の器	図書館	荒山千恵
	2/1	連続講座	石狩大学博物学部 (4) 石狩歴史学／札幌の石狩鍋	図書館	工藤義衛
	3/2	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	4/20	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	石狩浜	
2014 (平成 26)	4/26-7/16	テーマ展	プロジェクト M: まちの魅力を見つけ出せ！～石狩の自然遺産・文化遺産をめぐる旅～	資料館	資料館 10 周年記念テーマ展
	5/30	演奏会	打楽器奏者茂呂剛伸演奏会	資料館	
	6/22	野外講座	地層と化石	望来, 厚田, 安瀬	
	7/19-8/31	展覧会	福岡幸一銅版画展 1 億年前の北海道のアンモナイトたち～アンモナイトの銅版画と化石の世界～	資料館, 図書館, 海浜植物セ, 石狩市役所ロビー	いしかり館ネットワーク 4 館合同展覧会
	7/19	体験講座	土器作り教室 (1)		
	7/26	体験講座	土器作り教室 (2)		
	7/26	体験講座	テンキ作り～ハマニンニクで小かごを編む～	資料館	
	7/27	ギャラリートーク	1 億年前の北海道のアンモナイトたち～化石からのメッセージ～	資料館	福岡幸一
	8/2	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
	8/9	体験講座	縄文のサケ漁をジオラマで作ろう (1)	資料館	全 2 回
	8/16	野外・体験	プロジェクト M: 自由研究応援！夏休み石狩ツアー	はなますの丘公園, 海浜植物セ	プロジェクト M 主催
	8/23	体験講座	縄文のサケ漁をジオラマで作ろう (2)	資料館	
	8/30	体験講座	勾玉づくり	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	9/6	体験講座	土器作り教室 (3)		
	9/10-11/30	テーマ展	川と人と漁ー遺跡にみる縄文の河川漁ー	資料館	資料館 10 周年記念テーマ展
	9/21	野外・体験	プロジェクト M: 浜益・海の魅力発見ツアー	川下, 毘砂別, 実田, 濃昼	プロジェクト M 主催
	10/18	野外講座	石狩湾岸サケをめぐるバスツアー	厚田キャンプ場, 古潭, 資料館, 石狩弁天社, 紅葉山 49 遺跡, 星見緑地	資料館, 海浜植物セ, 札幌市博物館活動センター, 小樽市総合博物館共催
	10/26	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	石狩浜	

表1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等(その6)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2014 (平成26)			ウミベオロジー／石狩海辺学 2014		
	11/29	トークイベント	「海辺なのに、水辺の生き物」 「北上する暖流系の貝たち」		山崎真実, 圓谷昂史
	12/20	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	12/25-4/13	テーマ展	資料館のお宝 2015	資料館	
	1/20-2/3	ミニ展示	縄文のサケ漁をジオラマで見よう	図書館	
	1/24	連続講座	石狩大学博物館部 (1) 石狩遺産学 自然遺産とエコミュージアム	図書館	志賀健司
	1/24	連続講座	石狩大学博物館部 (2) 石狩浜古銭学 蝦夷地の古銭	図書館	石橋孝夫
	1/31	連続講座	石狩大学博物館部 (3) 石狩考古学 縄文時代の河川漁	図書館	荒山千恵
	1/31	連続講座	石狩大学博物館部 (4) 石狩歴史学 「十文字家文書」から見た明治初期の石狩と札幌	図書館	工藤義衛
	2/21-3/9	ミニ展示	ひな祭りとお人形〜幸福と成長を祈って〜	資料館	
	3/1	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	石狩浜	
	3/28	講演会&談話会	プロジェクトM: エコミュージアムと石狩の可能性	図書館	津々見崇
	4/19	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/29-6/29	テーマ展	海辺のお宝? 石狩湾の蜃気楼	資料館	
	7/5	体験講座	縄文土器復元講座 (1)		
	7/11	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
2015 (平成27)	7/25	体験講座	テンキ作り〜ハマニンニクで小かごを編む〜	資料館	
	8/1	体験講座	縄文土器復元講座 (2)		
	8/2-9/7	テーマ展	石狩と戦争	資料館	
	9/5	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
	9/16-12/13	テーマ展	石で作った縄文文化の道具たち ー石狩紅葉山 49 号遺跡から出土した石器ー	資料館	
	10/3	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学 2015 ウミベで時を遡る	紀伊國屋書店 札幌本店	川上源太郎, 古沢仁
	10/10	体験講座	縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう	資料館	
	10/25	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物		極悪天候のため中止
	12/2-12/8	ミニ展示	縄文の暮らしをジオラマで見よう	図書館	
	12/5	講演会	石狩紅葉山 49 号遺跡から 縄文世界遺産へのメッセージ	図書館	小杉康
	12/19	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	12/23-4/11	テーマ展	いしかりのお宝 2016 ー資料館のお宝は皆のお宝ー	資料館	
	1/30	連続講座	石狩大学博物館部 (1) 石狩地球科学 なぜそこに坂があるのか	図書館	志賀健司
	1/30	連続講座	石狩大学博物館部 (2) 石狩漂着物学 浜辺の雑学辞典	図書館	石橋孝夫
	2/6	連続講座	石狩大学博物館部 (3) 石狩考古学 縄文文化の木と石の道具たち	図書館	荒山千恵
	2/6	連続講座	石狩大学博物館部 (4) 石狩歴史学 江戸時代の調査絵図を読む	図書館	工藤義衛
2016 (平成28)	3/6	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/24	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/28-5/30	テーマ展	絵はがきから観る戦前の石狩	資料館	
	7/16-9/4	テーマ展	海辺のホネ図解／ネズミイルカのすべて	資料館	
	7/23	体験講座	テンキ作り〜ハマニンニクを編む〜	資料館	
	7/31	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	8/6	体験講座	昆虫標本をつくる	資料館	山本亜生
	9/17	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
	9/21-11/23	テーマ展	石狩紅葉山 49 号遺跡の舟と櫓	資料館	
	10/1	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学 2016 イシカラベツとオタルナイ	紀伊國屋書店 札幌本店	仁科健二, 石川直章
	10/16	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物	石狩浜	
	10/29	体験講座	縄文の川とくらしをジオラマで作ろう	資料館	

表 1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等 (その 7)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2016 (平成 28)	11/1-11/3	ミニ展示	縄文のくらしと石器	図書館	
	11/3	講演会	縄文のくらしと石器 石狩紅葉山 49 号遺跡出土の石器使用痕分析からわかること	図書館	高瀬克範
	11/26	シンポジウム	プロジェクト M: 第 0 回! 石狩遺産シンポジウム	図書館	
	12/17	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	12/23-4/10	テーマ展	資料館のお宝 2017	資料館	
	1/28	連続講座	石狩大学博物学部 (1) 石狩地球科学 厚田古生物学	図書館	志賀健司
	1/28	連続講座	石狩大学博物学部 (2) 石狩考古学 縄文文化の舟と櫓	図書館	荒山千恵
	2/4	連続講座	石狩大学博物学部 (3) 石狩漂着物考古学 ヤシの実は本当に南からきたか?	図書館	石橋孝夫
	2/4	連続講座	石狩大学博物学部 (4) 石狩歴史学 弁天社の奉納物が語る隠された石狩の歴史	図書館	工藤義衛
	3/5	野外講座	石狩ビーチコーマーズ/冬の花の海の漂着物	石狩浜	
2017 (平成 29)	4/23	野外講座	石狩ビーチコーマーズ/春の花の海の漂着物	石狩浜	
	4/28-6/25	テーマ展	プラスチックの中の海辺	資料館	
	7/8-8/27	テーマ展	アリジゴク! ~石狩砂丘で生態を暴く~	資料館	
	7/22	体験講座	テンキ作り~ハマニンニクを編む~	資料館	
	7/29	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	8/5	体験講座	縄文文化のくらしをジオラマで作ろう	資料館	
	8/5	実演	研究成果の解説とエサやりなどの実演	資料館	札幌大通高校生物部
	8/11	実演	研究成果の解説とエサやりなどの実演	資料館	札幌大通高校生物部
	9/20-11/30	テーマ展	土器文様の不思議-石狩市内の遺跡から-	資料館	
	9/30	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
2018 (平成 30)	10/21	トークイベント	ウミベオロジー/石狩海辺学 2017 海辺に見える海の変化	紀伊國屋書店 札幌本店	三宅教平, 宮地鼓
	10/28	体験講座	縄文土器の文様を作ろう	資料館	
	10/29	野外講座	石狩ビーチコーマーズ/秋の花の海の漂着物	石狩浜	
	12/16	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	12/21-3-25	テーマ展	資料館のお宝 2018	資料館	
	1/27	連続講座	石狩大学博物学部 (1) 石狩考古学 土器文様の不思議	図書館	荒山千恵
	1/27	連続講座	石狩大学博物学部 (2) 石狩漂着物学 漂着したたたき棒は誰のものか?	図書館	石橋孝夫
	2/3	連続講座	石狩大学博物学部 (3) 石狩地球科学 石狩油田成因論	図書館	志賀健司
	2/3	連続講座	石狩大学博物学部 (4) 石狩歴史学 浜益地区幌集落の形成について	図書館	工藤義衛
	3/4	野外講座	石狩ビーチコーマーズ/冬の花の海の漂着物	石狩浜	
2019 (平成 31)	4/22	野外講座	石狩ビーチコーマーズ/春の花の海の漂着物	石狩浜	
	4/28-6/24	テーマ展	海辺のもぐもぐ博物館 ~歯型から見える海の生態系~	資料館	
	6/26-7/8	テーマ展	明治 2 (1869) 年渡道 中島家の 150 年	図書館	
	7/28	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	7/28-9/30	テーマ展	石狩油田のジオロジー	資料館	
	8/11	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
	9/29	トークイベント	ウミベオロジー/石狩海辺学 2018 石狩湾とニシン	紀伊國屋書店 札幌本店	浅野敏昭, 星野昇
	10/28	野外講座	石狩ビーチコーマーズ/秋の花の海の漂着物	石狩浜	
	12/15	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	1/9-3/31	テーマ展	資料館のお宝 2019	資料館	
2020 (令和 2)	1/26	連続講座	石狩大学博物学部 (1) 石狩海辺学 地球環境と海洋生物	図書館	志賀健司
	1/26	連続講座	石狩大学博物学部 (2) 石狩漂着物考古学 流れ着く徳利の産地をたずねる	図書館	石橋孝夫
	2/2	連続講座	石狩大学博物学部 (3) 石狩歴史学 A 厚田の龍神様	図書館	坂本恵衣

表1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等(その8)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2018 (平成30)	2/2	連続講座	石狩大学博物館(4) 石狩歴史学B 信仰から見た厚田の歴史	図書館	工藤義衛
	3/3	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/21	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/27-6/23	テーマ展	海プラ	資料館	
	7/13-9/1	テーマ展	石狩海月(くらげ)	資料館	
	7/20	体験講座	勾玉作り	資料館	いしかり砂丘の風の会主催
	8/3	体験講座	海辺の標本箱をつくる	資料館	
	9/14-10/28	テーマ展	海浜ホテルー海辺に消えたりゾートホテルー	資料館	
	9/28	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学 2019 海辺・ウミヘビ・龍神様	紀伊國屋書店 札幌本店	坂本恵衣, 徳田龍弘
	10/5	体験講座	サケ切身骨格標本をつくる	資料館	
2019 (平成31・令和元)	11/10	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物	石狩浜	
	12/14	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる	資料館	
	1/15-4/13	テーマ展	資料館のお宝 2020	資料館	
	1/25	連続講座	石狩大学博物館(1) 石狩地球科学 厚田・浜益火山学	図書館	志賀健司
	1/25	連続講座	石狩大学博物館(2) 石狩歴史学A 石狩浜の烽火台	図書館	工藤義衛
	2/1	連続講座	石狩大学博物館(3) 石狩歴史学B 巡るお坊さん	図書館	坂本恵衣
	2/1	連続講座	石狩大学博物館(4) 石狩歴史民俗学 旅する石たち	図書館	石橋孝夫
	3/1	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／冬の海辺の漂着物	石狩浜	※新型コロナウイルス感染症対策のため、開催中止
	3/15	体験講座	アイヌ文様ペンダント作り	資料館	※新型コロナウイルス感染症対策のため、開催中止
	4/19	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	※新型コロナウイルス感染症対策のため、開催中止
2020 (令和2)	5/28-7/12	テーマ展	ガラス乾板に残された百年前の石狩・花畔	資料館	
	7/18-8/30	テーマ展	石狩湾とウミガメ	資料館	
	9/4-10/5	テーマ展	石狩浜の百年記念塔	資料館	
	10/25	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物	石狩浜	
	1/4-3/31	テーマ展	資料館のお宝 2021 特別編 北生振の泥炭地と泥炭ストーブ	資料館	
	1/23	連続講座	石狩大学博物館(1) 石狩地球科学 石狩古地磁気学	総合保健福祉 センター	志賀健司
	1/23	連続講座	石狩大学博物館(2) 石狩考古学 縄文化の植物利用	総合保健福祉 センター	荒山千恵
	1/23	連続講座	石狩大学博物館(3) 石狩漂着物考古学 漂着物から考えたこと	総合保健福祉 センター	石橋孝夫
	1/30	連続講座	石狩大学博物館(4) 石狩歴史学A 昔の抜き書き～部類抄録	総合保健福祉 センター	坂本恵衣
	1/30	連続講座	石狩大学博物館(5) 石狩歴史学B 石狩浜の百年記念塔	総合保健福祉 センター	工藤義衛
2021 (令和3)	4/25	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/29-6/20	テーマ展	海岸林に妖精エビ現る!? キタホウネンエビ	資料館	※新型コロナウイルス感染症対策の臨時休館のため 5/15 終了
	7/4-8/29	テーマ展	石狩の北はどっち? チバニアン～北海道開拓期	資料館	※新型コロナウイルス感染症対策の臨時休館のため、 8/26 で終了
	10/24	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物	石狩浜	
	12/17-3/31	ぐなゑ展示 (ミニ展示)	沖縄に大量漂着した、福徳岡ノ場の軽石	資料館	
	1/29	連続講座	石狩大学博物館(1) 石狩生物学 海岸林妖精エビ論	花川北コミ	志賀健司

表 1. いしかり砂丘の風資料館が実施した展示・講座等 (その 9)

年度	実施日	種別	タイトル	場所	備考
2021 (令和3)	1/29	連続講座	石狩大学博物館 (2) 石狩歴史考古学 描かれたサケマス漁	花川北コミ	石橋孝夫
	2/2-3/31	テーマ展	資料館のお宝 2022 特別編 穴水コレクション	資料館	
	2/5	連続講座	石狩大学博物館 (3) 石狩地理学 石狩植物地名学	花川北コミ	荒山千恵
	2/5	連続講座	石狩大学博物館 (4) 石狩歴史学 安瀬神社の宝物	花川北コミ	坂本恵衣
	2/5	連続講座	石狩大学博物館 (5) 石狩考古学 縄文人と土器の文様	花川北コミ	工藤義衛
2022 (令和4)	4/17	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/29-7/4	テーマ展	今夜のオカズを標本に、 ～おうちミュージアム石狩コンテンツ～	資料館	
	7/13-9/4	テーマ展	安瀬神社の宝物	資料館	
	9/21-11/21	テーマ展	発掘された石狩の遺跡	資料館	
	10/23	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物	石狩浜	
	1/7-3/31	テーマ展	資料館のお宝 2023	資料館	
	2/11	連続講座	石狩大学博物館 (1) 石狩生物学 オカズ骨格標本論	花川北コミ	志賀健司
	2/11	連続講座	石狩大学博物館 (2) 石狩考古学 発掘された石狩の遺跡	花川北コミ	荒山千恵
	2/18	連続講座	石狩大学博物館 (3) 石狩民俗学 生き物の伝説と信仰	花川北コミ	坂本恵衣
	2/18	連続講座	石狩大学博物館 (4) 石狩歴史学 ここまで判った！石狩小学校円形校舎	花川北コミ	工藤義衛
2023 (令和5)	4/23	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物	石狩浜	
	4/29-6/19	テーマ展	石狩の "japan" - 漆 -	資料館	
	7/1-9/3	テーマ展	フライドチキンの骨に〇〇が見える	資料館	
	7/29	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる (除肉編)	資料館	
	8/5	体験講座	フライドチキン骨格標本をつくる (組立編)	資料館	
	9/20-11/3	テーマ展	漂着物の考古学	資料館	
	10/22	トークイベント	ウミベオロジー／石狩海辺学 2023 一札幌に一番近いウミベのヒミツ	紀伊國屋書店 札幌本店	松島 肇, 高橋恵美
	10/29	野外講座	石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物	石狩浜	
	1/10-3/31	テーマ展	資料館のお宝 2024	資料館	
	2/3	連続講座	石狩大学博物館 (1) 石狩歴史学 石狩の運上屋について		工藤義衛
	2/3	連続講座	石狩大学博物館 (2) 石狩民俗学 石狩市内の宗教施設 1 旧石狩市域の神社分布		坂本恵衣
	2/10	連続講座	石狩大学博物館 (3) 石狩考古学 漂着物の考古学		荒山千恵
	2/10	連続講座	石狩大学博物館 (4) 石狩海辺学 石狩海岸の地球科学		志賀健司

いしかり砂丘の風資料館紀要 投稿規定

■本紀要の目的

- ・石狩の自然と歴史を解明し、記録して残すこと。
- ・記録された成果を広く、永続的に公開し、学術の発展および市民による研究活動に供すること。

■原稿の内容

石狩(北海道石狩市とその周辺地域)に関わる自然や歴史、あるいは博物館に関する調査・研究、資料や標本の収集成果等について、論理的にまとめたもので、オリジナルな内容に限ります。

※本紀要は査読制ではありませんが、原稿の内容・体裁が本紀要への掲載に適切かどうか、編集担当者が検討させていただきます。必要に応じて修正をお願いすることがあります。

■原稿の種類

- ・論説 投稿者自身によるオリジナルで未公表の研究成果をまとめたもの。
- ・報告 調査・研究の過程で得られたオリジナルなデータ等の報告、新事実の簡単な報告など。
- ・資料 博物館資料、標本等に説明をつけたものなど。

■原稿の構成

- (1) 題名：日本語と英語を並記。
- (2) 著者名：日本語と英語を並記。連絡先を明示する(所属先あるいは自宅等の住所)。
- (3) 要旨：日本語で400字以内。英語を並記してもよい。論説以外では省略してもよい。
- (4) キーワード：日本語で5語以内。英語を並記してもよい。
- (5) 本文：原則として日本語。横書き。句読点は「,」「.」を用いる。
- (6) 引用文献：本文、図表等の中で引用した文献のみを、著者名のアルファベット順で記す。
- (7) 図・表等：原則として白黒で印刷(提出する画像はカラーで可)。簡潔な説明文を付ける。

※原稿の詳細な形式については、編集担当者にお問い合わせください。

■投稿資格

石狩の自然や歴史について調査・研究している方であれば、誰でも投稿できます。所属、職業、居住地等は問いません。

■投稿の際の注意

- ・投稿の前に、構想段階で、必ず編集担当者にご相談ください。
- ・内容の正確さについては、著者自身で責任をもって、十分に検討してください。
- ・題名や本文等の文字情報は、テキスト形式もしくはWord形式の電子ファイルで提出してください。
- ・図や写真は、十分な解像度をもった原版もしくは電子ファイル(一般的な画像形式もしくはPDF形式)で提出してください。原稿をWordで作成した場合も本文とは別に画像ファイルを提出してください。
- ・環境依存文字の使用は避けてください。
- ・別刷をご希望の方は、費用は著者負担とさせていただきます。ご了承ください。

■投稿先・連絡先

いしかり砂丘の風資料館 紀要編集担当(志賀)

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

電話 0133-62-3711

mail bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

いしかり砂丘の風資料館 紀要

第 14 巻

2024 年 8 月 31 日発行

編集・発行 いしかり砂丘の風資料館

(石狩市教育委員会 社会教育部 文化財課)

〒 061-3372 北海道石狩市弁天町 30-4

電話 0133-62-3711

mail bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

印刷 (有)日孔社

© いしかり砂丘の風資料館, 2024

無断転載を禁じます

BULLETIN OF THE ISHIKARI LOCAL MUSEUM

Volume 14

CONTENTS

Reports

- Shiga, K.** : A horse tooth found on Morai Beach, eastern coast of Ishikari Bay,
Hokkaido, Japan ...1
- Sakamoto, K.** : Distribution of shrines in Ishikari City, Hokkaido, Japan (1)
【Former Ishikari City region】 ...7
- Arayama, C.** : Report on the theme exhibition “Driftage archaeology” held in 2023;
Driftage archaeological artifacts on Ishikari beach and estuary of Ishikari river ...15
- Shiga, K.** : Stranding records of "*Ruttsu*", *Urechis unicinctus* in Hamamasu, central Hokkaido,
Japan ...21
- Ishibashi, T.** : General survey report on "*Chashi* place names" and *chashi* in Okasima ,
Hamamasu-ku, Ishikari City, Japan ...25
- Ishibashi, T.** : General survey : What kind of mountain is "Koganeyama" in Hamamasu-ward,
Ishikari City? ...43
- Kawai, T., Kuribayashi, T.** : Dynamics of nutrients in the kelp forest in Atsuta, Ishikari,
during the autumn season ...55
- Naito, H.** : Report of *Ocypode stimpsoni* Ortmann (DECAPODA) found in Ishikari coast ...61

Materials

- Arayama, C.** : The poem from RYOGAI to MATSUMOTO Juro, framed writing on silk ...65

Record

- Sakamoto, K.** : 20 years of ISHIKARI LOCAL MUSEUM ...69